

平成 20 年度

佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書

平成 21 年 4 月

大学教育委員会

FD 専門委員会

はじめに

佐賀大学「学生による授業評価」の実施は平成20年度で9年目を迎えます。平成18年度後学期からは大学院の授業科目も含め、全ての授業科目で授業評価アンケートを実施することとなりました。その結果、本年度は学部における実施率は89%となり、研究科でも79%に達するまでになりました。この実施率は授業評価アンケートを行うことが当然であるとする教員が約9割に達したことを示しています。この数値はアンケート実施開始時から比べると大きく増加しており、FD活動に対する教員の意識が高まっていることを表しています。

本学は昨年度より授業評価結果を用いた授業改善を実施するために、各学部等に組織別授業評価を行うことを義務付けてきました。各学部は、評価の高かった科目の選考や授業改善への取り組み状況、次年度へ向けた授業改善の目標などを大学教育委員会に報告するようになっていました。また、各教員には個別授業点検・評価報告書の提出が義務づけられました。このように授業評価・改善に関するシステムはほぼ整いましたが、必ずしも活かされているとは言い切れません。今後の課題は、このシステムを実質的に活用することです。

平成20年4月からは学部教育においてFDの義務化がはじまり、大学教育は大きな局面を迎えています。従来のようにアンケートさえ行っていれば良いと言うことではなく、如何にその結果を活用しているのかが大学評価の焦点となりつつあります。各部局および教員が各報告書を多方面から解析することにより、FD活動に生かされることを希望します。

本学の教職員の方々には今まで以上にご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

国立大学法人 佐賀大学 大学教育委員会委員長

田代洋丞

目次

はじめに	1
目次	2
I. 経過	4
II. 実施状況	6
III. 授業評価アンケートの結果と分析	
III-(1) 学部等別の結果と解析	1 1
III-(2) 研究科別の結果と解析	2 3
III-(3) 授業内容及び授業方法, 教員の対応と満足度の関係	3 3
III-(4) ネット授業の結果と解析	4 1
III-(5) 学生から高い評価を得ている授業科目の選定基準	4 4
IV. 授業改善の取り組み状況に係る優れた点及び改善を要する点	4 7
V. 次年度の授業改善目標	5 5
おわりに	5 9
資料1 佐賀大学学生による授業評価実施要領	6 0
資料2 授業評価結果を用いた授業改善実施要領	6 1
資料3 学生による授業評価アンケート様式	6 3
資料4 共通様式以外のアンケート様式	6 5
資料5 ネット授業アンケート様式	6 8

資料6	項目の基礎集計表	76
資料7	教員，授業科目別アンケート集計様式（レーダーチャート）	90

I. 経過

佐賀大学では平成12年度前学期の「学生による授業評価」の試行的実施を経て、同年度の大学教育委員会で承認された「授業評価実施要領」に基づき平成13年度より本格導入に至っている。さらに佐賀医科大学との統合後には、佐賀大学大学教育委員会(平成15年11月26日開催)で「学生に対する授業評価システムに対応する専門委員会」の設置が承認され、継続的に実施する体制が整えられた。法人化後の平成17年度には「授業評価実施要領」を一部改訂し、従来の教員による選択的実施を改め、講義科目(演習, 実験, 少人数ゼミを除く)を対象に共通アンケートによる100%の実施を目標に活動を続けてきた。しかしながら、実施率は低迷を続け抜本的な改革が必要と考えられ、翌平成18年度後学期より全ての授業科目(大学院も含む)を対象に授業評価を実施することが定められた「佐賀大学学生による授業評価実施要領」(平成18年10月1日施行)(資料1)が新たに制定された。この「佐賀大学学生による授業評価実施要領」(以下、授業評価実施要領とする)は実施基準を各学部等が設定できる点が特筆される。すなわち、少人数クラスや複数担任の科目では共通アンケート様式にはそぐわないため、独自に用意したアンケートを用いることを可能としている。そのため佐賀大学の全ての授業科目において基本的に共通アンケートもしくは独自アンケートによって学生の意見を聴く機会が設けられていると言えよう。また、アンケート結果の教員へのフィードバックについても全学平均や学部平均との比較をレーダーチャートに示し、自らの授業改善に活かせるような工夫が施された。さらに、「授業評価結果を用いた授業改善実施要領」(平成18年12月22日施行)(資料2)が制定され、この授業評価アンケート結果に基づき、各教員は自らの授業の改善点について授業点検・評価報告書を提出することが義務づけられた。一方、この授業評価アンケートと並行に学生対象アンケートも実施され、佐賀大学の教育目的、施設、教育システム全般にわたって広く学生の声を取り入れようとする試みも行われた。さらには教員対象アンケートや卒業生対象アンケートも実施され、佐賀大学における教育活動を多面的に分析する準備を整備しつつある。

本報告では平成20年度に実施した授業評価アンケートの結果および授業評価結果を用いた授業改善実施要領(以下、授業改善実施要領とする)に基づいた佐賀大学の授業改善への取り組みについて述べる。なお、医学部およびeラーニ

ングで受講するネット授業については、授業形態の差異に配慮し独自の様式を用いた。

II. 実施状況

平成20年度に佐賀大学で行われた授業評価は共通のアンケート用紙を用いて行っており、共通様式を用いない授業評価の実施も認めている。そこで、授業評価アンケートの結果を述べる前にアンケートの実施方法及び実施状況について示す。

まず、授業評価アンケートの種類について述べる。本年度に実施した授業評価アンケートは以下の4つに大別される。

- 1) 授業評価アンケート（共通様式）（資料3）
- 2) 個別授業評価アンケート
- 3) 医学部授業評価アンケート（資料4）
- 4) ネット授業アンケート（資料5）

このうち本報告書では1)、3)と4)のアンケート結果について取り扱う。医学部は統合前の佐賀医科大学時代から先進的なFD活動を展開しており、授業評価アンケートも科目種毎に分けて通年で実施し、詳しい解析が行われているので本報告では共通様式の授業評価アンケートと同じ内容のみ述べる。ネット授業は授業形態が異なるため質問内容が異なっているため別項とし、概要をまとめ解析を行った。

次に、本年度の授業評価の実施率について述べる。表1に部局毎の実施率をまとめた。集計は2月末時点であるので、3月に行われている集中講義や実習科目に関してはアンケートを行っているもののこの一覧表には反映できていない。共通アンケート用紙を用いていない授業評価アンケート（つまり、独自形式アンケート）の実施率も示している。独自形式アンケートは受講者が極端に少ない場合や複数の教員が担当している場合など、マークシート方式の共通アンケートにはそぐわない場合に実施する授業評価と位置づけられている。科目としては少人数での実験、教育実習、ゼミなどが該当すると考えられる。実施数の多い部局は経済学部、理工学部、教養教育運営機構と経済学研究科、工学系研究科であった。学部での実施率は医学部の100%が最も大きく、科目数では136科目に達する。また、大学院でも医学系研究科の実施率が高く95%に達している。医学部は科目の授業形態毎にアンケート項目の設定を変えており、本庄地区で実施されている共通アンケートよりも細やかな配慮がみてとれる。なお、共通アンケートを使用している部局では全学期で理工学部の93%が最高で、大学院でも工学系研究科が88%と高い実施率を示している。

表1 部局別の授業評価アンケート実施率(独自形式アンケートは除く)。

	平成 20 年度前学期			平成 20 年度後学期		
	実施数	対象数	実施率	実施数	対象数	実施率
文化教育学部	394	457	86	431	463	93
経済学部	114	150	76	127	182	70
医学部				136	136	100
理工学部	224	250	90	274	287	95
農学部	94	122	77	99	110	90
教養教育運営機構	363	412	88	288	345	83
全体	1189	1391	85	1355	1523	89
教育学研究科	66	86	77	108	153	71
経済学研究科	13	26	50	18	33	55
医学系研究科				126	132	95
工学系研究科	107	114	94	182	213	85
農学研究科	38	48	79	60	96	63
全体	224	274	82	494	627	79

表のデータは期限内に提出された数値を記載している。
 通年の講義については後学期に含めている。

表2 部局別の独自形式アンケート実施率。

	平成 20 年度前学期			平成 20 年度後学期		
	実施数	対象数	実施率	実施数	対象数	実施率
文化教育学部	0	457	0	0	463	0
経済学部	32	150	21	35	182	19
医学部						
理工学部	4	250	2	6	287	2
農学部	0	122		0	110	
教養教育運営機構	8	412	2	9	345	3
全体	44	1391	3	50	1523	3
教育学研究科	0	86	0	0	153	0
経済学研究科	8	26	31	1	33	3
医学系研究科						
工学系研究科	5	114	4	16	213	8
農学研究科	0	48	0	0	96	0
全体	13	274	5	17	627	3

個別授業評価に係わる情報が一切無い授業科目名

「授業評価実施要領」によれば、共通アンケートもしくは独自形式アンケートによって全ての科目の授業評価を実施することが定められている。しかしながら、現実にはこれらの授業評価アンケートを実施していない授業科目が存在する。「授業改善実施要領」に基づき、各教育組織から提出のあった個別授業評価に係わる情報が一切無い授業科目名を以下に掲載する。今後、各教育組織には以下に示した授業科目数を少なくすべく適切な対応が望まれる。

なお、医学部・医学系研究科については授業評価実施要領および授業改善実施要領に該当していないために掲載していない。ただし、表2に示すように実施していない科目は少なく、学科長が個々の教員に授業評価についてコメントする取り組みが行われており、医学部以外の学部よりも授業改善についての取り組みは進んでいる。

<文化教育学部>

幾何学領域研究Ⅰ，情報ネットワーク論Ⅰ，資格英語Ⅰ，保健体育教育学演習，幾何学領域研究Ⅰ，体育科教育課題研究Ⅰ，スポーツ経営学，スポーツⅡA3，プラトン哲学Ⅰ，技術教育学，情報メディア論，地学巡検，技術科教育法Ⅰ，電気数学，総合演習，総合演習，総合演習，マルチメディアを用いた図形処理，フィールド生物学，地学巡検，総合演習，総合演習，日本社会経済史，地学基礎実験Ⅱ，総合演習，住環境材料工学，応用木工工芸実習，地学基礎実験Ⅰ，教育学講読演習，教育学研究法，社会教育実習，情報社会と倫理，教育測定法，大脳生理学，地学通論Ⅱ，プログラミング演習Ⅰ，地学通論Ⅰ，英文学演習Ⅴ，健康福祉スポーツボランティア活動，ヒューマンエレクトロニクスⅠ，情報科教育法Ⅰ，日本語史演習Ⅰ，日本画，ヘルスプロモーション実習Ⅰ，スポーツB2演習，木工工芸，視聴覚教育，運動処方，応用デザイン，特別活動の研究，現代教育論，教育方法学概説，環境科学特別講義，スポーツA4演習，ドイツ文化論Ⅰ，中等家庭科教育法Ⅱ，障害児教育特殊講義，ドイツ文学，総合演習，服飾文化論，職業指導，金工工芸，スポーツ行政，幾何学研究基礎，計算機シミュレーション，ドイツ語表現論，ピアノ課題研究，ヒューマンエレクトロニクス実験，幾何学領域研究Ⅱ，専門教育外国語Ⅱ，体育科教育課題研究Ⅱ，国語教育学演習，専門教育外国語Ⅱ，体育科教育課題研究Ⅱ，哲学要論Ⅲ，電気基礎実習，ピアノⅣ，岩石鉱物学，技術科教育法Ⅱ，専門教育外国語Ⅱ，中国

語学演習Ⅱ，異文化理解Ⅱ，教育制度論，専門教育外国語Ⅱ，ピアノⅡ，フランス文学史，学習心理学，社会科教育課題研究Ⅱ，社会科教育学演習，日本語史，倫理学演習Ⅱ，専門教育外国語Ⅱ，教育学課題研究，社会保障論Ⅱ，心理学研究法，学校・学級経営論，日本語史演習Ⅱ，臨床教育学，博物館実習，社会福祉援助技術現場実習，社会福祉援助技術現場実習指導，地学通論Ⅲ，地学通論Ⅳ，物理学通論Ⅱ，スポーツ工学，ヘルスプロモーション実習Ⅱ，中等理科教育法Ⅲ，中等理科教育法Ⅵ，専門教育外国語Ⅱ，スポーツⅠC1，保育内容の研究，乳幼児心理学，国際文化概論，初等社会科教育法Ⅱ，体育科教育法Ⅰ，中等家庭科教育法Ⅲ，応用木工工芸実習，情報と職業，高齢化と生涯教育，応用木工工芸，陶磁特別演習Ⅱ，木工工芸概論，木工工芸，衛生・公衆衛生学，健康教育概論，特別活動の研究

23科目（履修者数0）

<経済学部>

基礎簿記，国際経済社会入門，総合政策入門，法務管理入門，外書講読，国際交流実習，理論経済学Ⅱ，経済学原論Ⅱ，経済学史Ⅰ，経済学史Ⅱ，国際経済論Ⅰ，国際経済論Ⅱ，国際経済論Ⅲ，日本経済史Ⅰ，西洋経済史Ⅰ，西洋経済史Ⅱ，基本統計学Ⅱ，特殊講義(野村證券提供)，実践経済学(実地研修)，地域モデル論，地域システム論，特殊講義(The Role of Japanese Economy in the Pacific Rim)，理論経済学Ⅰ，会計学原理，経営労務論，経営社会学，法学概論Ⅱ，行政救済法，民法総則，特殊講義(破産法)，特殊講義(刑事訴訟法Ⅱ)，特殊講義(消費者法)，日本史要説，西洋史要説，情報基礎

<理工学部>

技術英語，測量学実習Ⅱ

(3科目:演習のため他の講義と合同で実施、期間外の集中講義)

<農学部>

畜産物利用学，協同組合経営分析演習，園芸工学実験実習Ⅰ，実験地圏環境学Ⅰ，生物学基礎実験，生産システム設計論，物理学実験，熱帯農学総合実習，農学概論，地域資源論，昆虫学実験Ⅰ，フィールドワーク基礎演習，環境化学，国際環境農業論，インターンシップ，アジアフィールドワーク，実験地圏環境学，

微生物学，微生物学実験，生産システム設計論II，専門外書講読（74503100），農業生産機械学，科学英語（74030200），生産情報管理学，生産システム実験実習II，遺伝資源フィールド科学実習，観光人類学，地域資源学演習II，環境科学演習（分野演習），化学実験I

<教養教育運営機構>

大学入門科目（12クラス），ことばの成り立ちと構造（日本語の歴史），コミュニケーションの諸相（ディベート），文学の諸相（アイルランド文化論），論理と思考I，人間学III，韓国・朝鮮学入門，境界を生きる文化，食品の科学（食品栄養学），食生活と健康（肥満と脂質代謝），人類学，生態人類学，社会生活行動支援概論，エレクトロニクスの歴史，ワインは微生物の贈り物ー発酵のはなしー，病原体のはなし，水素エネルギー社会，医用エレクトロニクスのはなし，知的財産学，ドイツ語（3クラス），情報基礎概論（2クラス），情報基礎演習I（6クラス），情報基礎演習II（2クラス）

<教育学研究科>

英語教育課題研究，学校教育課題研究，国語学特論I，実践授業研究，実践授業研究，実践授業研究，実践授業研究，実践授業研究，植物分類生態学特別演習，日本史特別演習A，比較生理学特論，美術・工芸課題研究，保健体育課題研究，法律学特別演習A，理科課題研究，理科課題研究A，倫理学特別演習，英語課題研究，英語教育課題研究，英米文学特別演習II，英米文学特論IB，幾何学特論II，技術教育課題研究，社会科教育課題研究（社会・公民），社会科教育学特論II（社会・公民），中日比較文学特別演習，美術教育課題研究，保育学特別演習，保健体育課題研究，保健体育課題研究，英米文学特論IA，感覚系障害者生理学・病理学研究，工芸教育特別演習，社会科教育学特別演習II（社会・公民），美術・工芸課題研究，美術教育教材特別演習，病弱者・情緒障害者生理学・病理学研究，保健体育教育課題研究，デザイン特別演習，運動学特別演習，工芸教育教材特論，肢体不自由者生理学・病理学研究，知的障害者生理学・病理学研究，中日比較文学特論，美術教育特論，運動生理学特論，学校保健特別演習I，健康運動実践方法学特論I，実践授業研究，日本教育史特論，保健体育教育学特別演習II，運動学特論，健康運動実践方法学特別演習I，実践授業研究，法律学特論AI，運動方法学特論I，法律学特論AII，教育法制

特論，実践授業研究，社会科教育学特論I（社会・地歴），教育方法学特別演習，学校・学級経営学特別演習，学校・学級経営学特論，宇宙物理学特論，教育哲学特論，健康生理学特論，体育学特論II

8 5 科目（履修者数 0）

<経済学研究科>

演習II，行政基礎法研究II，実用外国語，金融経済論研究，基礎研究I（金融・経済政策），企業福祉法研究，簿記論研究，実用外国語，国際通貨システム研究，環境法研究II，民法研究I，基礎研究I（企業経営），法と経済研究，基礎研究I（金融・経済政策），地域政治研究，公共財政論研究II，農業経済論研究，基礎研究I（企業経営），西欧産業社会構造分析研究，比較経済思想研究，総合セミナー，開発経済学研究，現代労使関係研究II，応用計量経済分析研究，財務会計論研究，地域農業政策研究，景気変動論研究，産業政策論研究，基礎研究II（金融・経済政策），基礎研究II（企業経営）

<工学系研究科>

高エネルギー物理学II，超短波光利用科学技術工学特論，マイクロ波集積回路特論，電気電子工学修士実験，プロジェクト演習，Ad. Structural Eng.，構造工学特論，Applied Structural Eng.

（5 科目：履修者 0）

<農学研究科>

Advanced Soil Microbiology（土壌学特論），Advanced Soil Zoology（土壌動物学特論），利水情報工学特論，微生物遺伝学特論，栄養化学特論，アグロサイエンス特論，微生物学特論，Advanced Ecology of Resource Plants（資源植物生態学特論），Advanced Agricultural Environmental Econ.，Advanced Food Biochemistry（食品生化学特論），Advanced Molecular Biology（生物分子論特論），作物生態生理学特論，水資源計画学特論，農業経済政策特論，生産システム工学特論，農産機械学特論，海洋生物資源化学特論，生産生物学特別演習，生産システム情報学特別演習，生産情報工学特別演習，資源社会管理学特別演習，アグロサイエンス特別演習

Ⅲ 授業評価アンケートの結果と分析

平成20年度に佐賀大学で実施した授業評価アンケートは4種類ある。独自形式アンケートに関しては統計処理を行うのに適していないため、ここでは共通様式授業評価アンケート(Ⅲ-(1),(2),(3))、医学部授業評価アンケート(Ⅲ-(1))およびネット授業アンケート(Ⅲ-(4))についてのみ取り扱うものとする。

また、分析するアンケート項目は授業評価アンケートのもののみとして、医学部授業評価アンケートに準ずる項目が設定されている場合についてのみ言及することとする。なお、医学部は前学期、後学期とする学期制ではなく、フェーズに分けた期間を用いているため年間結果を用いた。ただし、科目毎にアンケート様式が若干異なるので講義科目、実習科目、PBL科目とそれらを総合した全科目に分けて表示した。

Ⅲ-(1) 学部等別の結果と解析

A. あなた自身について

A-1 出席率はどのくらいですか

図1に出席率に対する学生の回答を示す。前学期と後学期では全体的な傾向に差は認められないが、後学期に若干低下する。農学部の学生が最も高い出席率を回答しており、理工学部、文化教育学部、教養教育運営機構、経済学部の順に出席率が低下する傾向が認められる。特に経済学部では前学期の出席率が80%以下と回答した学生が学部学生の20%であるが、後学期では出席率は高くなっている。一方、理工学部、文化教育学部、教養教育運営機構では後学期の出席率が低下している。医学部では実習科目において出席率が高いものの、講義科目やPBL科目では出席率が低くなる傾向がある。特にPBL

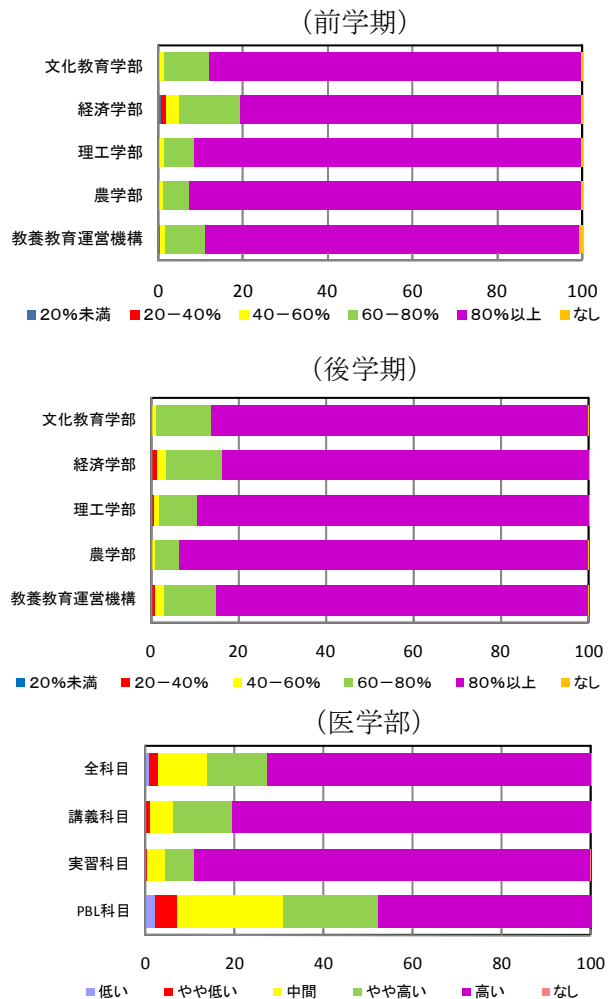


図1 「出席率はどのくらいですか」に対する回答

科目では50%ちかくの学生が低い～中間と回答している。

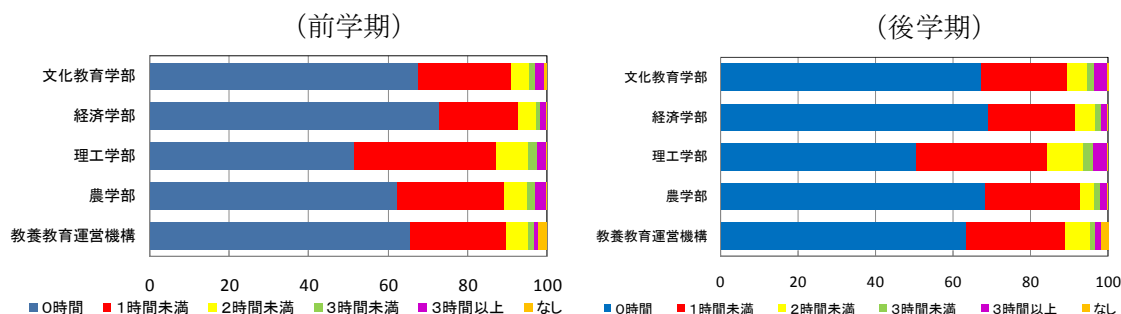


図2 「予習を毎週どの程度していますか」に対する回答

A-2 予習をどの程度していますか

図2に予習時間についての回答結果を示す。前学期では予習時間を0時間と回答した学生の比率は経済学部で最も多く73%に達しているが、後学期では経済学部、農学部、文化教育学部で70%近くの比率を示しており、理工学部のみが50%程度となっている。この傾向は平成18および19年度のアンケート結果とほぼ同様である。一方、3時間以上の予習をしていると回答した学生の比率は前学期においては農学部(3.1%)、理工学部(2.6%)、文化教育学部(2.5%)、経済学部(1.4%)、教養教育運営機構(1.3%)の順に減少する。後学期では、理工学部(3.9%)、文化教育学部(3.2%)、農学部(1.9%)、経済学部(1.7%)、教養教育運営機構(1.5%)の順であった。ここで興味深いのは、前学期に比して後学期の方が3時間以上の予習を行う学生の比率が農学部以外の学部で増加している点である。

A-3 復習をどの程度していますか

この質問項目に関しては医学部授業評価アンケートにも該当するので図3に併せて示す。該当項目は医学部授業評価アンケートの「復習や関連事項の自己学習の程度」である。毎週の復習時間が0時間と回答した学生の比率が前学期・後学期ともに60%を超えている組織として経済学部、教養教育運営機構、文化教育学部があげられる。理工学部では復習時間を0時間と回答した学生の比率は前学期・後学期ともに40%以下であり、農学部では前学期は45%、後学期は54%となっている。3時間以上と回答した学生の比率は理工学部が大きくなっている。この傾向は平成19年度のアンケート結果と同じである。医学部では実習科目において復習や自己学習を行った比率が大きく、PBL科目や講義科目では比率がやや低くなる傾向が認められる。

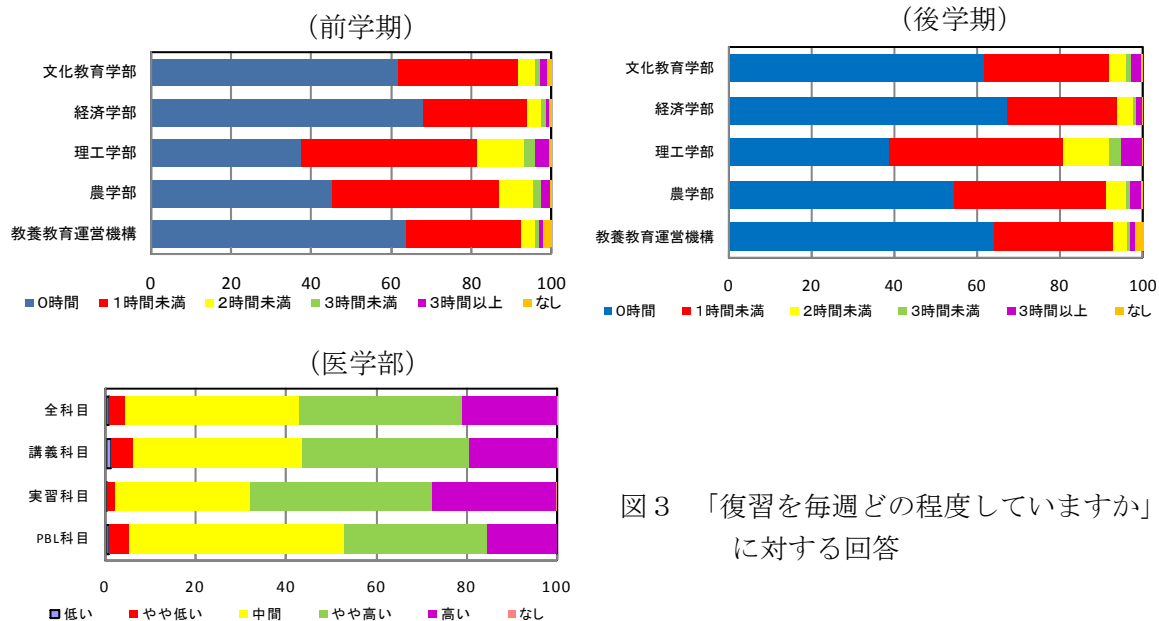


図3 「復習を毎週どの程度していますか」に対する回答

A-4 この授業の学習目標を把握している

大学教育においては教育の質の向上を図り、努力することが義務づけられてきた。その指標のひとつとして受講者に学習目標を把握させているか否かが問われている。

図4にその結果を示す。前学期では「全く把握していない」、「把握していない」などの否定的回答の比率は教養教育運営機構、理工学部、経済学部で高く、農学部や文化教育学部で低い傾向がある。この傾向は後学期も同様であるが比率は小さくなっている。逆に「少しは把握している」、「完全に把握している」などの肯定的意見の比率は文化教育学部で高く70%近くに達している。次いで農学部が高く、経済学部、教養教育運営機構、理工学部で50%以上の比率を示

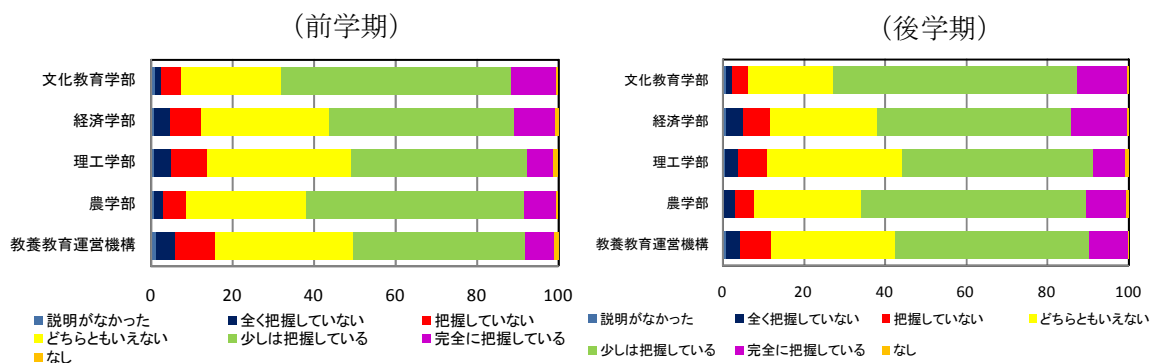


図4 「この授業の学習目標を把握している」に対する回答

している。この比率は後学期で高くなっている。

A-5 この授業の成績評価基準を把握している

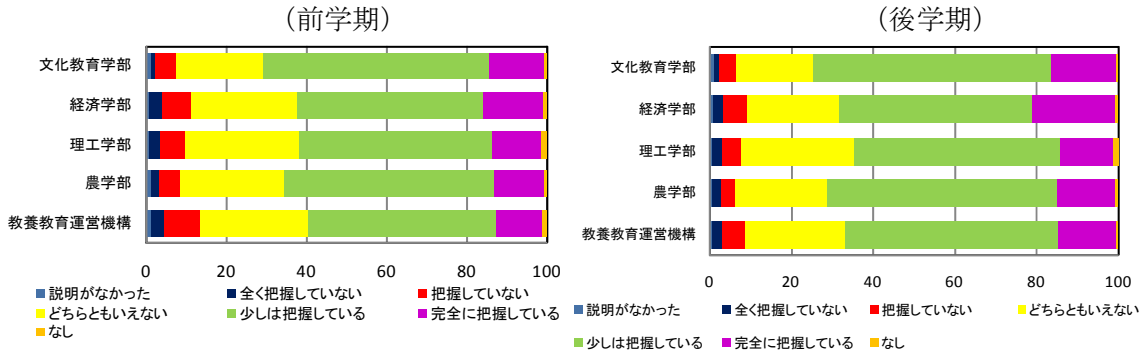


図5 「この授業の成績評価基準を把握している」に対する回答

この項目も大学の教育として当然達成しているものとして設けられたものである。図5に結果を示す。科目毎に尋ねているため、より高い精度での回答であると考えられる。前学期では「全く把握していない」、「把握していない」とする学生の比率は教養教育運営機構と経済学部でやや高くなっている。逆に「少しは理解している」、「完全に理解している」は文化教育学部で70%に達しているが他学部でも60%以上はあり、高い周知度を示している。後学期では「全く把握していない」、「把握していない」の比率が全学部および教養教育運営機構で低下した。これは、教員によるシラバスの周知が浸透し、後学期には学生もシラバスを見るようになったためと考えられる。

B. 授業内容及び授業方法

B-1 この授業の内容は理解できる

この項目は医学部授業評価アンケートの「授業内容の習得、理解度」に該当する。結果を図6に示す。前学期と後学期では傾向に大きな差は認められないが、前学期で、「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的回答の比率は理工学部が最も高く、経済学部、教養教育運営機構、農学部、文化教育学部と徐々に比率は低くなる。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は逆に文化教育学部、経済学部＝教養教育運営機構、農学部、理工学部の順に低くなる傾向が認められる。特に、理工学部では約50%と低い値になっており、改善の必要がある。後学期でもこの傾向はほとんど変化しない。医学部では実習科目で理解度が高く、講義科目、PBL科目の順に理解度が減少する傾向が認められる。

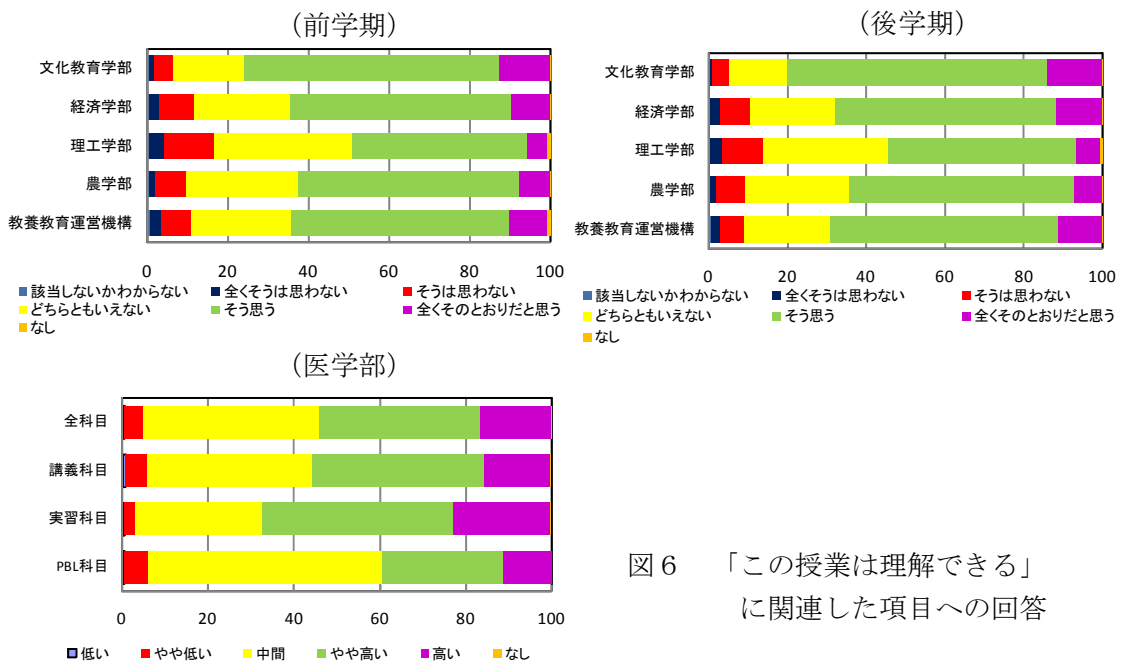


図6 「この授業は理解できる」に関連した項目への回答

B-2 この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた

この質問項目に該当する医学部授業評価アンケートは「授業内容に対して抱いた興味の程度」である。それぞれの回答結果を図7に示す。

前学期と後学期に見られる傾向には大きな差異は認められない。「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的回答の比率は理工学部で最も高く、

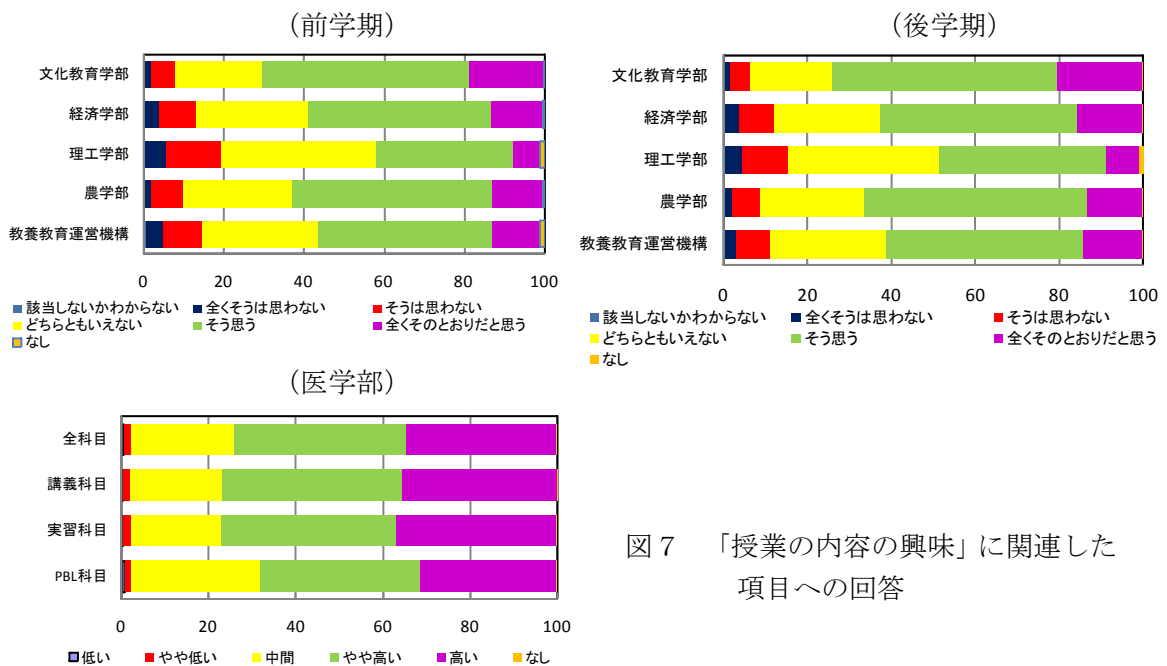


図7 「授業の内容の興味」に関連した項目への回答

経済学部 ≈ 教養教育運営機構，農学部，文化教育学部の順に低くなる傾向がある．この傾向は平成19年度のアンケート結果と同じである．逆に「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の比率は文化教育学部で最も高く70%近くに達している．次いで農学部，経済学部，教養教育運営機構，理工学部の順に比率が小さくなる傾向にある．特に理工学部では肯定的意見の比率が50%を下回っており，改善の必要がある．

医学部授業評価アンケートでは「低い」，「やや低い」とする否定的意見の比率は全科目において他学部より低く，また「やや高い」，「高い」の占める割合は実習科目および講義科目で70%を超えており，評価できる．

B-3 黒板・ホワイトボード，スライド等の使い方が効果的である

この質問項目の回答結果を図8に示す．この項目に関しても前学期と後学期では大きな差は認められない．「全くそうは思わない」，「そうは思わない」などの否定的な回答の比率は理工学部や経済学部で高く，教養教育運営機構，農学部，文化教育学部でそれらに比して低い値を示している．なお，部局間の差は後学期では小さくなっている．他の質問項目に比べて「該当しないかわからない」の比率が高くなっている．一方，「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合は農学部，文化教育学部で高く50%程度に達しており，経済学部，教養教育運営機構がそれに続いている．最も割合が低いのは理工学部であった．

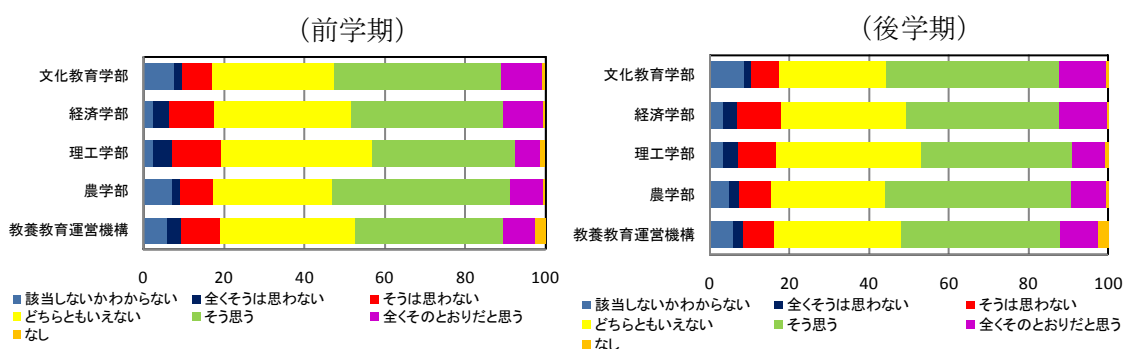


図8 「黒板、OHP等の使い方が効果的であった」に対する回答

B-4 教材(テキスト, 配布資料, その他)はわかりやすかった

この質問項目の回答結果を図9に示す．前学期，後学期を通して「そう思う」，「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は文化教育学部で高く，経済学

部，農学部，教養教育運営機構，理工学部の順に低くなる．特に理工学部では40%程度しかなく，この比率は平成19年度とほぼ同じであり抜本的な改善が必要に思われる．「全くそうは思わない」，「そうは思わない」などの否定的意見も同様の傾向を示した．

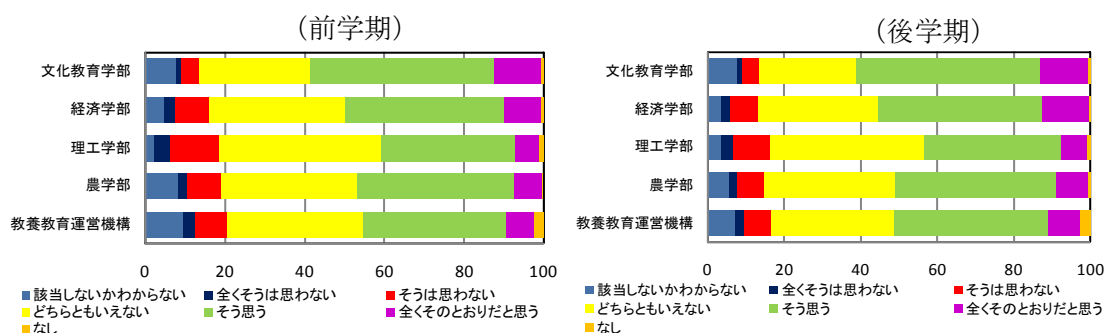


図9 「教材はわかりやすかった」に対する回答

B-5 シラバスは学習する上で役に立っている

この項目に対応する医学部授業評価アンケートでは講義科目対象のアンケートに「シラバスや配付資料の有効利用度」がこれに相当する．なお，医学部では以下の理由からPBL科目や実習科目においてシラバスの重要性をアンケート項目として取り上げていない．PBL科目については実際の症例を例示しながらチューターが小グループを指導し，指導で十分行き届かない点を授業するという形式を取っているため，シラバスによって学生に講義内容を周知させることが困難である．一方，実習科目では厚生労働省の卒前教育の指針に従って学習の目的と学習内容の概要を冊子にして配布しており，シラバスの重要性を問う意義に乏しい．ここでは授業評価アンケートの結果のみを示す(図10)．

この項目で特徴的なのは「該当しない・わからない」の占める比率が極めて

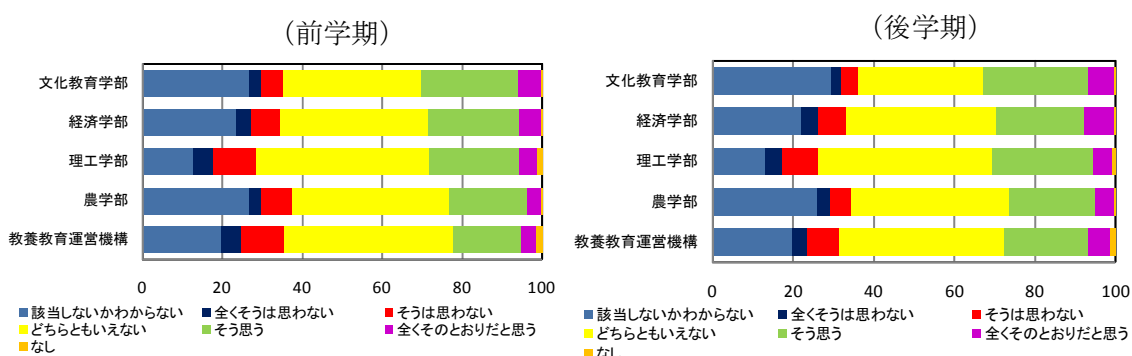


図10 「シラバスは学習する上で役に立っている」に対する回答

大きいことである。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める比率は文化教育学部、経済学部、理工学部で高く、農学部と教養教育運営機構で若干低くなっているが、全体として25～30%程度で推移している。本結果は平成19年度の比率より5%ほど高くなっており、平成19年度の前学期から「シラバス作成に関する要項」を定め、各授業科目において第1回目の授業でシラバスの内容を説明することが義務づけられている効果が表れつつあると考えられる。なお、さらなる周知が必要と考えられる。

B-6 授業内容はシラバスに沿っている

この項目に相当する授業評価アンケートの結果を図11に示す。前学期と後学期のアンケート結果で有意な差は認められない。この項目でも、「該当しない・わからない」と回答した学生の比率は非常に高い。理工学部ではこの割合が最も低く、他学部よりシラバスにそった授業が実施されていると考えられる。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の割合は理工学部で最も高く、全学期で40%に達している。肯定的意見の割合が低いのは農学部と教養教育運営機構であり、30～35%となっている。シラバスに対する認識自体が低い値を示しているため、学生の意識を変える必要がある。

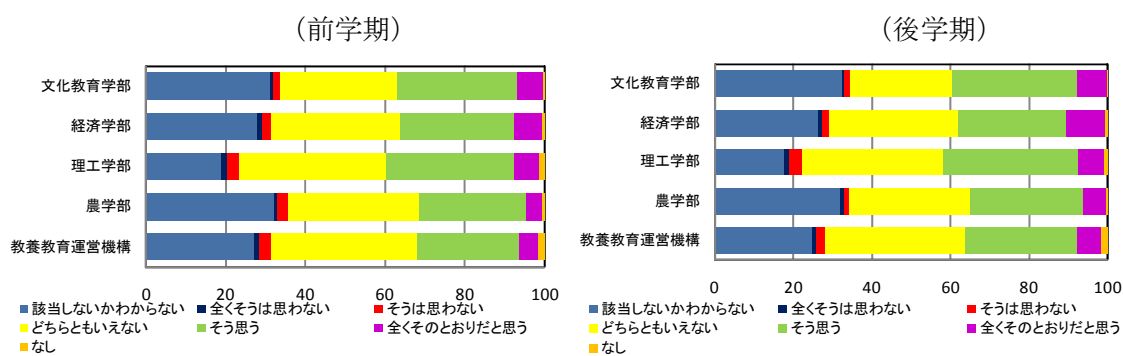


図 1 1 「授業はシラバスに沿っている」に対する回答

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった

図12にアンケート結果を示す。前学期と後学期で傾向に特別な差は認められない。すなわち、前学期・後学期共に「そう思う」が全体の6割近くを占めている。「そう思う」「まったくその通りだと思う」などの肯定的意見がもっとも多いのは文化教育学部で80%近くに達しており、次いで経済学部、教養教育運

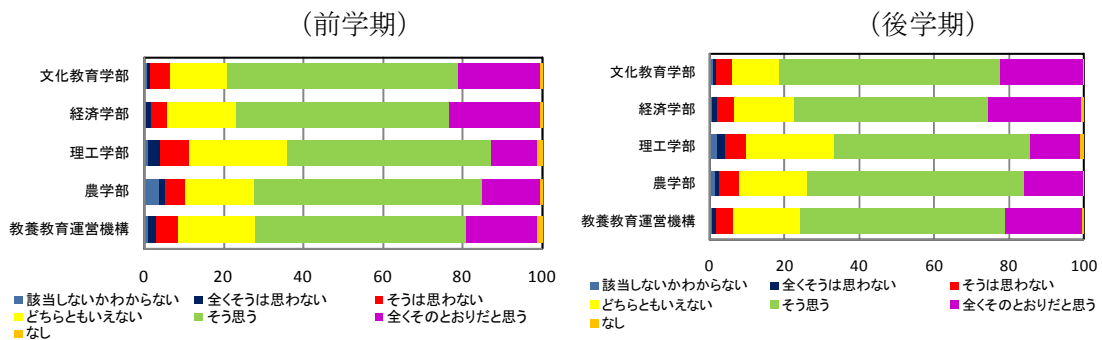


図 1 2 「声の大きさ・明瞭さは適切だった」に対する回答

営機構＝農学部，理工学部の順となっている．特に理工学部の比率が低く，65%程度であり，改善が必要に思われる．

B-8 話す速さは適切だった

結果を図13に示す．この項目でも前学期，後学期で認められる傾向は全く同じであり，特に差異はない．両アンケート共に「ちょうど良い」が70%を越えている．「速い」や「少し速い」などの意見が10～20%認められる傾向があり，経済学部や理工学部でやや割合が大きくなっている．逆に「かなり遅い」「少し遅い」などの意見は5%程しか認められない．このことから，本学の教員は全体的に少し速く話す傾向にあると判断される．

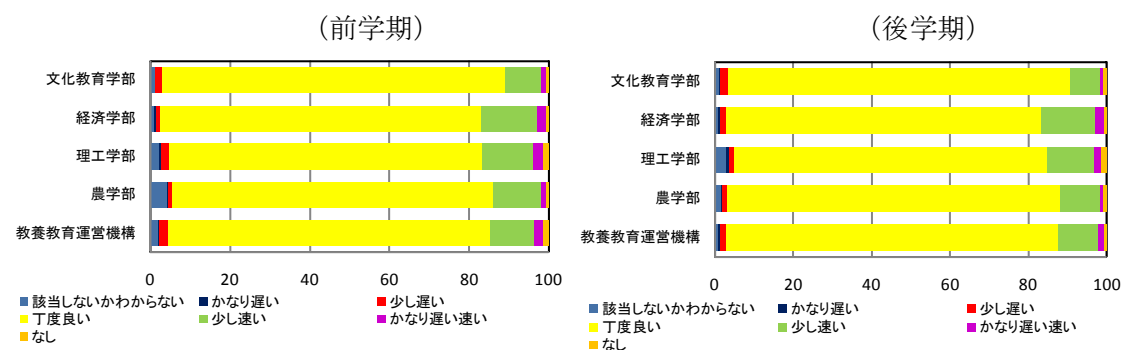


図 1 3 「話す速さは適切だった」に対する回答

B-9 授業の進む速さは適切だった

この項目も前述の2つの質問項目と類似した内容である．結果を図14に示す．B-8の項目と同じように「丁度良い」が全体の約80%を占めている．「少し速い」「かなり速い」の割合は理工学部で最も高く前学期、後学期で20%を超えている．「かなり遅い」「少し遅い」は5%程度であり，この項目からも本学の学生は授業

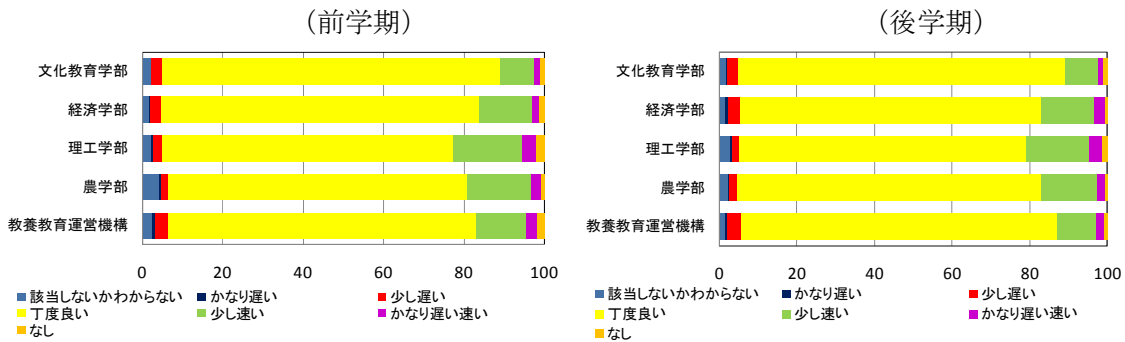


図 14 「授業の進む速さは適切だった」に対する回答

の進む速さが速いと感じていることが分かる。特に理工学部の学生にこの傾向が強いと言えよう。

C. 教員の対応

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる

結果を図15に示す。前学期と後学期の授業評価アンケート結果に大きな違いは認められない。「そう思う」「全くその通りだと思う」などの肯定的意見は前学期、後学期ともに文化教育学部で最も高く70～75%近くに達している。一方、理工学部の比率が低く50～55%であった。同様に、「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見の占める割合も理工学部で高くなっている。理工学部では改善が必要に思われる。

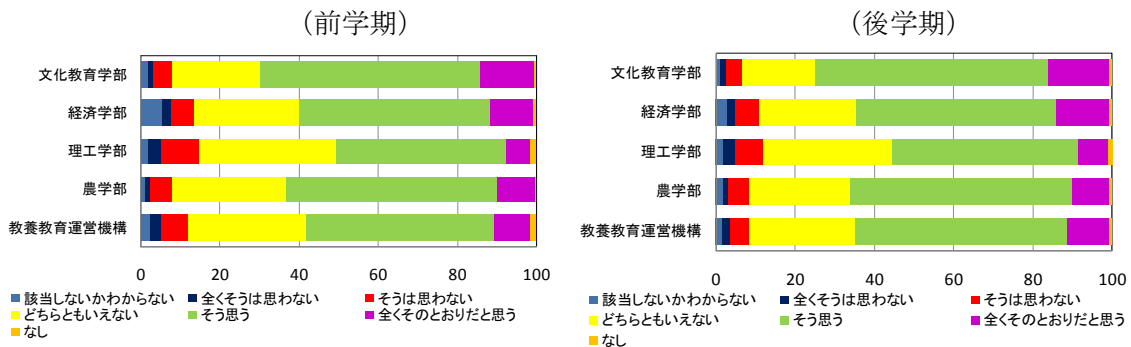


図 15 「授業をわかりやすくする工夫が感じられる」に対する回答

C-2 学生の質問に適切に対応してくれている

結果を図16に示す。前学期と後学期の授業評価アンケート結果に大きな違いは認められない。前学期では、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの

肯定的意見の占める割合は文化教育学部および農学部で高く、60～70%近くに達している。また、後学期でも、肯定的意見の占める割合は文化教育学部および農学部で高く、70～75%近くに達している。教養教育運営機構、理工学部、経済学部はほぼ同程度で、60%程度にとどまっている。

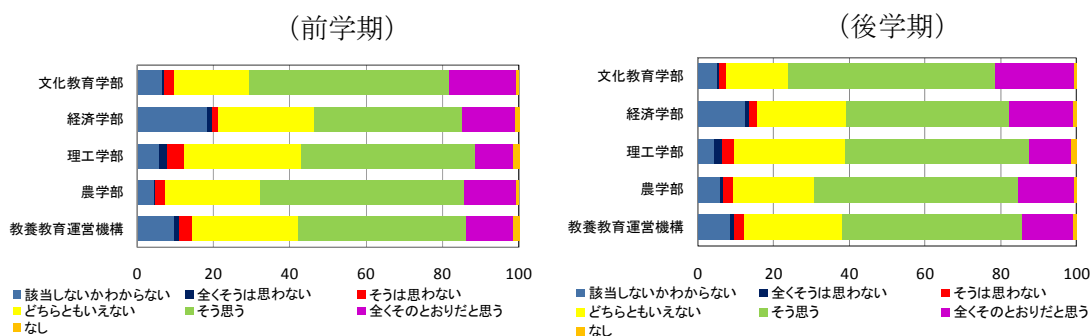


図 1 6 「学生の質問に適切に対応してくれている」に対する回答

D. 満足度

D-1 この授業を受講して満足が得られた

医学部授業評価アンケートには該当する項目として「授業内容の修得、理解度」が設定されているので、併せて図17に示した。項目C-2と同様に前学期と後学期の授業評価アンケート結果は大きく異なっている。前学期では、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合は文化教育学部で高く、70%、次いで農学部および経済学部が60%に達している。また、後学期でも、肯定的意見の占める割合は文化教育学部で高く、75%近くに達し、次いで、

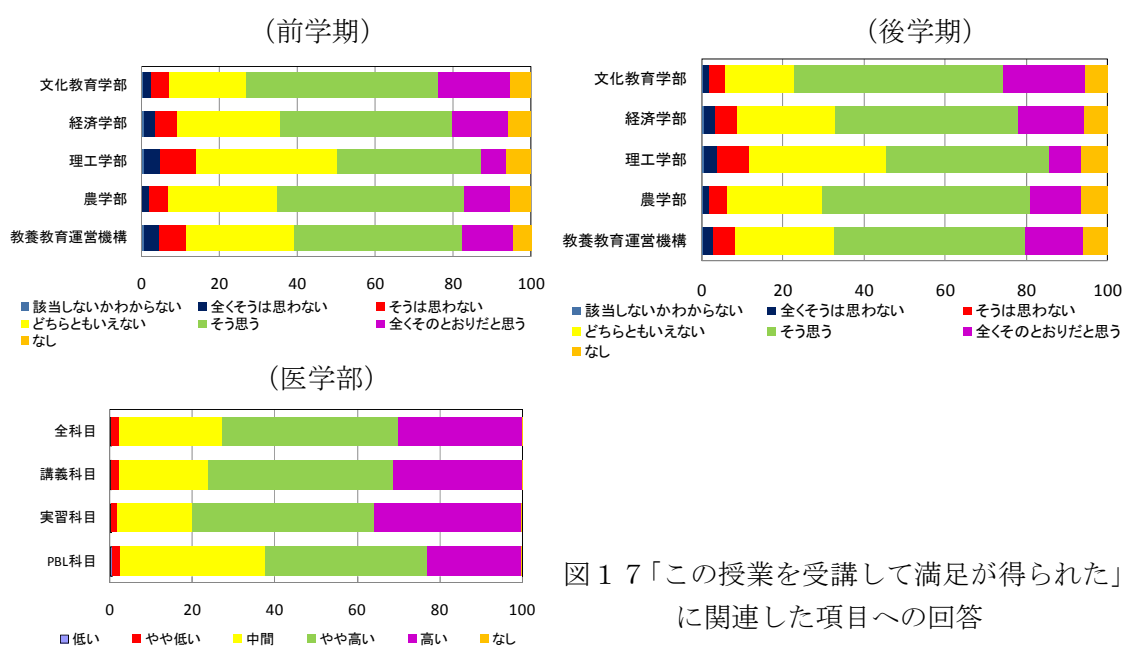


図 1 7 「この授業を受講して満足が得られた」に関連した項目への回答

農学部，教養教育運営機構，経済学部はほぼ同程度で，60%程度である．全学期を通じて理工学部の肯定的意見の比率が低く，45～50%しかなかった．理工学部はこの原因を明らかにし，改善する必要がある．

医学部では実習科目で「高い」，「やや高い」などの肯定的意見の占める割合が大きく，80%に達している．次に講義科目でその割合が高く75%程であり，PBL科目は60%強であり，他の学部の肯定的意見の占める割合と同程度を示している．また，「低い」，「やや低い」などの意見を占める割合はPBL科目で大きく，講義科目，実習科目の順に小さくなる傾向が認められる．

満足度に関しては他の項目との相関について項を変えて詳しく検討することにした．

Ⅲ-(2) 研究科別の結果と解析

ここでは平成18年度から取り組んでいる教育学研究科，経済学研究科，工学系研究科，農学研究科の授業評価アンケートについて前述の学部別と同様に結果とその解析について述べる．なお，医学系研究科についても実施しているが，アンケート項目が他研究科と異なっているため，詳細は別報として報告する．

A. あなた自身について

A-1 出席率はどのくらいですか

図18に出席率に関する回答結果を示す．前学期と後学期に大きな違いは認められなかった．80%以上出席したという回答の占める割合はすべての研究科で90%に達している．特に経済学研究科は前学期，後学期共にほぼ100%の出席率となっている．

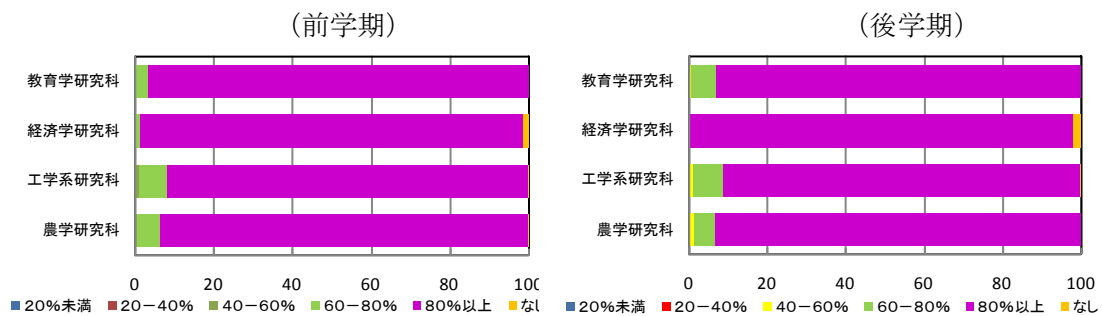


図18 「出席率はどのくらいですか」に対する回答

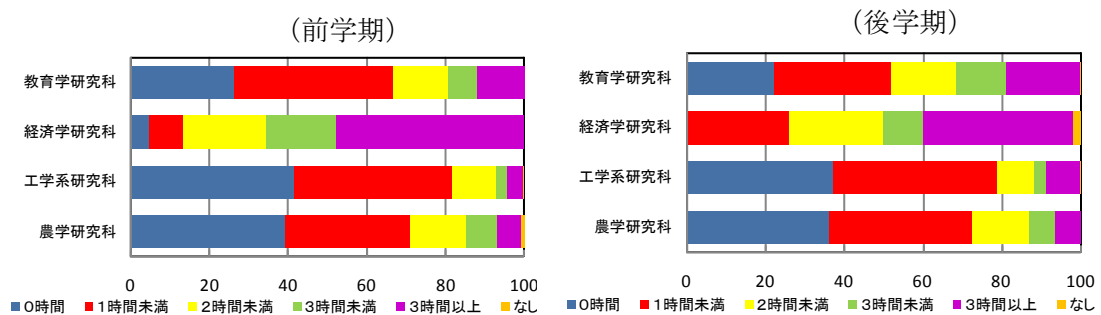


図19 「予習をどの程度していますか」に対する回答

A-2 予習をどの程度していますか

図19に毎週の予習時間についての回答結果を示す．この結果は経済学研究科と他の研究科で明瞭に差が認められる．すなわち，毎週の予習時間が0時間と回答した割合が経済学研究科では20%以下にとどまっているが，教育学研究科で

は25%, 農学研究科および工学系研究科では35~40%に及んでいる。「3時間未満」, 「3時間以上」と回答した割合も経済学研究科では50%に達するが, 教育学研究科では20~30%, 農学研究科および工学系研究科では20%以下になっており, なんらかの取り組みが必要であろう。

A-3 復習をどの程度していますか

図20に毎週の復習時間についての回答結果を示す。この項目も経済学研究科と他の研究科で明瞭に差が認められる。経済学研究科では「0時間」と回答している割合は10%を下回っているが, 教育学研究科では25%, 農学研究科および工学系研究科では30~40%となっている。また, 「3時間未満」, 「3時間以上」との回答の割合も経済学研究科では50%となっているが, 教育学研究科では15%, 農学研究科および工学系研究科では10%以下となっている。

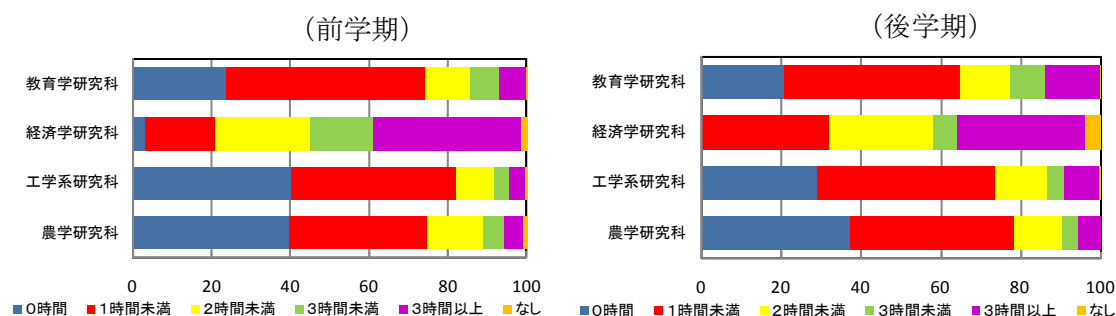


図20 「復習をどの程度していますか」に対する回答

A-4 この授業の学習目標を把握している

回答結果を図21に示す。この項目では全ての研究科で「全く把握していない」と回答した学生はわずかしかない。この項目も経済学研究科と他の研究科で

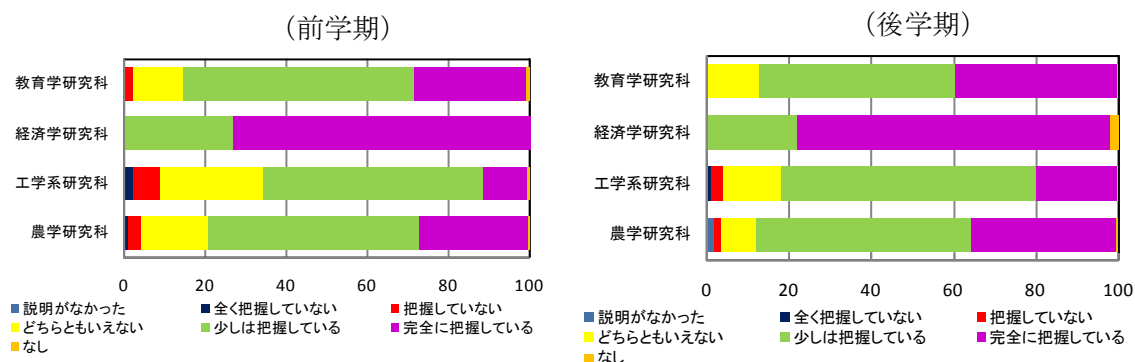


図21 「この授業の学習目標を把握している」に対する回答

明瞭に差が認められる。即ち、「完全に把握している」という回答は経済学研究科で70～80%にも達しているが、教育学研究科および農学研究科では30～40%、理工学研究科では20%未満となっている。なお、「少しは把握している」という肯定的意見を加えると経済学研究科で100%、教育学研究科および農学研究科では80～90%、工学系研究科でも後学期には80%に達している。

A-5 この授業の成績評価基準を把握している

回答結果を図22に示した。この項目では、「全く把握していない」、「把握していない」などの否定的な回答の比率は農学研究科、工学系研究科、教育学研究科で大きく、経済学研究科ではその比率が低い特徴が認められる。特に経済学研究科では否定的な回答はほとんど認められない。逆に、「少しは把握している」、「完全に把握している」などの肯定的意見の占める割合は経済学研究科で90%近くに達し、周知が徹底されていることを物語っている。しかし、他の研究科でもその割合が70%を超えており、把握している学生が多いことが分かる。

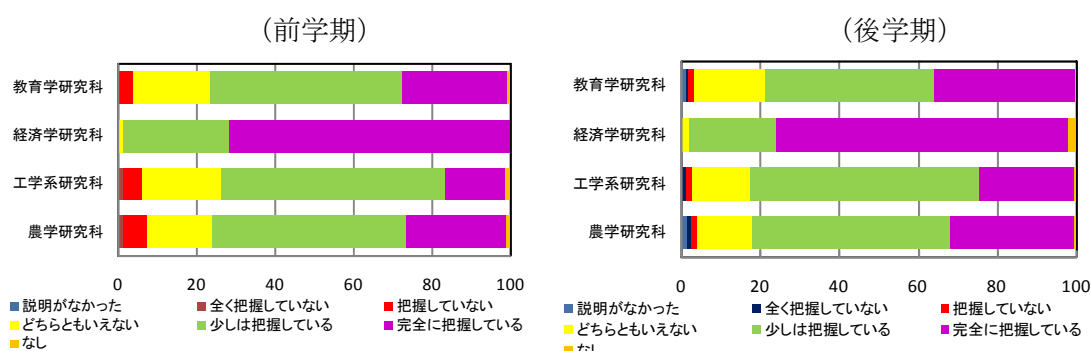


図22 「この授業の成績評価基準を把握している」に対する回答

B. 授業内容及び授業方法

B-1 この授業の内容は理解できる

図23に授業の理解度に対する回答結果を示した。経済学部では「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」がほぼ100%を占めており、受講者のほとんどが授業内容を理解できていると感じていることが明らかとなっている。教育学研究科でも「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見はほとんど認められず、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見が90%を占めている。一方、農学研究科では否定的意見は少ないが、「そう思う」、「全くその通りだと思う」などの肯定的意見は80～90%であった。工学系研究科では否

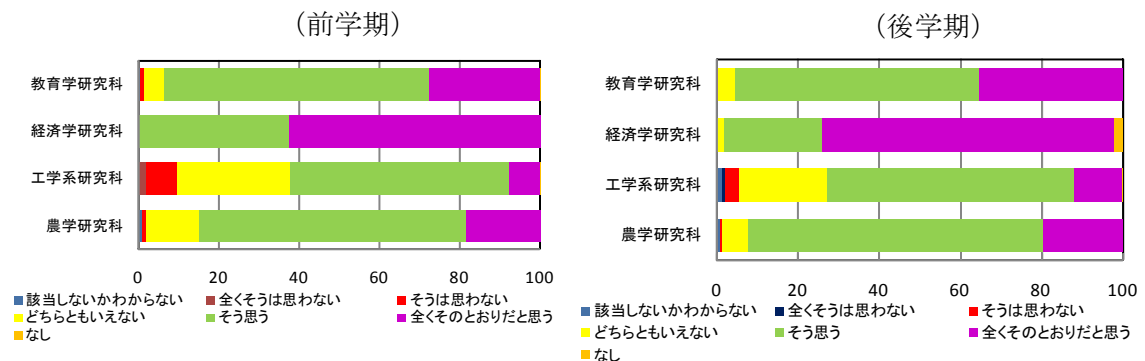


図 2-3 「この授業の内容は理解できる」に対する回答

定的な意見が5～10%ほど認められ、肯定的な意見は60～70%強にとどまっている。

B-2 この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた

図24に授業に対する興味の程度を示した。これも理解度と同様の傾向を示している。すなわち、経済学研究科では「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見はほとんど無く、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見が100%近くに達している。また、工学系研究科では10%の否定的な意見が認められ、肯定的意見は教育学研究科では95%、農学研究科では90%、工学系研究科では60～70%程度となっている。

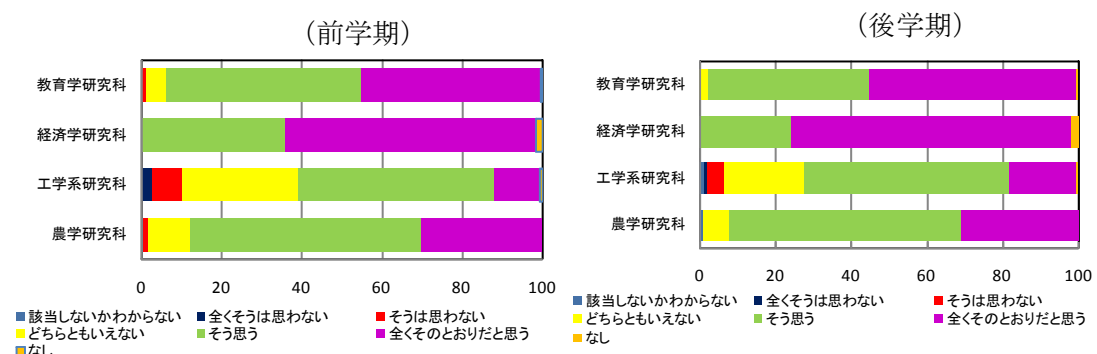


図 2-4 「この授業への興味の増加」に対する回答

B-3 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である

結果を図25に示す。経済学研究科では否定的意見が認められず、肯定的意見が90%近くに達している。農学研究科も否定的意見の割合が小さく、肯定的意見の割合が70～80%に達している。教育学研究科では「該当しないかわからない

い」意見が10～20%あるが、肯定的意見が65%もある。工学系研究科では否定的な意見が5～10%，肯定的な意見が55～65%という結果であった。

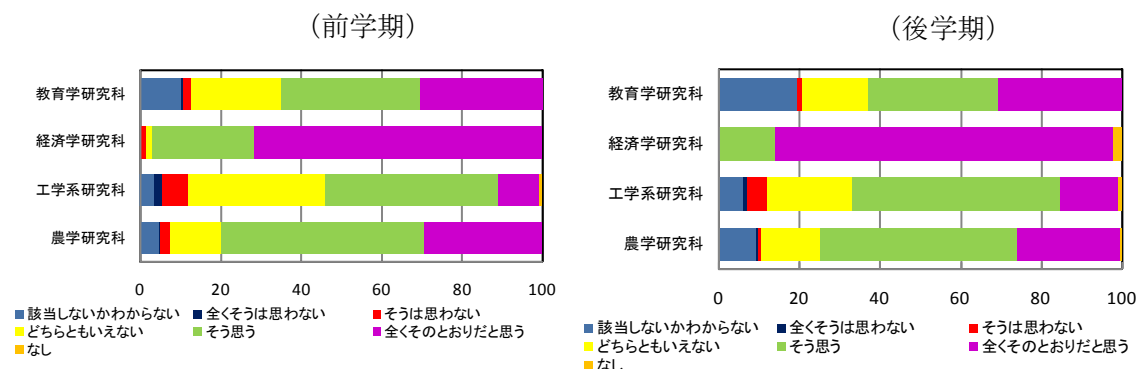


図 2.5 「黒板、OHP 等の使い方が効果的であった」に対する回答

B-4 教材(テキスト, 配布資料, その他)はわかりやすかった

結果を図26に示す。この結果も前項の結果と類似している。文系研究科である教育学研究科と経済学研究科では「全くそうは思わない」という回答はなく、「そうは思わない」という意見が教育学研究科に僅かに認められる程度である。一方、理系研究科である工学系研究科と農学研究科は「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見が5～10%程を占めている。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は経済学研究科で95%を越え、次いで教育学研究科、農学研究科、工学系研究科の順に小さくなっている。特に工学系研究科では50～60%に留まっている。

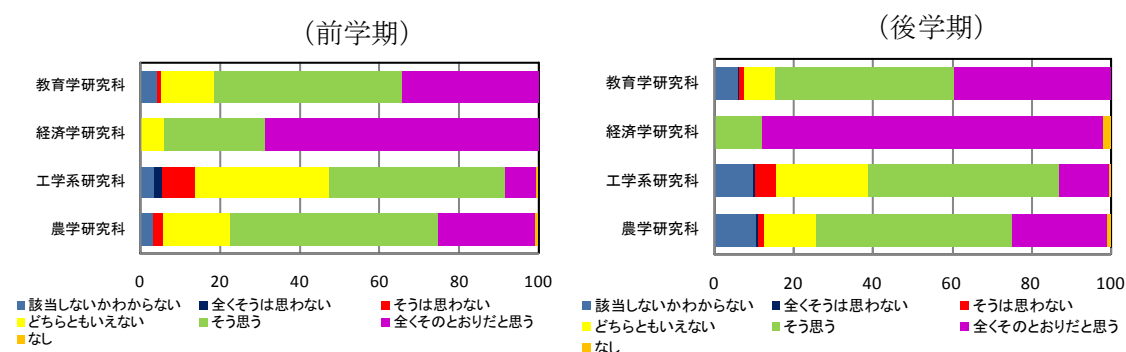


図 2.6 「教材はわかりやすかった」に対する回答

B-5 シラバスは学習する上で役に立っている

回答結果を図27に示す。大学教育においてシラバスが有効に活用されているか否かは大変重要なことであり、科目毎に確認する必要が求められている。結果を見ると「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的な回答の比率は経済学研究科ではほとんどない。教育学研究科では5%程度、農学研究科や工学系研究科では10%に達している。また、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は経済学研究科で90%に達し、教育学研究科で60%程度、農学研究科および工学系研究科では35～40%にとどまっている。

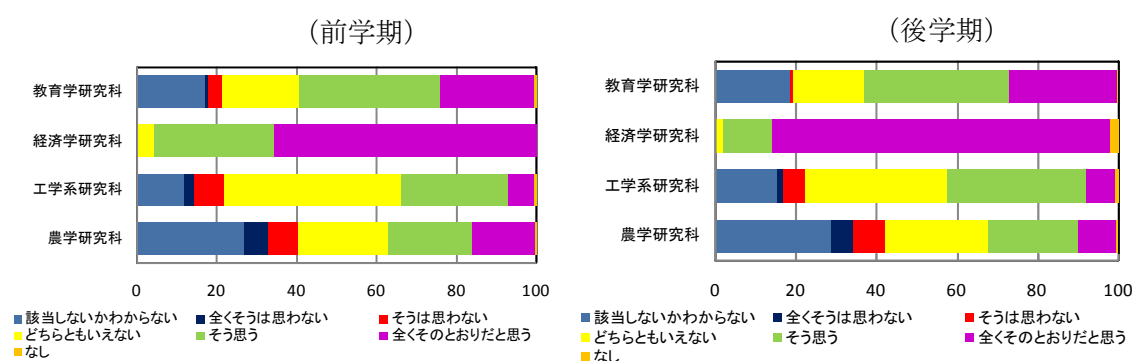


図 2 7 「シラバスは学習する上で役に立っている」に対する回答

B-6 授業内容はシラバスに沿っている

図28に結果を示す。経済学研究科では「該当しないかわからない」、「全くそうは思わない」、「そうは思わない」などの否定的意見は極わずかであり、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」の回答の比率が95%以上に達している。前項の結果と考え合わせると経済学研究科ではシラバスが有効に活用されていることが伺える。教育学研究科では肯定的な意見が60～70%に達している。工学系研究科や農学研究科でも否定的な意見は認められるものの5%以下であり、

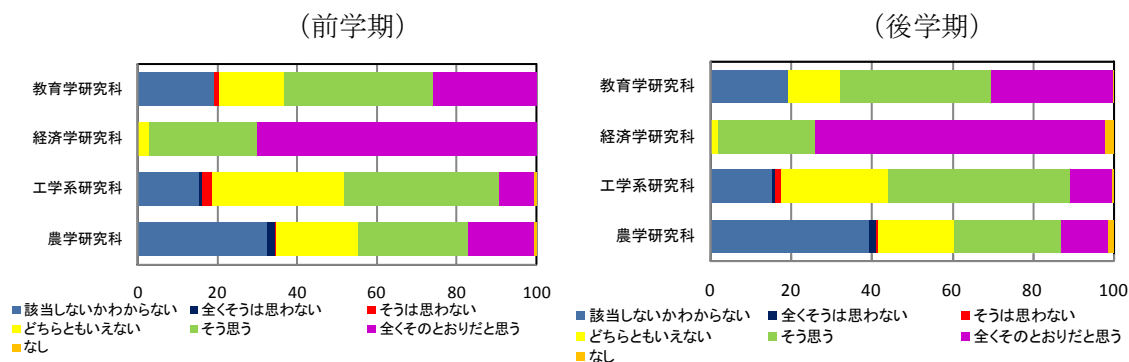


図 2 8 「授業内容はシラバスに沿っている」に対する回答

肯定的な意見が40～50%を占めている。また、前項の結果と共通する特徴であるが、経済学研究科以外の研究科では「該当しない・わからない」の回答の比率が15～40%を占めている。

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった

図29にアンケート結果を示す。経済学研究科ではほぼ全ての院生が、教育学研究科および農学研究科では90%程度の院生が「そう思う」、「全くそのとおりだと思ふ」などの肯定的意見を寄せている。工学系研究科では80%近くの院生が肯定的な回答をしており、全体的に授業における声の大きさや明瞭さは適切であったことが伺い知れる。

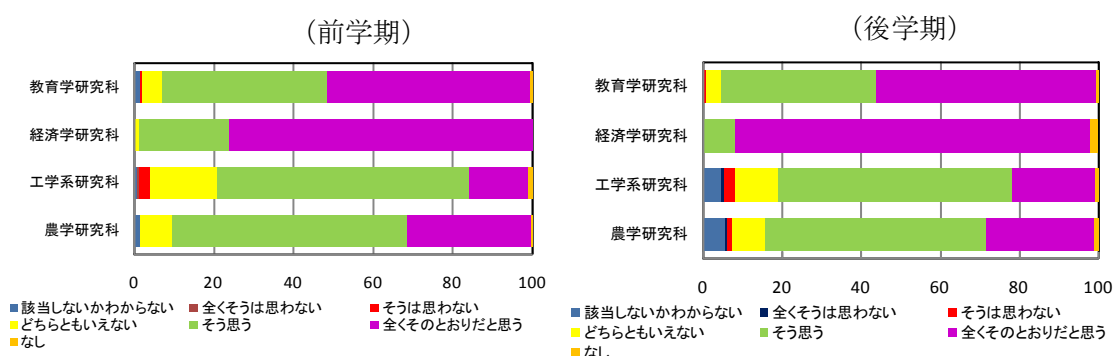


図 2 9 「声の大きさ・明瞭さは適切だった」に対する回答

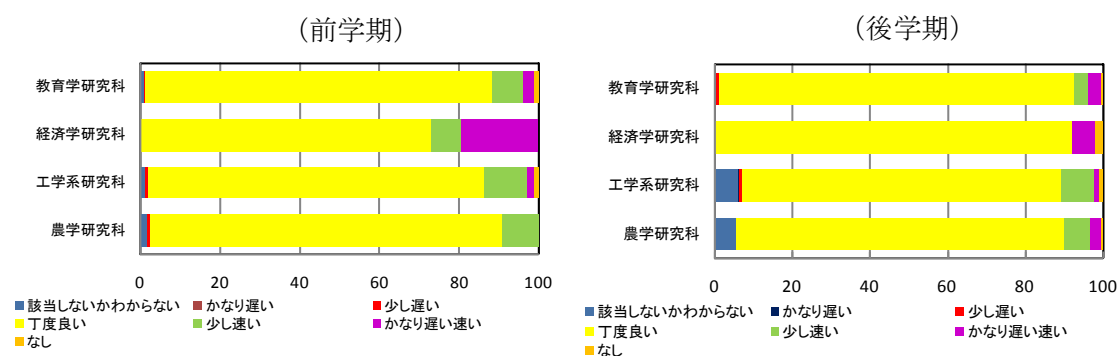


図 3 0 「話す速さは適切だった」に対する回答

B-8 話す速さは適切だった

結果を図30に示す。経済学研究科は「かなり速い」が占める割合が前学期で20%、後学期で10%に達している。他の研究科では「丁度良い」が占める割合が

80～90%に達している。また、「少し速い」意見の比率はどの研究科でも10%程度であった。

B-9 授業の進む速さは適切だった

結果を図31に示す。傾向は前項とほぼ同じであった。経済学研究科は「かなり速い」が占める割合が前学期で20%，後学期で10%に達している。他の研究科では「丁度良い」が占める割合が80～90%に達している。また、「少し速い」意見の比率はどの研究科でも10%程度であった。

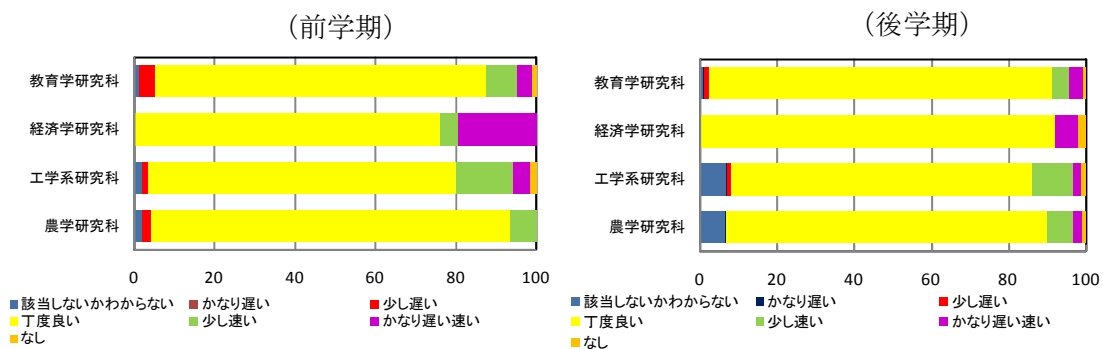


図 3 1 「授業の進む速さは適切だった」に対する回答

C. 教員の対応

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる

結果を図32に示す。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は、経済学研究科ではほぼ100%で、教育学研究科では90%，農学系研究科では85%，工学系研究科で60～70%である。ただし、「全くそのとおりだと思う」の意見に絞ると、経済学研究科では70～90%で、教育学研究科では45～50%，農学系研究科では20～30%，工学系研究科で10～15%であり、経済学研究科で突出

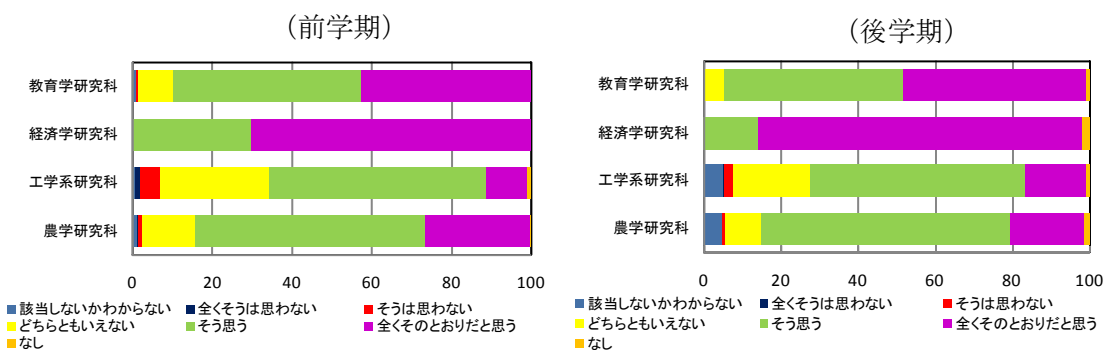


図 3 2 「授業をわかりやすくする工夫が感じられる」に対する回答

している。工学系研究科では否定的意見が5%ほど認められ、「授業を分かりやすくする工夫」を進める事が求められる。

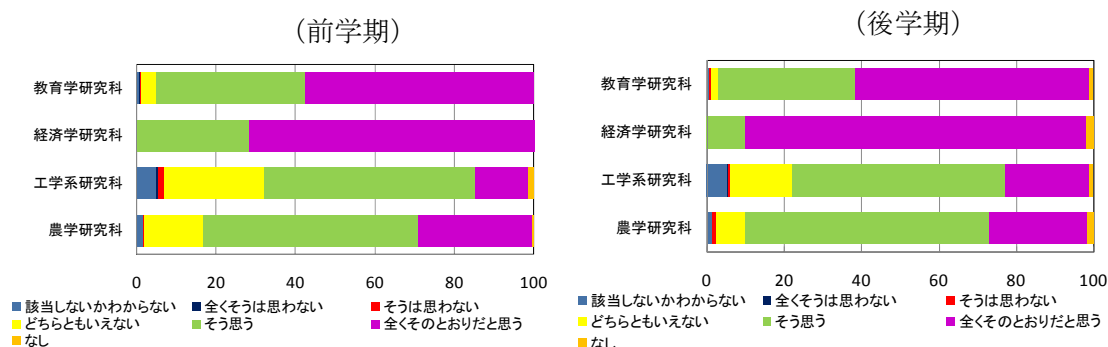


図 3 3 「学生の質問に適切に対応してくれている」に対する回答

C-2 学生の質問に適切に対応してくれている

結果を図33に示す。この項目は前項の結果と類似している。すなわち、「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見は、経済学研究科ではほぼ100%で、教育学研究科では95%、農学系研究科では85%、工学系研究科で70%である。ただし、「全くそのとおりだと思う」の意見に絞ると、経済学研究科では70~90%で、教育学研究科では55~60%、農学系研究科では30%、工学系研究科で15~20%であり、経済学研究科で突出している。

D. 満足度

D-1 この授業を受講して満足が得られた

結果を図34に示す。「そう思う」、「全くそのとおりだと思う」などの肯定的意見の占める割合は教育学研究科や経済学研究科で95%近くに達している。農学研究科では85%、工学系研究科では70~80%となっている。ただし、「全くその

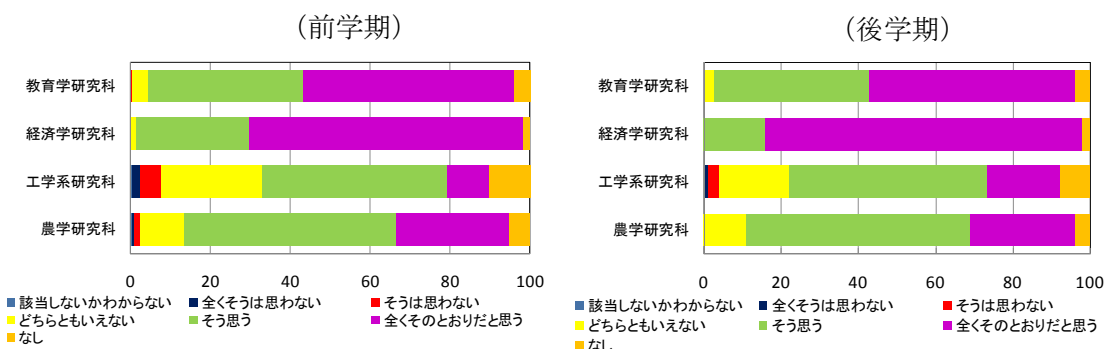


図 3 4 「この授業を受講して満足が得られた」に対する回答

とおりだと思ふ」の意見に絞ると、経済学研究科では70～85%で、教育学研究科では55%、農学系研究科では30%、工学系研究科で10～20%であり、経済学研究科で突出している。工学系研究科および農学研究科では「全くそうは思わない」、
「そうは思わない」などの否定的意見が5～10%ほど認められる。

Ⅲ-(3) 授業内容及び授業方法, 教員の対応と満足度の関係

授業を受けた学生の満足度を指標にして, 授業方法, 授業内容や教員の対応との相関を解析した. 満足度を指標にすること自体様々な問題を含んでいると考えられるが, ここでは満足度の高い授業ほど評価の高かった授業として解析している. 平成18年度の報告書では開講部局毎に, 平成19年度では科目種別毎に分けて表示し, それぞれ満足度との高い相関を示す要因を明らかにした. 本報告書では全学の学生を対象とする「主題科目」と学部および学科等の所属学生を対象とする「学部科目」に分けて表示している.

1. 主題科目および学部科目の解析結果

図35に「満足度」と「学習目標の把握」の相関関係を示した. 円の大きさが

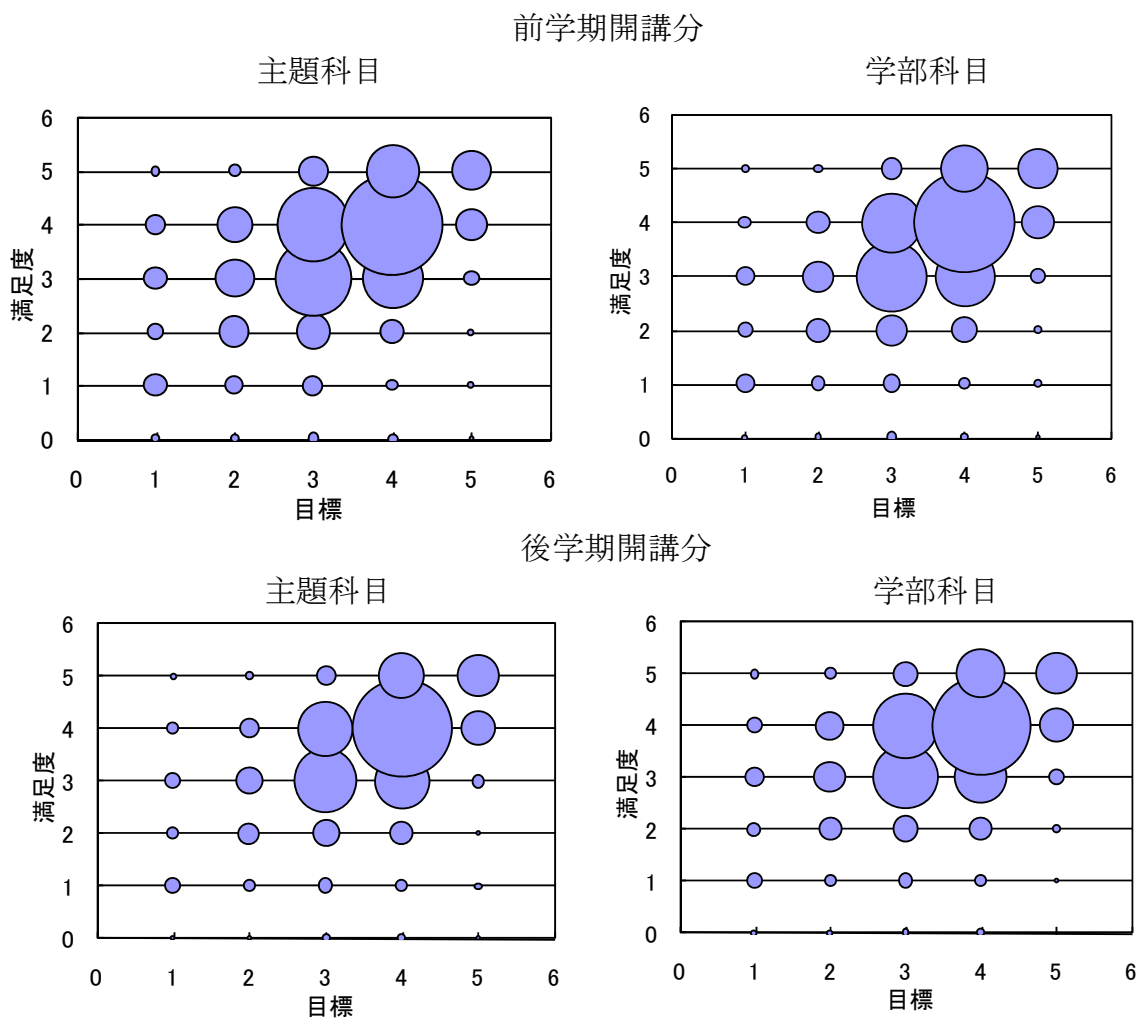


図35 満足度と学習目標の把握との相関

回答した学生数を示している。解析した授業科目数は前学期で文化教育学部394, 経済学部114, 理工学部224, 農学部94, 教養教育運営機構363の計1189科目, 後学期で文化教育学部431, 経済学部127, 理工学部274, 農学部99, 教養教育運営機構288の計1219科目である。なお, 医学部はアンケート項目の指標が異なっているためここには示していない。

図を見ると右上がりの正の相関が明らかである。すなわち「満足度」が高い科目ほど学生は「学習目標」や「成績評価基準」をきちんと把握している実態が浮かび上がっている。主題科目と学部科目での差は認められない。

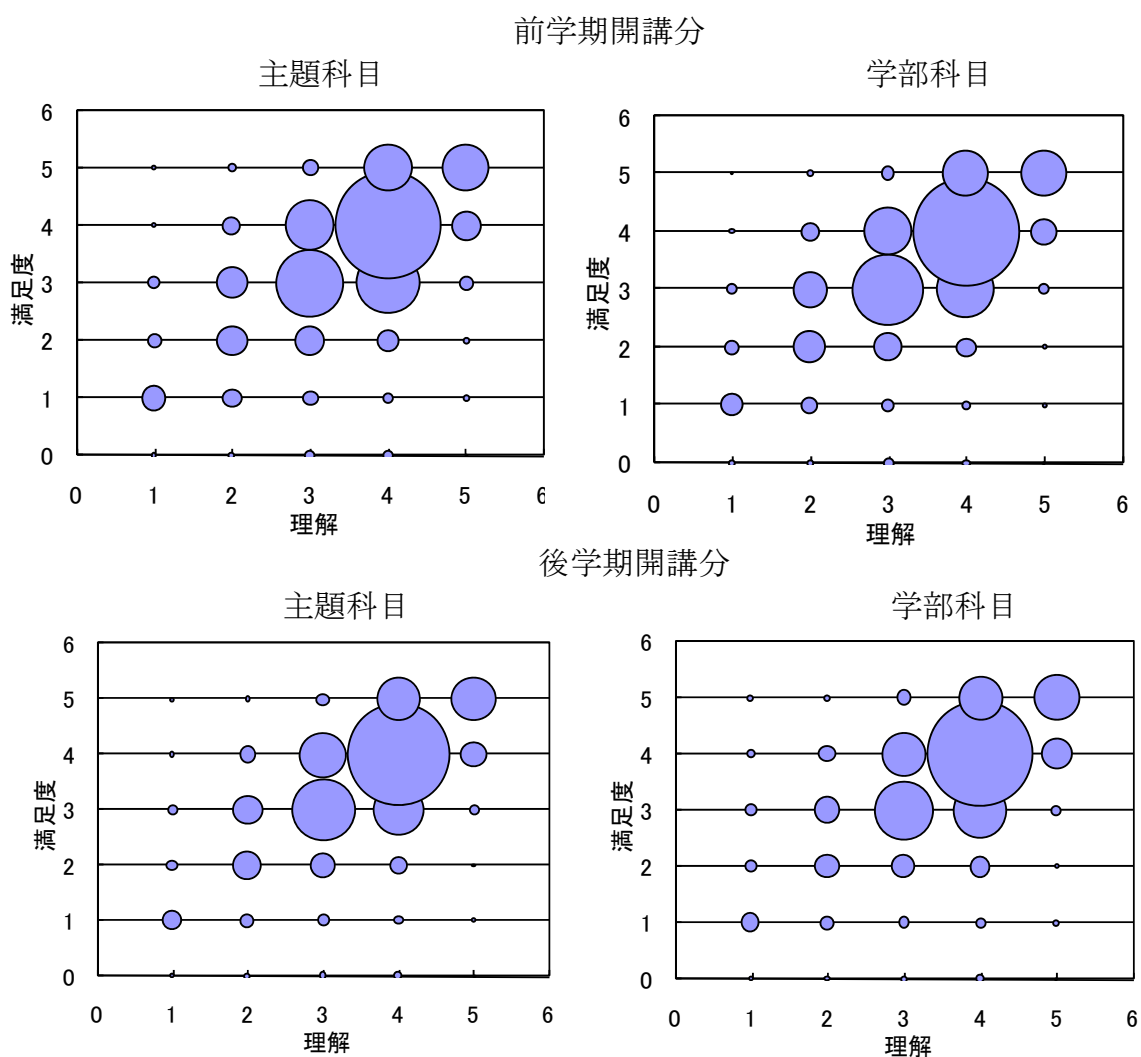


図3 6 満足度と理解との相関

次に「満足度」と「授業内容の理解」(図36)及び「内容への興味」(図37)の相関について検討してみた。「授業内容の理解」は右上がりの正の相関が明らかである。さらに、「満足度」と「内容への興味」については「学習目標」や「成績評価基準」に比べて極めて高い相関が認められる。当然のことではあるが学生は興味を持って授業科目を受講しているので、強い正の相関を示す結果となったのであろう。これより如何にして授業への興味を学生に持たせるかが重要であることが分かる。主題科目と学部科目での差は認められない。

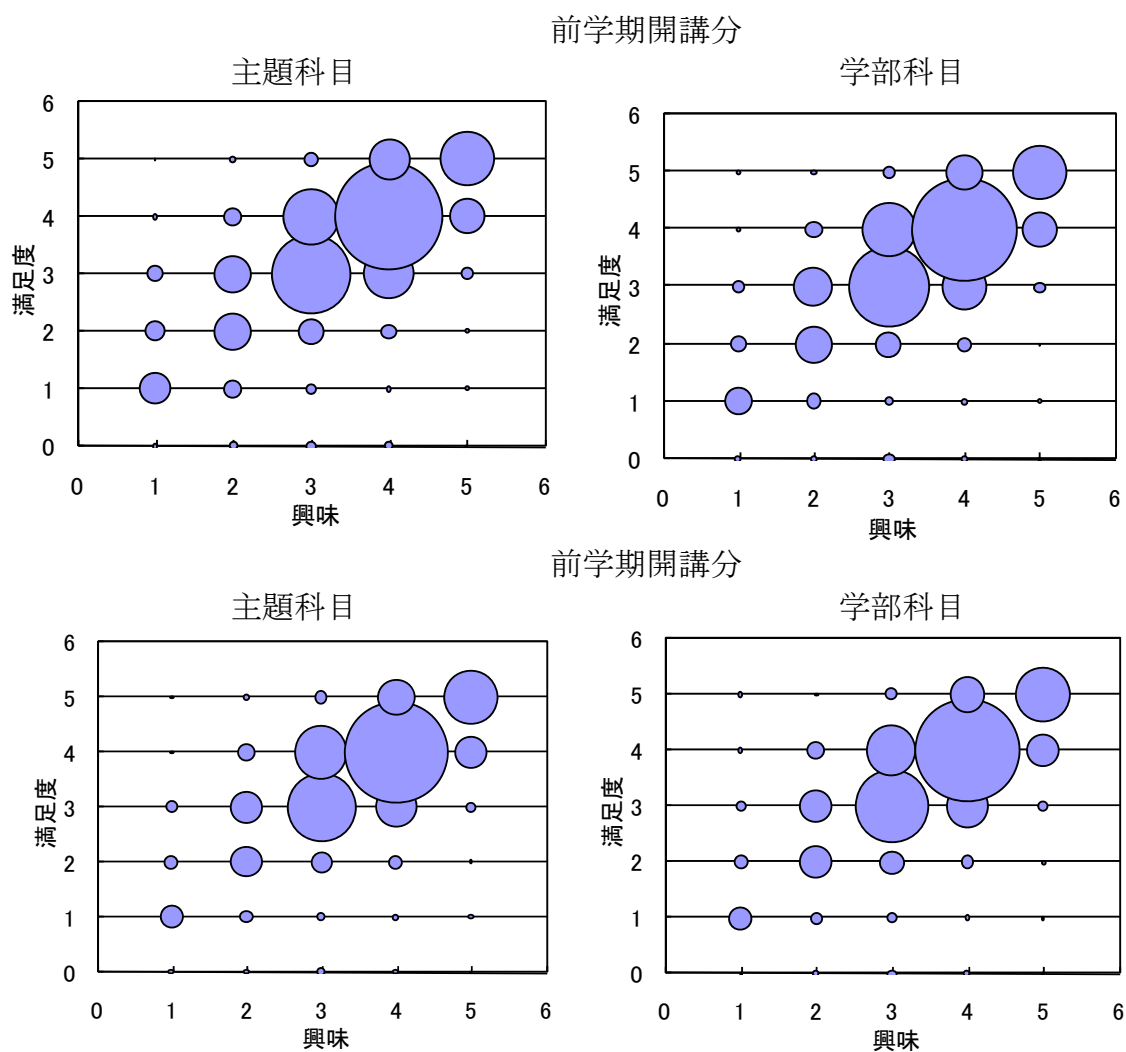


図37 満足度と興味との相関

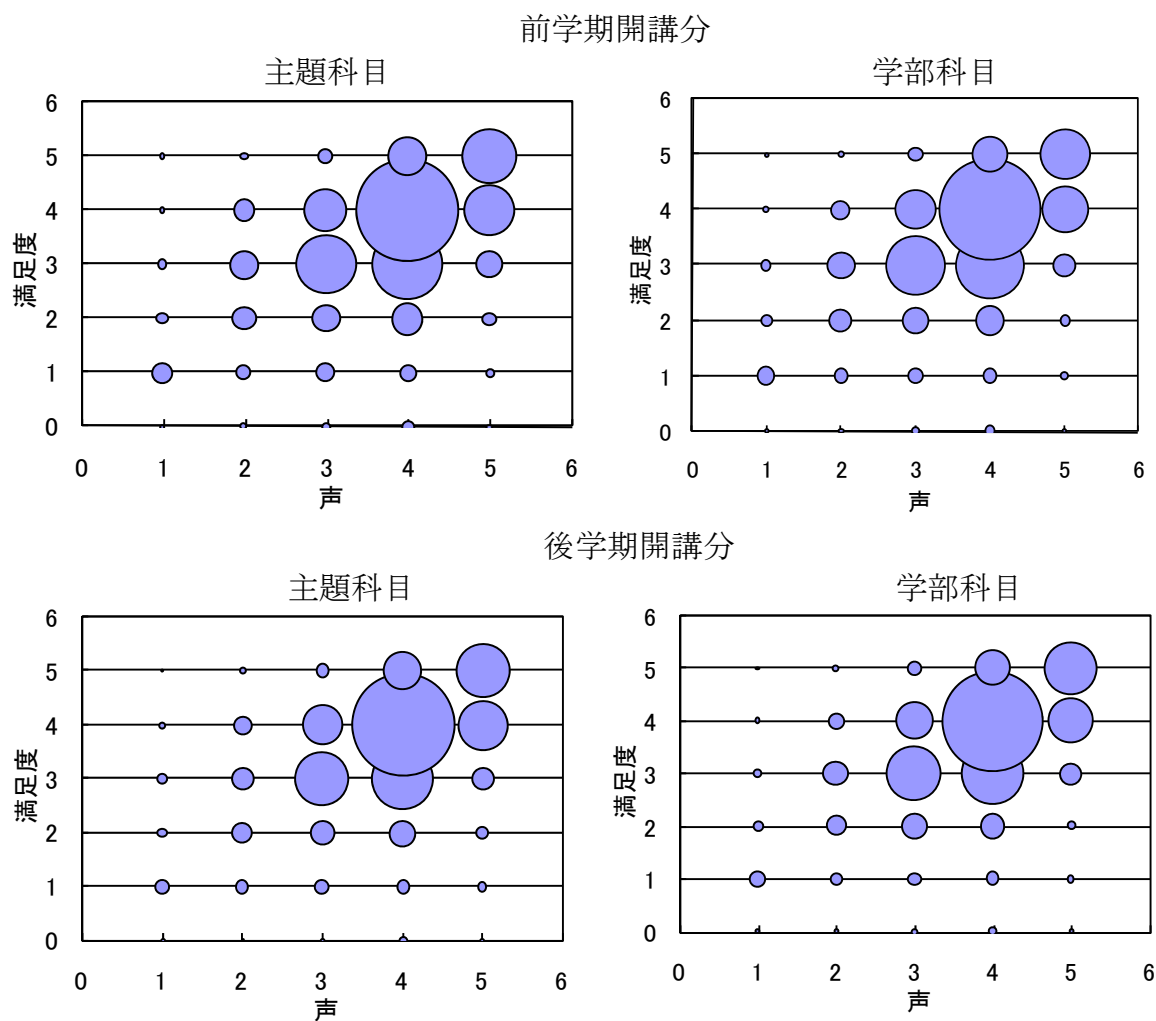


図38 満足度と声との相関

図38に「満足度」と「声の大きさ・明瞭さ」との相関を示す。教員の「声の大きさ・明瞭さ」は「満足度」と高い相関を示している。しかし、「声の大きさ・明瞭さ」の評価が低くなるにつれ分散が目立ってくる。これより「声の大きさ・明瞭さ」も重要であるが、この評価が低くても他の要因が高ければ学生は満足することが分る。

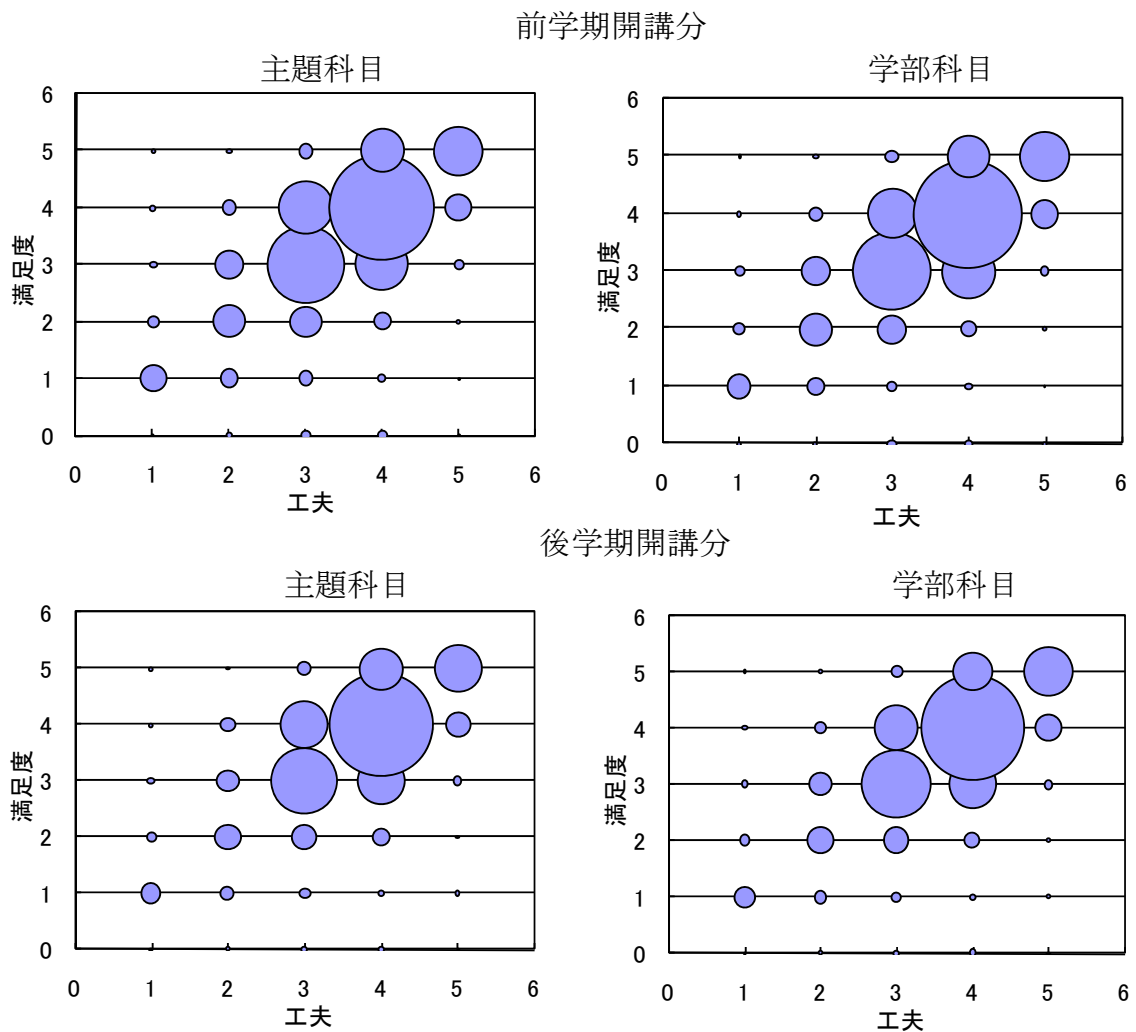


図39 満足度と工夫との相関

教員の態度である「授業を分かり易くする工夫」と「満足度」の相関を図39に示す。「分かり易くする工夫」と「満足度」は明瞭な相関関係が認められ、工夫をしている授業ほど学生は高い満足を得ていることが明らかである。また、図示していないが、「質問への対応」で評価の高い科目ほど「満足度」も高くなっている。この傾向は平成19年度のアンケート結果と一致している。

2. 研究科別解析結果

図40に学部と同様に「満足度」と「学習目標」の相関関係を示した。円の大きさが回答した学生数を示している。解析した授業科目数は前学期で教育学研究科66，経済学研究科13，工学系研究科107，農学研究科38の計224科目，後学期で教育学研究科108，経済学研究科18，工学系研究科182，農学研究科60の計368科目である。医学系研究科はアンケート項目の指標が異なっているためここには示していない。

図を見ると右上がりの正の相関が認められる。学部と同様に「満足度」が高い科目ほど学生は「学習目標」をきちんと把握している傾向がある。

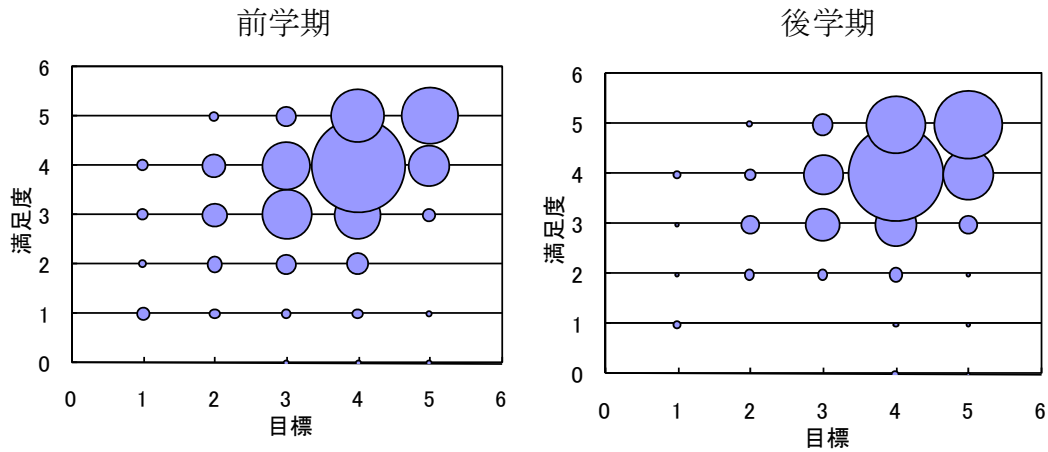


図40 満足度と目標との相関

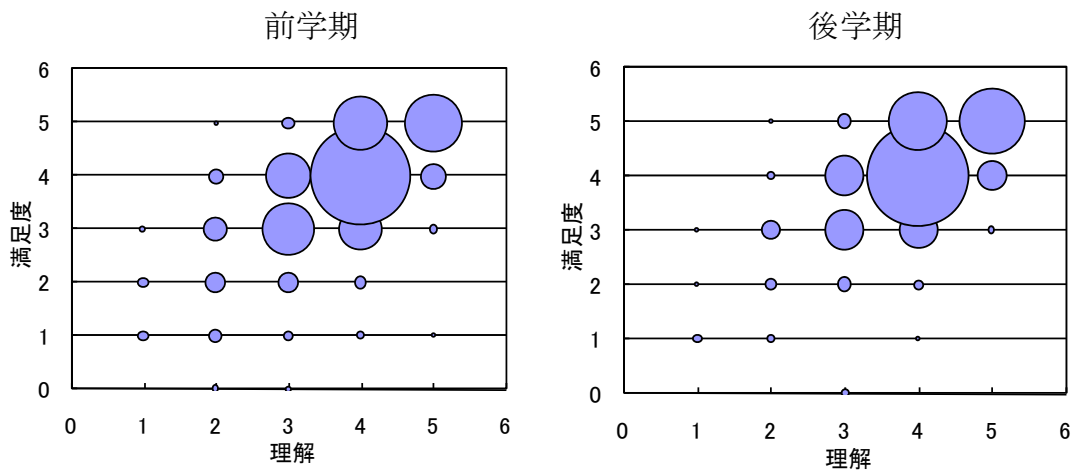


図41 満足度と理解との相関

次に「満足度」と「授業内容の理解」(図41)及び「内容への興味」(図42)の相関について検討してみた。この図において「満足度」と「内容への興味」

については学部の解析結果と同様に極めて高い相関が認められる。大学院に進学していても学生は興味を持って授業科目を受講しているので、正の相関を示す結果となったのであろう。「授業内容の理解」についても右上がりの正の相関が明瞭である。ただし、「内容への興味」に比べ分散が進む傾向にある。

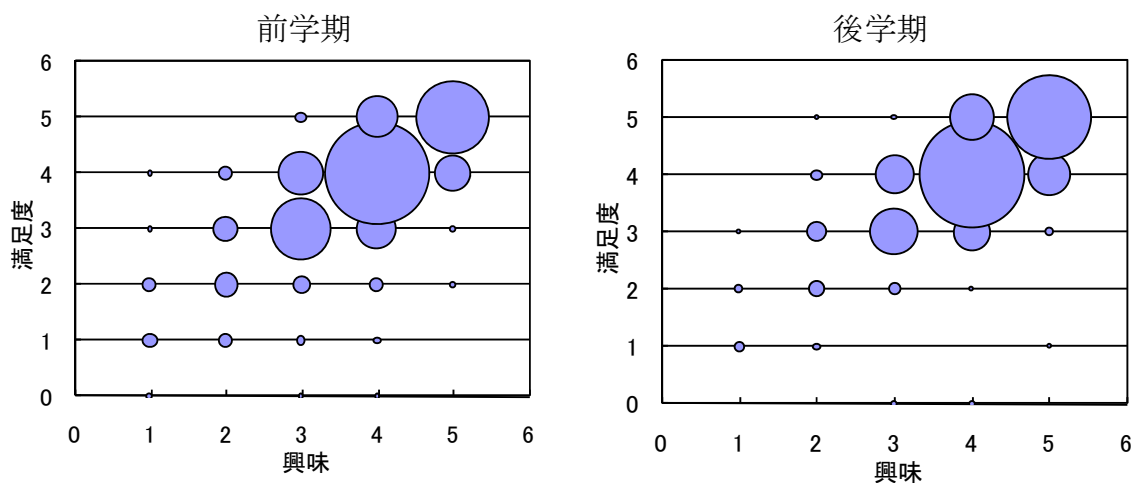


図4.2 満足度と興味との相関

図4.3に「満足度」と「声の大きさ・明瞭さ」との相関を示す。教員の「声の大きさ・明瞭さ」は「満足度」と弱いながらも相関を示している。しかし、学部の場合と比較すると分散が目立つ。

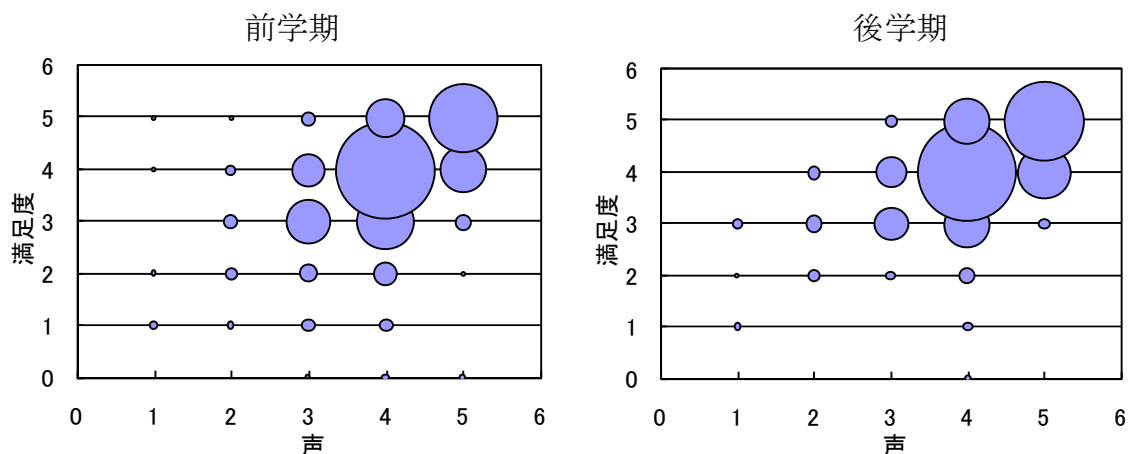


図4.3 満足度と声との相関

教員の態度である「授業を分かり易くする工夫」、「質問への対応」と「満足度」の相関を図4.4および図4.5に示す。「分かり易くする工夫」と「満足度」は

明瞭な相関関係が認められ、学部の場合と同じく、工夫を凝らしている授業ほど学生は高い満足を得ているようである。また、「学生への対応」で評価の高い科目ほど「満足度」が高くなる傾向も学部のそれと類似している。

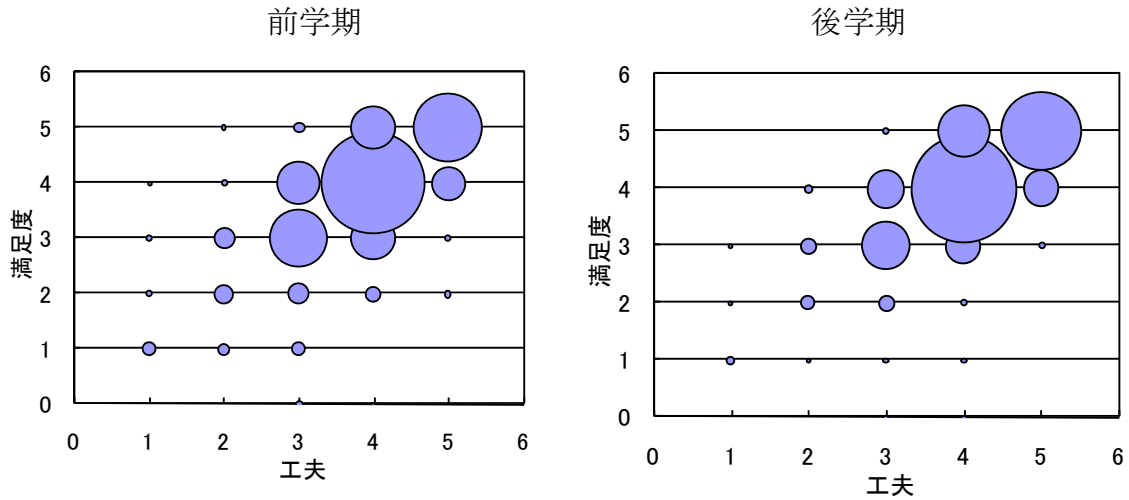


図 4 4 満足度と工夫との相関

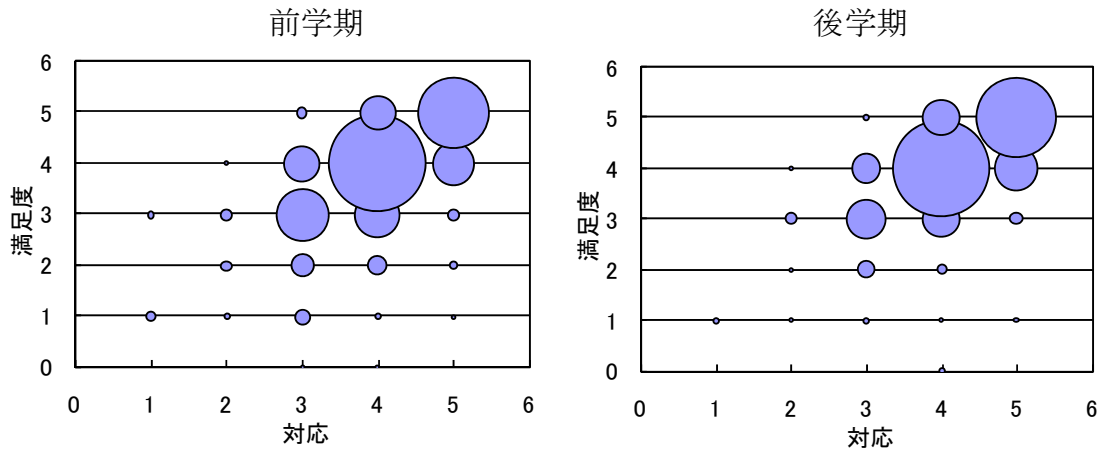


図 4 5 満足度と対応との相関

Ⅲ-(4) ネット授業の結果と解析

ネット授業のアンケート内容はネット受講に関するものと授業関連に分けられる。ここでは、授業関連の回答結果のみ取り上げた。受講経過を図46に示す。受講生の約60%が授業科目の全てを受講し（対面授業では欠席なしに対応する）、課題も提出しており、ほぼ受講している者との合計は97%にも達している。これより学生が主体性を持ってネット授業を受講していることがわかる。さらにネット授業の良い点、「何時でも、何処でも聴講できる」が表れているものと考えられる。

ガイダンス内容に関する結果を図47に示すが、「十分」と回答している者が約60%と低く、「不十分」と回答している者が約30%にも達している。これは、インターネットを利用したアクセス方法や受講手続等の説明不足が原因と考えられ、初めのガイダンスをより充実することが望まれる。

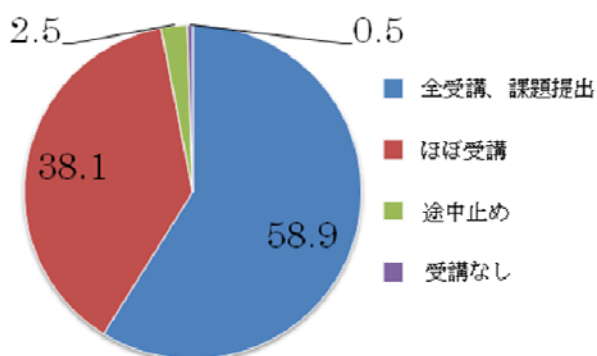


図46 受講経過

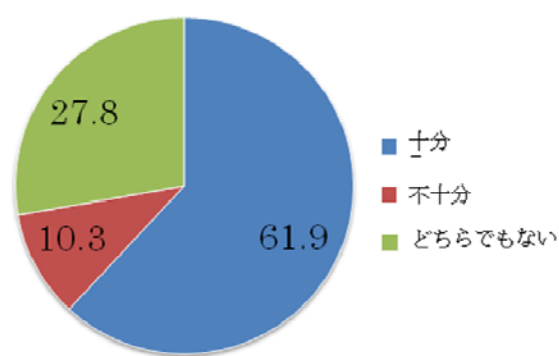


図47 ガイダンス内容

「音声」および「映像」等のネット受講時の状態についての結果を図48および図49に示すが、それぞれ約70%および約65%の受講生が満足しており、不満の解答は共に10%程度と低い値となっている。ネット受信については大きな問題は無い事がわかる。

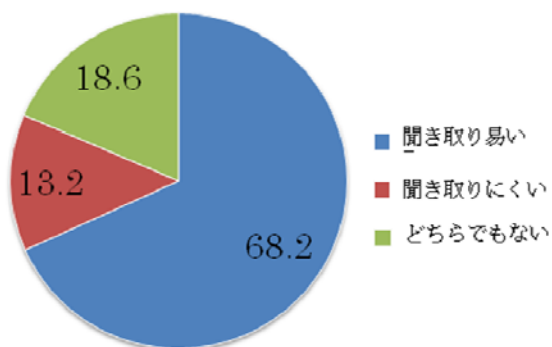


図48 音声

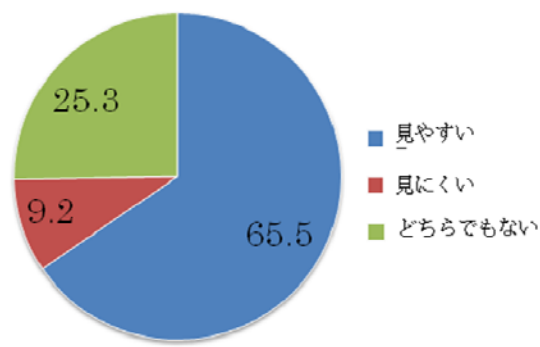


図49 映像

講義内容について「興味」および「難易度」を質問した結果をそれぞれ図50および図51に示す。受講生の約55%が「面白かった」、約45%が「分りやすかった」と回答している。ただし、「難しかった」と回答している受講生が約30%もいた。「難しかった」という回答が多い科目ほど、「興味」については「期待はずれ」または「どちらでもない」と回答している者が多くみられた。特に理系の講義においてはある程度の基礎知識が要求されるため、ガイダンスでの丁寧な講義概要の説明が求められる。また、講義内容についても検討を要すると考えられる。

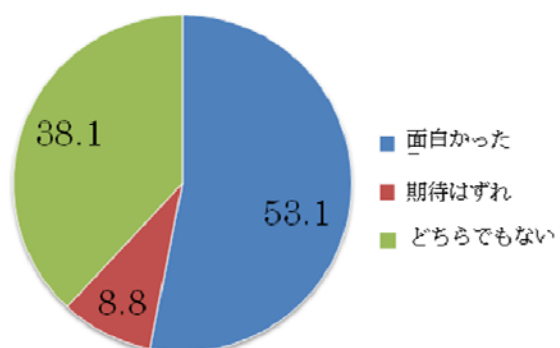


図50 講義内容（興味）

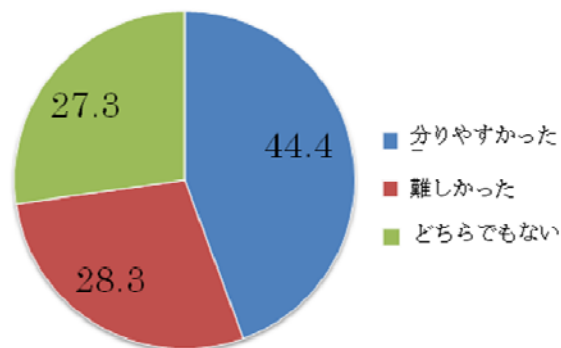


図51 講義内容（難易度）

「対面授業との比較」および「配布資料」に関する回答をそれぞれ図52および図53に示す。「対面授業との比較」では「非常に良かった」、「良かった」と回答している者が約60%もあり、約95%の受講生が「普通」以上と回答している。学生にとって映像を通しての講義に対する違和感はほとんど無いことがわかる。また、「配布資料」に関する結果から担当教員が十分な配布資料を準備していることもこの一因となっていると考えられる。

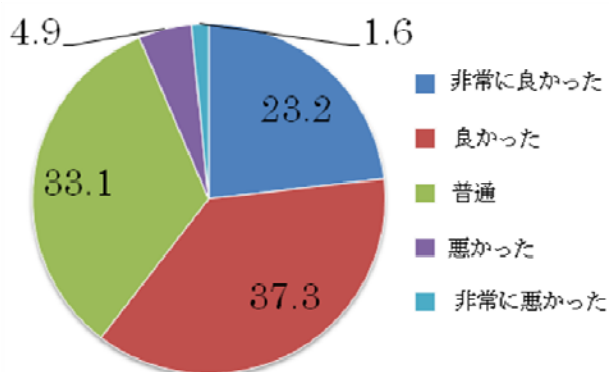


図52 対面授業との比較

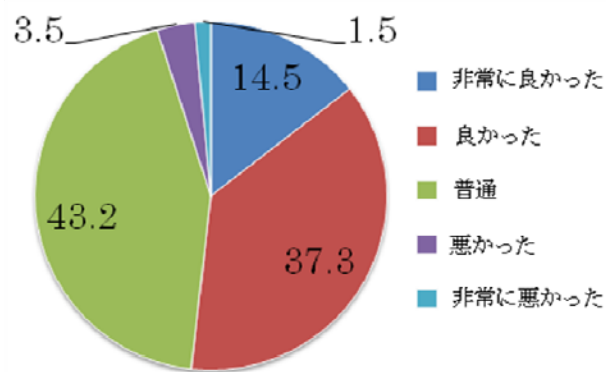


図53 配布資料

「質問のし易さ」および「教員のフォロー」に関する回答をそれぞれ図54および図55に示す。「質問のし易さ」では約20%の受講生が「悪かった」と回答しており、この数値はネット授業のアンケート項目でも最大となっている。ここに対面授業と異なるネット授業の欠点が表れていると考えられる。ネット授業でも質問欄を設けているが、実際に対面していない教員へは質問し辛いと考えられる。この点の改善が必要と考えられる。一方、「教員のフォロー」に関しては約10%の学生が「悪かった」と回答し、65%の学生が「普通」と回答している。

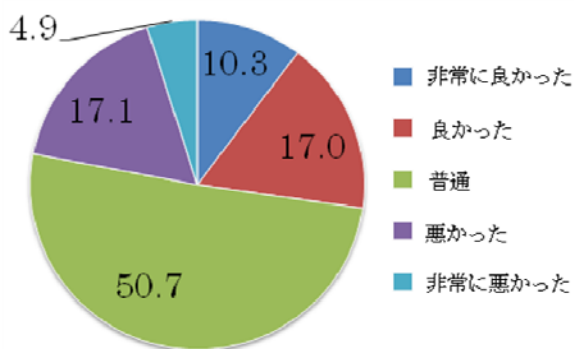


図54 質問のし易さ

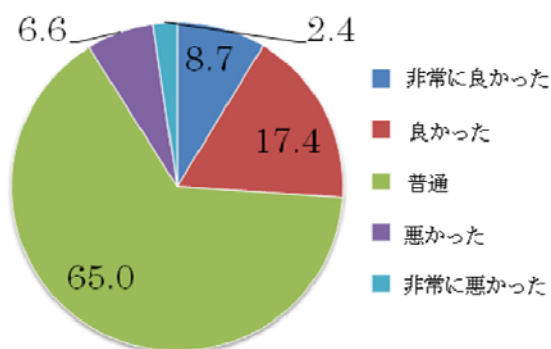


図55 フォロー

受講生の「熱中度」を図56に示す。受講生の55%が「良かった」以上の回答をしている。「熱中度」を“満足度”とみなすと、学部の対面授業に対し若干低い値であるが、授業間の差が大きく、これは授業の難易度も一要因と考えられる。

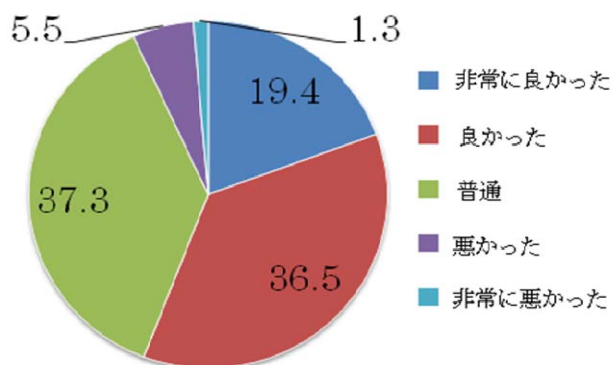


図56 熱中度

Ⅲ-(5) 学生から高い評価を得ている授業科目の選定基準

1. 文化教育学部

学部FD委員会にて学生から高い評価を得ている授業科目の選考基準を協議した結果、満足度及び興味関心の2項目を合計した値を用いることが了承された。なお、対象となる科目は受講生が10名以上の科目であり、学部、大学院別に講義と（実習・実技・演習）のそれぞれのグループにおいて抽出することになった。

2. 経済学部

経済学部および経済学研究科では、現在のところ選考基準はない。

3. 理工学部

理工学部の各学科では、授業評価アンケートの全項目（物理科学科）もしくは複数項目（電気電子工学科）、あるいは満足度（数理科学科、知能情報システム学科）の項目を用いて、授業の分析や学生から高い評価を得ている授業科目を専攻している学科がある。また、独自アンケートを実施している学科（機能物質化学科）や別の基準で選考している学科（都市工学科）もある。

<数理科学科>

数理科学科FDグループ会議における多角的検討の結果、アンケート項目における満足度が、学生による対象評価科目の状況を最もよく表しているという結論に達した。そこで今回も前回と同様に満足度を中心に検討した。大学院開講科目、特別研究、数学講究及び卒業研究、回答数が14以下の科目は対象外の取り扱いとした。今回対象とした科目の最低回答数は20である。

授業改善のため選ばれた2名の教員による講習会を4月以降の早い時期に行う。講習会とは別に、授業に関する工夫などをまとめた文書を数理科学科教員全員へ配布する。

<物理科学科>

共通アンケートを利用した科目について学科全体で集計を行い、アンケートの全項目において平均点と標準偏差を計算し、各項目で平均点の高い順に3科目ずつと標準偏差、最高スコアと最低スコアの差を表にして全教員に配布した。ベスト3にリストされた科目の担当教員は他の教員の求めがあれば、授業参観の受入、資料の提供などを通じて授業改善に資する情報を提供することが取り

決められている。

<知能情報システム学科>

共通アンケート実施科目について学科集計を実施し、満足度（D項目）の上位科目を教室会議にて報告した。

<機能物質化学科>

卒業予定者対象アンケートの中で、在学中印象に残った授業科目を調査した。結果を、教員毎に纏め、上位2名の教員をベストプロフェッサーとして表彰している。

<機械システム工学科>

「佐賀大学理工学部機械システム工学科教育顕彰に関する申し合わせ」（平成20年12月3日改正）を設定している

前年度に実施された学生による授業評価アンケートの授業内容および授業方法に関する設問において最も高い評価を受けた科目と当該教員を選出する

選出された科目を、学科会議メンバーが参観をし、アプローチシートに優れている点を記載する。

顕彰された教員に対し、副賞として教育用図書等購入費が贈呈される。

顕彰された教員は、学科ホームページに選出過程とともに氏名、顔写真が掲載される

<電気電子工学科>

授業評価アンケートのB授業内容および授業方法、C教員の対応、D満足度および受講者数、合格率を総合的に判断して行った。また、該当科目の教員の講義を、平成21年度前期に公開する予定である。

<都市工学科>

学科で授業評価アンケート結果を集計し、学生から高い評価を得ている授業科目を選考する作業は行っていない。これは、学生による授業評価結果の解釈と選考の要否について学科で合意が得られていないことによる。

4. 農学部

学生の単なる人気投票に陥らないためには、個別授業評価の授業に対する満足度に偏らず、授業内容への興味が増したか、授業内容の理解度、予習復習の状況等複数の基準を総合して、あるいは複数の選考基準において並列選考する必要もあると考えられる。

また、個々の授業を履修している際に調査した結果と卒業時あるいは卒業後社会に出てから、学生自らが過去を俯瞰しての評価が異なる場合も多い事が示唆されている事から、今後は、卒業時、あるいは卒業生等の意見を積極的に収集することも重要であると考えられる。

更に、大人数に対して行う講義科目より、少人数で行う実験科目等の方が総じて満足度が高い傾向にあるので、これらの点について、講義のあり方のみならずアンケートの実施方法についても考慮する必要がある。

5. 教養教育運営機構

現在当機構では、この項目に対する明確な選考基準の確定に至っておらず、機構内の、部会教員会議、企画委員会、教務委員会、FD委員会、運営委員会、協議会等で、実施可能な選考基準およびそのFD活動への効果的な活用法を検討中である。

なお、表彰教員（第2号）の選出は卒業・修了予定者アンケートを使用して行った。

IV 授業改善の取り組み状況に係る優れた点及び改善を要する点

1. 文化教育学部および教育学研究科

文化教育学部および教育学研究科において、これまでと同様にそれぞれ組織別授業評価を実施した。しかしながら、この組織別評価結果をどのように授業改善やカリキュラム改善につなげていくかについては検討の余地がある。

複数の教員で実施されている授業科目では、アンケートの評価が曖昧になることが危惧される。

非常勤講師によるアンケート未実施が少なからず存在しているため、学生による授業評価の実施をこれまで以上に周知したい。

アンケートを回収する際に教員が回収に関与しない、といった基本的な方策の改善が望まれる。

2. 経済学部および経済学研究科

優れた点として、つぎの4点があげられる。第一に、講義・演習を含むすべての科目について科目別授業評価アンケートの対象としている点である。第二に、演習のようにすべての教員に共通する科目についてのFD研究会を行い、内容の充実を図っている点である。第三に、科目別授業評価アンケートとは別に教員が独自に学生の意見聴取を行っている例がある点である。最後に、科目別授業評価アンケートの結果を、カテゴリ別（講義、演習）、に集計し、学部全体としての傾向を捉え、組織的な改善への取り組みを始めている点である。

とくに、経済学研究科に限っていえば、留学生と学部長の懇談会を実施し、留学生の意見を聴取している点や社会人学生の教育についてFD研究会を行うなど、大学院特有のニーズに沿うような改善の取り組みを行っている点も優れた点として挙げられる。

つぎに、改善を要する点として、つぎの2点があげられる。第一に、科目別授業評価アンケートの結果を改善に結びつけるためのシステムが確立していない点である。第二に、演習についても原則として共通の科目別授業評価アンケート書式を利用しており、演習独自の授業改善のために有益な授業評価ができていない点である。

3. 理工学部および工学系研究科

優れた点：

理工学部

(1) 授業評価アンケートの集計とその利用に積極的な取り組みを実施している。これらの活動に学科内の教育関連委員会が活発に機能している様子が伺える（全学科）。さらに、アンケート等の分析から、授業改善に着手している（知能情報システム学科、機械システム工学科、電気電子工学科等）。活発な教員個々の取り組みと、それら活動結果の共有化も軌道に乗っている（都市工学科、知能情報システム学科）。

(2) JEBEE受審学科においては、社会の要請を教育プログラムに反映させるため、卒業生など学外関係者に対して独自アンケートを実施している。

工学系研究科

(1) 工学系研究科でも授業評価アンケートの実施と点検、改善への取り組みがほとんどの専攻で行われている。特別コース用に英文の共通アンケート様式も整備された。

(2) 理工学部と同様に、全ての授業科目の分析を行っている専攻（物理科学専攻）や、アンケートの分析からカリキュラムを改訂している専攻もある（知能情報システム学専攻、都市工学専攻、機械システム工学専攻、電気電子工学専攻等）。

改善すべき点：

理工学部

(1) 授業改善の取り組みは概ね良好である。今年度から卒業研究の授業評価アンケートが、指導教員単位で行われた。この様小人数教育、複数教員担当科目など、共通アンケートを利用するのが適切でない科目の意見聴取の方法を検討すべきであろう。

(2) 講義科目の評価が実験や実習科目より低く、学生は参加型の授業に積極的な態度を見せること、自己学習指導方法など、個別の改善目標に取り組むことが望まれている。

工学系研究科

(1) 大学院科目は受講生の少ない科目が多く、共通アンケート形式に依らない大学院独自の意見聴取方法と内容を検討する必要がある。

(2) 博士後期課程の授業は LiveCampus で管理されていないため、アンケートの実施や授業評価分析・評価報告書の作成が徹底していない。システム上の問題点を含めて改善に取り組むべきである。

(3) 博士後期課程において、授業評価アンケート結果の活用と議論の場をを確立する必要がある。

各学科、専攻の取り組みは以下のとおりである。

理工学部

<物理科学科>

授業評価アンケートの集計とその利用に全学科で独自の取り組みを実施している。具体的には、学科内での共通アンケート全科目を集計し、各教員に配布した

<知能情報システム学科>

以下のような改善をおこなった。

「卒業研究」評価の客観性を高めるために、卒業研究評価方法を定め、主査 1 名および副査 2 名で評価することにした。この卒業研究評価方法は学生にも公開されている。

平成 19 年度におこなった企業アンケートの結果に基づき、1 年～3 年次にもプレゼンテーション能力が身に付けられるよう、いくつかの科目で学生にプレゼンテーションを義務づけた。

学科 BBS を新設し、学生からの要望や学生情報、講義情報を共有し、オンライン会議も可能になるようにした。

開講前点検・閉講後点検・FD 報告を継続的に行なっており、上記学科 BBS を通じて、これらの情報をいつでも教員が参照できるようにした。

教員間でシラバスの記入項目に差がないよう学科共通のシラバステンプレートを定めた。

卒業式当日、卒業生に対して学習内容に関するアンケートを実施した。

改善を要する点：本年度定めた卒業研究評価方法やシラバステンプレートなどについては、教員によって若干その解釈に差が生じてしまったことがあげられる。

<機能物質化学科>

学科教員全員が所属する分野別教員会議と、それらを取りまとめる教育プログラム委員会、そして教育活動の点検を行う教育FD委員会が機能的に活動している。教育システム上の問題点が学科全体で議論され、改善されるシステムが軌道に乗っている。

実験科目や卒業研究の授業評価のため、平成19年度から独自アンケートを作成し、実施している。また、JABEEプログラムである機能材料化学コースの修了生に対しては、プログラム全体についてアンケートを実施している。この中で、学科の教育改善システムであるPDCAサイクルを紹介し、これについての意見も聴取している。

授業改善の取り組みは積極的に行われているが、その分析方法の確立が次の課題と思われる。

<機械システム工学科>

優れている点：改善勧告の基準を明確にし、組織的な改善がなされている。

FD委員と協議し、当該セメスターの専門教育科目に対する学生による授業評価アンケートにおいて次の2項目において平均が1点台と評価された教員を選ぶ。

声の大きさ・明瞭さは適切だった(1, 2, 3, 4, 5の5段階評価)

話す速さは適切だった(1, 2, 3, 4, 5の5段階評価)

学科長は勧告記録を保管する。

勧告記録は、JABEE実地審査における開示資料とする。

改善を要する点：講義の評価と比較して、実験や実習および卒業研究の評価が総じて高くなっている。すなわち、学生自らが積極的に参加できるような形態でありかつ、学生個々に対して先生またはTAが直接指導できるような形態の科目が、学生の知識修得にとって大切であるということを示している。そこで、今後は、学生自らが参画し問題を自ら解決するような科目を作る必要があるか考える。

<電気電子工学科>

電気電子工学科では平成19年度より教員間のピア授業参観を行い、授業参観レポートで教員の間からみた授業改善点の洗い出しを行っている。また、学科内に教育改善委員会を設置し、留年問題、定員過剰の問題、学期毎の成績評価の確定、JABEEコース一本化、分野分けの廃止と学習内容指導など教育改善に関

する議論を行ってきたが、平成 20 年度後半に開催回数が少なかった。

<都市工学科>

授業担当教員が個々に様々な工夫して改善を行っている。組織的な対応としては学科・専攻内に設けた教育システム委員会で意見交換を行い情報の共有化を図り改善活動の一助としている。

改善を要する点として、“予習、復習の実施状況が良くない”、“復習の効果が反映されなかった”、“要点が押さえられていない”、“授業内容への興味/関心が低い”と言った事柄が共通した改善を要する点である。これに対して、“講義資料のダウンロードシステムを導入して予習強要する”、“宿題量の増加”、“講義内容の単元毎に試験を実施する”、“講義の始めに授業の要点や狙いを述べる”、“資格試験の問題を引用し意識を高める”等の改善が行われた。宿題の解答の板書や要点整理により若干理解度が高まった。TA による個別指導や資格試験関連の問題利用は、動機づけの助けとなることが分かった。

工学系研究科博士前期課程

<機能物質化学専攻>

平成 20 年度から始まったカリキュラムから専門基礎科目が導入された。これらの授業に対し、平成 20 年度の授業評価アンケートで数々の改善すべき点が、指摘された。これらの事項に関し、機能物質化学専攻の分野別教員会議にて、専門の近い教員グループによる授業の改善を行った。

<物理科学専攻>

授業評価アンケートの集計とその利用に全学科で独自の取り組みを実施している。具体的には、学科内での共通アンケート全科目を集計し、各教員に配布した。

<機械システム工学専攻>

優れている点：機械工学の基礎を担う科目を必修とし、より高度な専門科目への導入教育を明確にしたこと。

改善を要する点：導入教育に対する学生の評価がさほど高くない。

<電気電子工学専攻>

平成 20 年度よりカリキュラムを変更し、これまで過剰であった講義数が整理され、受講する学生にも分かりやすくなったと考えられる。また、学生の自己学習能力、デザイン能力、研究推進能力の向上のため、平成 21 年度より新たに

5つの必修科目を開講するカリキュラム改善を行った。また、学部と同様に学科内に教育改善委員会を設置し、修士新カリキュラムにおける特別研究廃止に伴う、授業科目の増加と上記の特別研究類似科目の設定など教育改善に関する議論を行ってきたが、平成20年度後半に開催回数が少なかった。

<知能情報システム専攻>

カリキュラムを再構成し、必修科目を設定して基礎的な学力を強化するようにした。改善を要する点としては、初年度であったため手探り的に実施した内容の改善があげられる。

<都市工学専攻>

授業担当教員が個々に様々な工夫して改善を行っている。組織的な対応としては学科・専攻内に設けた教育システム委員会で意見交換を行い情報の共有化を図り改善活動の一助としている。

改善を要する点として、“分かり易さの工夫が足りない”，“ノート記載量が説明のフォローが出来ない”，“採用した教材選びに対する不満”と言った意見が学生から寄せられている。理解度が低いことが共通した改善を要する点である。英語教材の採用やゼミ形式によるディスカッションの導入が背景にあると考えられる。これに対して，“ノート取得に配慮した要点説明”，“英文テキストの音読導入”，“実務トピックスの紹介”等の改善が行われた。合格率の若干の向上や満足度の向上が見られた科目もある。

<循環物質工学専攻>

平成20年度から始まったカリキュラムから専門基礎科目が導入された。これらの授業に対し、平成20年度の授業評価アンケートで数々の改善すべき点が、指摘された。これらの事項に関し、循環物質工学専攻の分野別教員会議にて、専門の近い教員グループによる授業の改善を行った。

<生体機能システム制御工学専攻>

優れている点：機械工学の基礎を担う科目を必修とし、より高度な専門科目への導入教育を明確にしたこと。

改善を要する点：導入教育に対する学生の評価がさほど高くない

工学系研究科博士後期課程

<生体機能システム制御工学専攻>

改善を要する点：多くの学生が後期博士課程に進学し、研究や工学的な問題

解決に没頭できるような道を確立すべきであろう。そのためにも授業やカリキュラムを改善するというよりは、後期博士課程在籍者に対する金銭的支援および後期博士課程修了者のスムーズな就職を支援するシステムの整備が大切と考える。

4. 農学部および農学研究科

優れた点：

多くの科目についての調査結果から、授業に対する満足度と授業内容への興味、学生に対する対応等に相当の科目において満足を示す結果が得られており、農学部で行なわれている授業は、「学生の視点」から見て概ね良好であると考えられる。

改善を要する点：

授業に対する満足度、内容への興味、及び学生に対する対応などについては、正の相関が認められる一方、満足度と予習・復習の時間、授業内容の理解度、シラバスの活用状況等の間の相関は小さいことがデータからも示された。すなわち、アンケート結果の、満足度・興味のみを基に授業の最適化を行う事は、授業その物の陳腐化を招く事にもなりかねない。したがって、現行の授業評価アンケートの結果に基づいて、安易に授業内容および到達度を低く修正するといった対応を行うことは、学部全体のカリキュラムの崩壊を引き起こしかねないことから、慎重に対処すべきであり、予習・復習の時間の確保等、講義内容の理解度を設定した目標まで高めるための具体的な方策について早急に改善を行う必要がある。

優れた点：

農学研究科では少人数による授業科目が多いことから、満足度・理解度・興味・学生に対する対応ともに学部における授業科目より高い傾向にある。

改善を要する点：

外国人留学生向けの科目が多いことから、共通アンケート様式についても早急に留学生向けの英語版のフォーマットを作成する必要がある。

5. 教養教育運営機構

優れた点：

特になし

改善すべき点：

授業改善に対する取り組みとして、FD講演会の開催、授業評価アンケートの実施、TA実施報告書の作成、および授業点検・評価報告書のオンライン入力を行ったが、実施の過程で次の改善が必要となった。

授業評価実施方法の多様化

主題科目の中には、eラーニング形式の授業や、主題分野を横断した総合型講義が開講されているが、VOD (Video On-Demand)形式のeラーニング授業の場合、OCR用紙形式の授業評価アンケートは困難である。これらの授業形態にマッチした授業評価方法の整備が急務である。

授業評価・改善報告書の入力緩和複数教員によるオムニバス形式の場合、担当する全教員が名簿閲覧や改善報告を入力できるようにすれば、利便性、提出率向上両面で効果があると考えられる。成績に関しては、代表者入力はやむを得ないと考える。

V 次年度の授業改善目標

1. 文化教育学部および教育学研究科

文化教育学部

学生による授業評価はすべての科目を対象としている。そのため、共通アンケートを利用しなくても何らかの方法で学生の意見を聴取するよう、各教員に呼びかけたい。

教育実習に代表される学外で行われる授業に対してどのようにアンケートを実施するか、その結果をどのように活かせばよいのか、といった課題が残されている。これに関しては、学部の教育実習委員会と協議しながら方策を探ることにしている。

アンケートを実施すること自体に疑問を抱く教員が存在する。これに対しては有効な方策を検討したい。例えばアンケート結果を当該学期中に学生に還元し、その効果をみることも一方法であろう。

教育学研究科

小人数教育における学生の授業評価の方法が問題であるが、共通アンケートを用いずに何らかの方法で学生による授業評価を実施したい。

学部に比べて「学生による授業評価アンケート」実施率が低い。これを改善したい。

2. 経済学部および経済学研究科

科目別授業評価アンケートの結果にもとづき、FD 研究会を行うなど、組織的な改善の取り組みをさらに進める。演習については、共通アンケート以外の授業評価の書式・方法を検討する。その際、評価の公正さおよび学生の負担の軽減等に配慮する。研究科での講義は人数が多く、学部の演習と共通する特徴を持っているので、共通のアンケート以外の授業評価の書式・方法を検討する。

3. 理工学部および工学系研究科

理工学部

授業評価アンケートの実施は徹底され、全学科で独自の集計・分析がされており、各学科で評価の高い授業科目の情報を利用する試みを実施されている。

アンケート結果からカリキュラム改訂や学科レベルでの教育方法の改善に取り組んでいる状況である。さらにこれらの改善の点検・評価に取り組んでいきたい。

工学系研究科

特別研究や特別コース科目などの小人数教育における学生の授業評価の方法を議論し、アンケート実施を徹底する。平成19年度のカリキュラム改訂、教育課程の再編に関する教育効果の検証が必要である。博士後期課程授業での学生の意見収集方法を検討したい。

各学科・専攻の取り組みは下記のとおりである。

理工学部

<物理科学科>

レメディアル教育や補習授業の必要性が指摘されているが、その対策の1つとして e-Learning を利用する方法がある。本年度はいくつかの科目について実践された。また関係する講習会への参加者も増加した。次年度はさらに実践する教員が増えることを期待する。

<知能情報システム学科>

卒業研究評価方法やシラバステンプレートなどについて、教員によって解釈に差が生じないように解説文を整備し、次年度は全教員が同じ解釈の下で、授業や評価を実施できるようにする。また、卒業生に対するアンケートも実施し、授業やカリキュラム構成に反映させたい。

<機能物質化学科>

授業評価アンケートの分析方法について再度検討する。アンケートの分析結果による授業改善に学科全体で取り組みたい。

<機械システム工学科>

学生自らが参画し問題を自ら解決するような科目を3年次に新たに設ける。

<電気電子工学科>

教育改善委員会を定期的に開催し、講義科目全体の教育改善を図る。学生に対して、電気電子工学科開講科目全体に関するアンケートを行い、教育改善および教育評価に活用する。

科目分野別の委員会において、学習教育目標、シラバス、試験内容、評価方法の整合性のチェックを行う。

<都市工学科>

引続き“学生の予習、復習不足の解消”に向けた授業改善に取り組む。加えて、“学習の動機付け”を与えるような工夫を行う。

工学系研究科博士前期課程

<機能物質化学専攻>

授業評価アンケートの分析方法について再度検討する。アンケートの分析結果による授業改善に専攻全体で取り組みたい。

<物理科学専攻>

学部と比較して、専攻では独自アンケートを利用する科目の割合が多かった。今後はこれらの独自の取り組みに関する相互交流を深め、有効な方法を模索していきたい。

<機械システム工学専攻>

導入教育の必修化は、開始したばかりであり、講義内容がうまく整理されていないことが問題と考えている。そこで次年度以降、講義レベルを含め、講義内容をさらに精選する。

<電気電子工学専攻>

教育改善委員会を定期的に開催し、講義科目全体の教育改善を図る。学生に対して、電気電子工学専攻開講科目全体に関するアンケートを行い、教育改善および教育評価に活用する。

<知能情報システム専攻>

講義内容の改善を図る。

<都市工学専攻>

英語苦手意識の解消を目指して英語によるコミュニケーション能力の改善を図る。

<循環物質工学専攻>

授業評価アンケートの分析方法について再度検討する。アンケートの分析結果による授業改善に専攻全体で取り組みたい。

<生体機能システム制御工学専攻>

導入教育の必修化は、開始したばかりであり、講義内容がうまく整理されて

いないことが問題と考えている。そこで次年度以降、講義レベルを含め、講義内容をさらに精選する。

工学系研究科博士後期課程

＜システム生産科学専攻＞

学生が所定の年限で修了できるよう教育・研究指導することが基本であり、各指導教員は研究指導実績報告書の指導計画に基づいて改善を加えながら着実に遂行しているが、視野を広めるために異分野の授業科目履修を奨励する。

＜生体機能システム制御工学専攻＞

「基礎を充実させた反面、学生が研究に当てる総時間数が減る」ことを回避するため、多くの学生が後期博士課程に進学し、研究や工学的な問題解決に没頭できるような道を確認すべきであろう。そのためにもカリキュラムを改善するというよりは、後期博士課程在籍者に対する金銭的支援および後期博士課程修了者のスムーズな就職を支援するシステムの整備が大切と考える。

4. 農学部および農学研究科

学部：

- 1) 共通アンケートの実施率および回収率をさらに高める。回収されたデータの集計において、混乱が見られたことから、集計方法についても検討する必要がある。
- 2) 予習・復習の時間を確保するための方策を検討する。
- 3) 授業内容の難易度および到達目標についての再検討を行う。

大学院：

- 1) 共通アンケートの実施率および回収率を高める。
- 2) 留学生向け科目でのアンケート実施法について検討する。
- 3) 研究指導計画の作成とこれに基づいたきめ細かな指導を行う。

5. 教養教育運営機構

予備知識が異なる受講生に対する教授方法について、講演会の開催、FD委員会による検討、などにより教員の理解を深め、“学生中心”の授業を目指す。

ネット授業のアンケート項目に“満足度”を追加し、解析を深める。

おわりに

平成 20 年度は FD 活動が義務化された年であり、従来からの学生による授業評価の転換期と位置付けられる。その点では平成 20 年度の授業評価アンケートの実施率は前年度と同じ高い水準が維持されており、教員の FD 活動に対する意識もほぼ定着してきたと考えられる。しかしながら、佐賀大学の全教員がその趣旨を理解し、協力しているのかと問われれば、答えは否定的にならざるを得ない。平成 19 年度からは、各教員が「授業評価結果を用いた授業改善実施要領」に基づき、「授業点検・評価報告書」を提出するようになっているが、その提出率はアンケート実施率より低い。もちろん、この提出率だけを見て FD 活動全体を議論することはできないが、授業評価や授業改善に前向きでない教員がいることも確かである。今後、そのような教員にどのような働きかけを行うかが、課題である。また、最近数年の授業評価アンケート結果はほぼ同じ結果となっており、実質的な改善が進んでいないように感じられる。授業法における PDCA サイクルの実行が望まれる。その問題を解決するには、組織的な FD 活動をさらに発展させ、個々の教員の意識をさらに高める必要があると考える。

平成 20 年度にその方策の一つとして公開授業を開始した。各部局から選出された教員が行っている通常の授業を希望教員も受講し、自分の授業へ活用してもらうものである。教員の関心はまだ低いですが、徐々に公開授業数を増加し、さらに「大学コンソーシアム佐賀」との連携により FD 活動の活発化を図りたい。

さらに、本年度は授業の復習に取り組みやすくするために e ラーニングシステムを利用した LMS（ラーニングマネジメントシステム）の立ち上げ準備を行った。平成 21 年度から試行に入る。この授業法が広く利用されることを希望する。

平成 20 年度は FD 展開の助走期として多面的に取り組んできたが、今後は実を上げる活動へと進んでいかなければならない。本報告書がその方向を示唆するものになれば幸いである。

資料 1 授業評価結果を用いた授業改善実施要領

(趣旨)

第1条 佐賀大学学生による授業評価実施要領（平成18年6月27日制定。以下「授業評価実施要領」という。）第2条に定める個別授業評価及び組織別授業評価の結果は、授業評価実施要領に定めるもののほか、この要領の定めるところにより、授業の改善を通じて教育の質の向上に利用するものとする。

(報告)

第2条 授業を担当する教員（非常勤講師を含む。）は、授業科目ごとに実施する授業評価の結果及び授業の改善目標について、所定の期間内に定められた方法により個別授業点検・評価報告書として提出する。

2 学部又は学科等（以下「教育組織」という。）は、個別授業評価及び組織別授業評価の結果に基づき、次に掲げる事項について組織別授業点検・評価報告書を作成する。

- (1) 各種アンケートの学科等別及び授業科目別の集計結果
- (2) 各種アンケートの結果から総合的に判断して、学生から高い評価を得ていると教育組織が認定する授業科目
- (3) 個別授業評価に係る情報が一切ない授業科目
- (4) 教育組織の授業改善の取組状況に係る優れた点及び改善を要する点
- (5) 次年度の学部又は学科等の授業改善目標

(報告書等の利用)

第3条 教育組織の長は、前条第2項に定める組織別授業点検・評価報告書に基づき、必要に応じて教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策を講じるものとする。

2 前条第1項の個別授業点検・評価報告書及び同条第2項の組織別授業点検・評価報告書は、教育組織が実施する研修会等に利用し、オンラインで公表する。

3 前条第2項第2号に該当する授業科目における取組は、授業の改善に広く資するよう、教育組織が実施する研修会等又は公開授業により周知する。

附 則

- 1 この要領は、平成18年12月22日から実施する。
- 2 この要領は、当分の間、医学部及び医学系研究科において実施される授業評価には適用しない。

附 則

この要領は、平成20年2月8日から実施する。

資料 2 佐賀大学学生による授業評価実施要領

(趣旨)

第1条 授業改善を目的とする学生による授業評価(以下「授業評価」という.)の実施に関する事項は、この要領に定めるところによる。

(評価の実施)

第2条 授業を担当する教員(非常勤講師を含む.)は、授業科目毎に授業評価(以下「個別授業評価」という.)を実施する。

2 学部及び学科等の教育組織(以下「教育組織」という.)は、前項の個別授業評価等を分析し、教育組織毎に授業評価(以下「組織別授業評価」という.)を実施する。

(評価の支援)

第3条 大学は、授業評価の実施に必要な全学共通のアンケート用紙(以下「共通アンケート用紙」という.)を提供し、集計を行うなどの方法により、前条の授業評価の実施を支援する。

(個別評価結果の利用)

第4条 個別授業評価の結果は、授業担当者に提供し、授業担当者は、個別授業評価の結果を授業の改善等に利用するものとする。

2 前項の規定は、各授業担当者による評価結果の公表又は提供及び組織別授業評価のための集計を妨げるものではない。

3 個別授業評価の結果は、教員個人の評価には用いない。

4 個別授業評価の結果は、学生個人の成績評価に利用してはならない。

(組織別評価結果の利用)

第5条 教育改善のための調査研究を行う組織は、大学教育委員会の了承を得て、授業評価の結果を利用することができる。

(調査方法)

第6条 大学教育委員会は、個別授業評価のための共通アンケート用紙の様式その他の調査方法等について定める。

2 前項の規定は、教員又は教育組織が調査項目等を追加することを妨げるものではない。

(調査対象)

第7条 個別授業評価の対象となる授業科目は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 学部が開設する授業科目

(2) 教養教育運営機構が開設する授業科目

(3) 研究科が開設する授業科目

2 授業科目を開設する学部等(教養教育運営機構及び研究科を含む.)の長が、授業科目の特性により、共通アンケート用紙を用いて調査することが適切でないと判断した場合は、他の方法により調査することができるものとする。

3 第1項の各号に列記された授業科目以外の講習会等の評価については、実施組織の判断により、共通アンケート用紙を利用することができる。

(実施方法)

第8条 個別授業評価の実施，集計及び集計結果の公表の方法については，大学教育委員会 の議を経て，委員長が別に定める。

2 前項の規定は，教員又は教育組織が，独自の調査を実施することを妨げるものではない。

(雑則)

第9条 この要領に定めるものの他，授業評価の実施に関して必要な事項は，大学教育委員会 の議を経て，委員長が定める。

附 則

1 この要領は，平成18年10月1日から実施する

2 この要領は，当分の間，医学部・医学系研究科には適用しない。

資料 3 学生による授業評価アンケート様式

学生による授業評価アンケート

〈佐賀大学〉

このアンケートは、授業の改善に役立てる事を目的として実施するものです。回答は無記名で行い、その内容を成績評価に用いることは一切ありません。また、授業に当てはまらない質問は「該当しない」と回答し、どうしても回答しにくい質問については記入する必要はありません。皆様のご意見は、今後の授業に生かされますので、率直にお答え下さい。

授業科目コード	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
入学年度（西暦年を記入して下さい。）	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>					
学部学科・課程・研究科・専攻等コード	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	選修・コース・系等コード	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
学部学科・課程・研究科・専攻等コード及び選修・コース・系等コードは、裏面を参照して下さい。									
記入例 <input type="text" value="1"/> <input type="text" value="2"/> <input type="text" value="3"/> <input type="text" value="4"/> <input type="text" value="5"/> <input type="text" value="6"/> <input type="text" value="7"/> <input type="text" value="8"/> <input type="text" value="9"/> <input type="text" value="0"/>									

〈記入上の注意〉

- この用紙は折り曲げたり、汚したりしないこと。
- 記入の方法及びマークの方法
 - H B程度のエンピツ、シャープペンシル等を使用すること。
 - 枠をはみ出さないように記入すること。
 - 記入しなおす場合は、拭いた方をきれいに消すこと。

正しい例…… ① ② ③

悪い例…… ① ② ③, ① ② ③

この授業科目をあなたはどうか考えますか。以下の各項目それぞれについて、該当する番号を1つ選んでマークして下さい。

A. あなた自身について

A-1 出席率はどのくらいですか。

		20%未満	30~40%未満	40~60%未満	60~80%未満	80%以上
A-1	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤
		0時間	1時間未満	2時間未満	3時間未満	3時間以上
A-2	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤
A-3	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤
		説明がなかった。	全く把握していない。	把握していない。	どちらともいえない。	少しは把握している。
A-4	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
A-5	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	

A-2 予習を毎週の程度していますか。

A-3 復習を毎週の程度していますか。

A-4 この授業の学習目標を把握している。

A-5 この授業の成績評価基準を把握している。

B. 授業内容及び授業方法

B-1 この授業の内容は理解できる。

B-2 この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた。

B-3 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である。

B-4 教材（テキスト、配布資料、その他）はわかりやすかった。

B-5 シラバスは学習する上で役に立っている。

B-6 授業内容はシラバスに沿っている。

B-7 声の大きさ・明瞭さは適切だった。

	該当しない わからない。	全くそうは 思わない。	そうは思わ ない。	どちらとも いえない。	そう思う。	全くそのと おりだと思 う。
B-1	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
B-2	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
B-3	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
B-4	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
B-5	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
B-6	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
B-7	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
	該当しない わからない。	かなり速い。	少し速い。	丁度良い。	少し遅い。	かなり遅い。
B-8	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
B-9	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	

B-8 話す速さは適切だった。

B-9 授業の進む速さは適切だった。

C. 教員の対応

C-1 授業をわかりやすくする工夫が感じられる。

C-2 学生の質問に適切に対応してくれている。

	該当しない わからない。	全くそうは 思わない。	そうは思わ ない。	どちらとも いえない。	そう思う。	全くそのと おりだと思 う。
C-1	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
C-2	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	

D. 満足度

D-1 この授業を受講して満足が得られた。

	該当しない わからない。	全くそうは 思わない。	そうは思わ ない。	どちらとも いえない。	そう思う。	全くそのと おりだと思 う。
D-1	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	

E. 指定項目①(この部分は教員の指示に従って記入して下さい。)

E-1

E-2

E-3

E-4

E-5

	該当しない わからない。	全くそうは 思わない。	そうは思わ ない。	どちらとも いえない。	そう思う。	全くそのと おりだと思 う。
E-1	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
E-2	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
E-3	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
E-4	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	
E-5	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤	

F. 指定項目②(この部分は教員の指示に従って記入して下さい。)

F-1

F-2

F-3

F-4

F-5

	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤
F-1	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤
F-2	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤
F-3	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤
F-4	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤
F-5	<input type="radio"/> ①	<input type="radio"/> ②	<input type="radio"/> ③	<input type="radio"/> ④	<input type="radio"/> ⑤

この授業科目について気づいたことがあれば、何でもお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

学部・学科・ 課程コード	学部名称	学科等名称	学部・学科・ 課程コード	学部名称	学科等名称	学部・学科・ 課程コード
		文化教育学部	学校教育課程	10	理工学部	機械システム工学科
	国際文化課程		11	電気電子工学科		58
	人間環境課程		12	都市工学科		59
	経済学部	美術・工芸課程	13	農学部 (’05以前入学者)	生物生産学科	70
		経済システム課程	35		応用生物科学科	71
	医学部	経営・法律課程	36	農学部 (’06以降入学者)	応用生物科学科	72
		医学科	41		生物環境科学科	73
		看護学科	42		生命機能科学科	74
	理工学部	数理科学科	53	その他学部生	上記に属さない学部生	80
		物理科学科	54	その他	科目等履修生等	91
		知能情報システム学科	55			
		機能物質化学科	56			

学部・学科・ 課程コード	学部・学科名称	選修・コース・系等名称	選修・コース・ 系等コード	学部・学科名称	選修・コース・系等名称	選修・コース・ 系等コード
	選修・コース・系等コード	文化教育学部 学校教育課程	教育学選修	1	経済学部	企業経営コース
教育心理学選修			2	経営・法律課程	法務管理コース	34
障害児教育選修			3	理工学部	物質化学コース	51
数学選修			4	機能物質化学科	機能材料化学コース	52
理科選修			5	理工学部 都市工学科 (’06以降入学者)	都市環境基盤コース	53
音楽選修			6		建築・都市デザインコース	54
教科教育選修			7	農学部	生産科学系	71
文化教育学部 国際文化課程		日本・アジア文化選修	11	生物生産科学科 (’05以前入学者)	環境情報工学系	72
		欧米文化選修	12		応用生物学系	73
文化教育学部 人間環境課程		生活・環境・技術選修	21	農学部 応用生産科学科 (’05以前入学者)	生物化学系	74
		健康福祉・スポーツ選修	22	農学部 生物環境科学科 (’06以降入学者)	生物環境保全学コース	75
文化教育学部 美術・工芸課程		美術・工芸選修	23		資源循環生産学コース	76
経済学部 経済システム課程		国際経済社会コース	31		地域社会開発学コース	77
	総合政策コース	32	その他学部生	上記に属さない学部生	99	

研究科・専攻等コード	研究科名称	専攻等名称	研究科・専攻 等コード	研究科名称	専攻等名称	研究科・専攻 等コード	
	研究科・専攻等コード	教育学研究科	学校教育専攻	15	工学系研究科(博 士前期課程)	機能物質化学専攻	60
教科教育専攻			16	物理科学専攻		61	
経済学研究科		金融・経済政策専攻	37	機械システム工学専攻		62	
		企業経営専攻	38	電気電子工学専攻		63	
医学系研究科 (修士課程)		医科学専攻	43	知能情報システム学専攻		64	
		看護学専攻	44	数理科学専攻		65	
医学系研究科 (博士課程)		機能形態系専攻	45	都市工学専攻		66	
		生体制御系専攻	46	循環物質工学専攻		67	
		生態系専攻	47	生体機能システム制御工 学専攻		68	
農学研究科		生物生産学専攻	75	工学系研究科(博 士後期課程)		エネルギー物質科学専攻	95
		応用生物科学専攻	76			システム生産科学専攻	96
連合農学研究科		77	生体機能システム制御工 学専攻		97		

資料 4 共通様式以外のアンケート様式

<平成 19 年度実施の医学部のアンケート>

学生による授業評価アンケート I (講義科目)

※5桁の場合は左づめで記入すること
8桁の場合は初めの0を省略

実施年月日：平成 年 月 日

氏名	
----	--

授業科目名	
-------	--

※ 学 籍 番 号							
<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>
<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>
<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>
<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>
<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>
<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>
<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>
<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>
<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>
<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>

〔注 意 事 項〕

- 1) 折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
- 2) 記入にはHBの黒鉛筆を使用して下さい。
- 3) 訂正はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
- 4) < > の枠をはみ出さないようにぬりつぶして下さい。



1. この授業に関して、あなた自身を5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で自己評価した数値をマークして下さい。	高 い	やや 高 い	中 間	やや 低 い	低 い
1) 講義に対する出席の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
2) 復習や関連事項の自己学習の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
3) 授業内容の修得、理解度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>

2-1. この授業科目全般の内容について5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で評価した数値をマークして下さい。	高 い	やや 高 い	中 間	やや 低 い	低 い
1) この授業に対する総合的満足度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
2) あなたが感じたこの教科目の重要性の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
3) 授業内容に対して抱いた興味程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
4) 講義の編成や内容における一貫性、統合性の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
5) 講義の工夫、講義資料等の活用・有効性の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
6) この授業に対する配分時間の妥当性	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>

2-2. 上記の評価に関連して、以下の項目で該当するものがあれば（複数選択可）、その記号をマークして下さい。		
<A> 学習要項(シラバス)と講義の内容が一致していない	 講義の内容がばらばらである	<C> 講義内容に無意味な重複がある
<D> 一方的な講義で追いついていけない	<E> 講義資料が分かりにくい	<F> スライド、OHPなどが分かりにくい
<G> 講義内容が多すぎる	<H> 授業時間が多すぎる	<I> もっと授業時間を増やして欲しい
<J> 現行より早い時期に開講して欲しい	<K> 現行より遅い時期に開講して欲しい	

2-3. この授業科目について、上記以外で改善すべきと思うことを書いて下さい。

.....

.....

2-4. この授業科目について、よかったと思うことを書いて下さい。

.....

.....

学生による授業評価アンケートⅢ（PBL授業科目）

※5桁の場合は左づめで記入すること
8桁の場合は最初の0を省略

実施年月日：平成 年 月 日

氏名	
----	--

授業科目名	
-------	--

〔注意事項〕

- (1) 折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
- (2) 記入にはHBの黒鉛筆を使用して下さい。
- (3) 訂正はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
- (4) ◁▷の枠をはみ出さないようにぬりつぶして下さい。

良い例
 悪い例 ◁▷
 ◁▷
 ◁X▷
 ◁▷

※学 籍 番 号									
<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>
<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>
<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>
<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>
<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>
<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>
<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>
<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>
<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>
<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>

1. この授業に関して、あなた自身を5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で自己評価した数値をマークして下さい。	高 い	やや 高い	中 間	やや 低い	低 い
1) 講義に対する出席の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
2) 復習や関連事項の自己学習の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
3) 授業内容の修得、理解度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>

2-1. この授業科目全般の内容について5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で評価した数値をマークして下さい。	高 い	やや 高い	中 間	やや 低い	低 い
1) この授業に対する総合的満足度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
2) あなたが感じたこの教科目の重要性の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
3) 授業内容に対して抱いた興味の種類	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
4) 講義の編成や内容における統一性、統合性の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
5) シナリオに対する興味の種類	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
6) この授業に対する配分時間の妥当性	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>

2-2. 上記の評価に関連して、以下の項目で該当するものがあれば（複数選択可）、その記号をマークして下さい。		
<A> 講義の内容がばらばらである	 講義内容に重複がある	<C> 講義内容が少なすぎる
<D> 講義分担教官が多すぎる	<E> シラバスが統一されていない	<F> シナリオが複雑すぎる
<G> シナリオが単純すぎる	<H> もっと授業時間を増やして欲しい	<I> もっと実習時間を増やして欲しい
<J> 現行より早い時期に開講して欲しい	<K> もっと遅い時期に開講して欲しい	

2-3. この授業科目について、上記以外で改善すべきと思うことを書いて下さい。
.....

2-4. この授業科目について、よかったと思うことを書いて下さい。
.....

※このアンケートと成績は関係ありません。

学生による授業評価アンケートⅡ（実習科目）

※5桁の場合は左づめで記入すること
8桁の場合は初めの0を省略

実施年月日：平成 年 月 日

氏名	
授業科目名	

〔注意事項〕

- (1) 折り曲げたり、汚したりしないで下さい。
- (2) 記入にはHBの黒鉛筆を使用して下さい。
- (3) 訂正はプラスチック消しゴムで完全に消して下さい。
- (4) < > の枠をはみ出さないようにぬりつぶして下さい。



※ 学 籍 番 号						
<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>
<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>
<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>
<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>
<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>
<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>
<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>
<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>
<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>
<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>

1. この実習に関して、あなた自身を5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で自己評価した数値をマークして下さい。	高	やや高い	中	やや低い	低
	い	い	間	い	い
1) 実習に対する出席の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
2) 復習や関連事項の自己学習の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
3) 実習内容の修得、理解度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>

2-1. この実習全般の内容について5段階（5高い・4やや高い・3中間・2やや低い・1低い）で評価した数値をマークして下さい。	高	やや高い	中	やや低い	低
	い	い	間	い	い
1) この実習に対する総合的満足度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
2) あなたが感じたこの実習の重要性の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
3) 実習内容に対して抱いた興味の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
4) 実習の編成や内容における一貫性、統合性の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
5) 実習の工夫、実習書や配布資料の活用・有効性の程度	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
6) この実習に対する配分時間の妥当性	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>
7) 実習環境の充実性	<5>	<4>	<3>	<2>	<1>

2-2. 上記の評価に関連して、以下の項目で該当するものがあれば（複数選択可）、その記号をマークして下さい。
<A> 学習要項(シラバス)と実習の内容が一致していない 実習内容が多すぎる <C> 実習時間が多すぎる <D> もっと実習時間を増やして欲しい <E> 現行より早い時期に開講して欲しい <F> もっと遅い時期に開講して欲しい <G> もっと指導教官を増やして欲しい <H> 実習書が分かりにくい <I> 機材が不足している <J> グループの人数が多すぎる

2-3. この実習について、上記以外で改善すべきと思うことを書いて下さい。
.....

2-4. この実習について、よかったと思うことを書いて下さい。
.....

資料 5 ネット授業アンケート様式

■アンケート入力フォーム

タイトル: ネット授業事後アンケート(平成20年度前期)

☆本アンケートの内容は次の通りです。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

[質問1] 今までに受講したネット授業科目のすべてをチェックしてください。(この科目及び今学期選択の他の科目も含む)(1)(必須)

※複数選択可能 ●受講している科目ごとに、回答してください。

- a. 人間社会とコミュニケーション
- b. 21世紀のエネルギーと環境問題
- c. 暮らしの中の生命科学
- d. わかりやすい機構学
- e. チャレンジ佐賀学
- f. 知的財産学
- g. セラミックスの不思議
- h. 芸術と表現(映画制作論)または(映画製作)
- i. 芸術と表現(デジタル表現技法)
- j. 芸術と表現(有田焼入門)
- k. 芸術と表現(画像へのアプローチその背景と視点)
- l. 地域の環境—森・川・海を繋ぐ環境と暮らし—
- m. 佐賀環境フォーラム
- n. 英語で学ぶ佐賀学
- o. 英語<早瀬博範>
- p. ここ(1)にある科目は受講していない

[質問2] 今までに受講したネット授業科目のすべてをチェックしてください。(この科目及び今学期選択の他の科目も含む)(2)(必須)

※複数選択可能 ●受講している科目ごとに、回答してください。

- a. 有明海学2
- b. チャレンジ・ベンチャービジネスⅡ(平成18年度開講分)
- c. 基礎簿記
- d. 簿記・会計
- e. シンクロトロン光応用工学特論
- f. 超短波長光利用科学技術工学特論
- g. 動物遺伝育種学特論
- h. ここ(2)にある科目は受講していない

[質問3] 学部は?(必須)

- a. 文化教育学部
- b. 経済学部
- c. 理工学部
- d. 農学部
- e. 医学部
- f. 工学系研究科
- g. 農学系研究科

[質問4] 学年は?(必須)

- a. 1年

- b. 2年
- c. 3年
- d. 4年

[質問5] 性別は？(必須)

- a. 女性
- b. 男性

[質問6] 個人で所有するパソコンをもちますか？(必須)

- a. はい、自分専用のパソコンを持っています
- b. はい、家族所有の自分も使えるパソコンを持っています
- c. いいえ、持っていません

[質問7] インターネットに加入していますか？(必須)

- a. はい
- b. いいえ

[質問8] 質問6で、「はい」と答えた方は、自分のパソコンで受講できましたか？

- a. はい
- b. いいえ、はじめから大学で受講するつもりでした
- c. いいえ、受講したくても自分のパソコンではできませんでした

[質問9] 質問7で、「はい」と答えた方は、どのような回線を利用していますか？

- a. ISDN回線
- b. ADSL回線
- c. CATV回線
- d. Bフレッツなどの光回線
- e. その他
- f. わからない

[質問10] 上記で「その他」を選択された方は、その通信環境をご記入ください。

a. |

[質問11] 質問8で、「いいえ、受講したくても自分のパソコンではできなかった」と答えた方は、受講できなかった理由を選択してください。

※複数選択が可能

- a. 回線が遅い
- b. 聴講するための設定ができなかった
- c. 家族所有なので、聴講のために占有できなかった
- d. その他

[質問12] 上記で「その他」を選択された方は、その理由をご記入ください。

a. |

[質問13] ネット授業の受講経過について選択してください。(必須)

- a. すべての講義を最後まで受講し、レポートなども提出した
- b. 一応すべての講義を聞いた
- c. 受講を開始したが、途中からやめた

- d. ほとんど、又はまったく、受講しなかった

[質問14] あなたのパソコンスキルについて教えてください。(必須)

- a. まったく初めて
 b. 小中高の授業で使ったことがある
 c. 受講に差し支えない程度には使える
 d. パソコンのトラブルに対処できるくらい得意

[質問15] 今回受講した場所の頻度を、総計100%で配分してください。(必須)

※下記5項目の合計が100%になるように、それぞれを10%単位で選択

- 0% a. 総合情報基盤センター(本庄)
0% b. 総合情報基盤センター(鍋島)
0% c. 図書館(本庄)
0% d. 図書館(鍋島)
0% e. 経済学部の第二情報演習室
0% f. その他学内
0% g. 自宅
0% h. 友達の家
0% i. その他学外
0% j. ほとんど聴講せず

[質問16] 上記で「その他学内」「その他学外」で受講した方は、その場所などをご記入ください。

a. _____

[質問17] 学内で聴講してスムーズに聴けた場所を選択してください。(必須)

※複数選択が可能

- a. 総合情報基盤センター(本庄)
 b. 総合情報基盤センター(鍋島)
 c. 図書館(本庄)
 d. 図書館(鍋島)
 e. 経済学部の第二情報演習室
 f. eラーニングスタジオ
 g. ゼミ室・研究室
 h. その他
 i. 学内ではほとんど聴講せず
 j. なし

[質問18] 上記で「その他」を選択した方は、その場所についてご記入ください。また「ゼミ室・研究室」を選択した方は、さしつかえなければその場所についてご記入ください。

a. _____

[質問19] 学内で聴講してスムーズに聴けなかった場所があれば選択してください。(必須)

※複数選択が可能

- a. 総合情報基盤センター(本庄)
 b. 総合情報基盤センター(鍋島)
 c. 図書館(本庄)
 d. 図書館(鍋島)

-
- e. 経済学部の第二情報演習室
- f. eラーニングスタジオ
- g. ゼミ室・研究室
- h. その他
- i. 学内ではほとんど聴講せず
- j. なし

[質問20] 上記で「その他」を選択した方は、その場所についてご記入ください。また「ゼミ室・研究室」を選択した方は、さしつかえなければその場所についてご記入ください。

a. |

[質問21] ネット授業の受講中、該当するものがあれば、選択してください。

※複数選択が可能

- a. 映像が途中で止まって、何回も始めから見直したことがある
- b. 講義がなかなか聴けなくて、期限が迫りレポートのみ提出したことがある
- c. 質問したが、先生から直ぐに回答がなく、不満に思ったことがある
- d. レポート提出期限が過ぎても、採点してもらえず不満に思ったことがある
- e. レポートを提出したことが自分でチェックできず、不安に思ったことがある
- f. ネット授業に関するトラブルの質問メールを送ったが、対応が遅く不満に思ったことがある
- g. アルバイトなどの都合で、いつでも聴けるネット授業は非常に便利だと痛感したことがある
- h. その他

[質問22] 上記で「その他」を選択された方は、お気づきの点をご記入ください。

a. |

[質問23] 同じ講義を平均で何回聴きましたか？(必須)

- a. 1回
- b. 2回
- c. 3回以上
- d. 0回

[質問24] 上記で、「2回以上」の場合、その理由は？

※複数選択可能

- a. 聴き落とした箇所を、確認するため
- b. レポートを書く時に、内容確認のため
- c. システムトラブルのため、已む終えず
- d. 試験前に、復習のため
- e. その他

[質問25] 操作方法について(必須)

- a. 講義を聴く操作方法は容易だった
- b. 難しかった
- c. どちらともいえない

[質問26] ガイダンス内容について(必須)

- a. ネット授業受講のガイダンスが十分
- b. 不十分であったので、受講に戸惑った
- c. どちらともいえない

[質問27] ヘルプ(マニュアル)について(必須)

- a. ヘルプ(マニュアル)は役に立った(よく利用した)
- b. ほとんど読まなかった
- c. どちらともいえない

[質問28] ヘルプ(マニュアル)内容について(必須)

- a. ヘルプ(マニュアル)の記述はわかりやすかった
- b. わかりにくかった
- c. どちらともいえない

[質問29] ヘルプ(マニュアル)の改善策があればご記入ください。

a. |

[質問30] 画面の表示形式について(必須)

- a. 受講し易かった
- b. 受講し難かった
- c. どちらともいえない

[質問31] 音声について(必須)

- a. 音声は聞き取りやすかった
- b. 聞き取りにくかった
- c. どちらともいえない

[質問32] 映像について(必須)

- a. 先生の映像は見やすかった
- b. 見づらかった
- c. どちらともいえない

[質問33] 文章、図、表などの静止画像について(必須)

- a. テキスト、図、表は見やすかった
- b. 見づらかった
- c. どちらともいえない

[質問34] 講義内容について(必須)

- a. 講義内容は面白かった
- b. 期待はずれであった
- c. どちらともいえない

[質問35] 講義内容について(その2)(必須)

- a. 講義内容は分かりやすかった
- b. 専門的過ぎて難しかった
- c. どちらともいえない

[質問36] 談話室について(必須)

- a. 談話室を利用したことがある
- b. 利用したことがない
- c. どちらともいえない

[質問37] 談話室について(その2)(必須)

- a. 談話室の利用方法は分かった
- b. 利用方法が分からなかった
- c. どちらともいえない

[質問38] 科目について(必須)

- a. ネット授業で別の科目も受講したい
- b. ネット授業では2度と受講したくない
- c. どちらともいえない

[質問39] 講義方法として、従来の対面式の授業と比べ理解しやすさは、(必須)

- a. 非常に良かった
- b. 良かった
- c. 普通
- d. 悪かった
- e. 非常に悪かった

[質問40] 授業内容の難易度は、(必須)

- a. 非常に良かった
- b. 良かった
- c. 普通
- d. 悪かった
- e. 非常に悪かった

[質問41] 講義のための資料(プレゼンテーションなど)は、(必須)

- a. 非常に良かった
- b. 良かった
- c. 普通
- d. 悪かった
- e. 非常に悪かった

[質問42] 講義の進め方(スピード)は、(必須)

- a. 非常に良かった
- b. 良かった
- c. 普通
- d. 悪かった
- e. 非常に悪かった

[質問43] 従来の対面式授業と比べて質問のしやすさは、(必須)

- a. 非常に良かった
- b. 良かった
- c. 普通
- d. 悪かった
- e. 非常に悪かった

[質問44] 授業に対する先生のフォローは、(必須)

- a. 非常に良かった
- b. 良かった
- c. 普通
- d. 悪かった
- e. 非常に悪かった

[質問45] ネット授業で反復できる(何度でも聴ける)点は、(必須)

- a. 非常に良かった
- b. 良かった
- c. 普通
- d. 悪かった
- e. 非常に悪かった

[質問46] ネット授業がいつでも、どこでも受講できる点は、(必須)

- a. 非常に良かった
- b. 良かった
- c. 普通
- d. 悪かった
- e. 非常に悪かった

[質問47] 従来の授業と比べて、ネット授業でのあなたの熱心度(集中度)は、(必須)

- a. 非常に良かった
- b. 良かった
- c. 普通
- d. 悪かった
- e. 非常に悪かった

[質問48] これまでに受講した対面授業のうち、ネット授業化されれば受講してみたいという科目があれば記入してください。

※いくつか構いません。例えば、英語や情報基礎概論など。カリキュラムにない新しい科目(受けて見たい科目)でも可。

- a. _____
- b. _____
- c. _____
- d. _____

[質問49] その他、ネット授業の改善要望や今回のネット授業の評価について、自由にご記入下さい。

a. _____

[質問50] ネット授業の科目を履修登録したにもかかわらず、ほとんどまたはまったく受講しなかった方は、その理由を選択してください。

- a. ネット授業とは知らずに履修登録した
- b. ネット授業がどんなものか試してみたかっただけ
- c. 履修登録の修正(取り消し)をし忘れた

- d. 他の授業で単位がとれたので、履修をやめた
- e. 授業についていけそうになかったので、履修をやめた
- f. 毎回のレポート課題がたいへんなので、履修をやめた
- g. ネット環境が悪くて授業が見れないので、履修をやめた
- h. その他

[質問51] 上記で「その他」を選択された方は、その理由をご記入ください。

a. |

入力が終わりましたら、内容確認ボタンを押してください。

内容確認

クリア

キャンセル

資料 6 項目の基礎集計表

<学部 平成 20 年度前学期>

A-1:出席率はどのくらいですか。

	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
文化教育学部	0.12	0.21	1.17	10.42	87.95	0.13
経済学部	0.88	0.88	3.29	14.16	80.60	0.19
理工学部	0.15	0.19	1.05	7.08	91.39	0.14
農学部	0.18	0.18	0.61	6.18	92.74	0.11
教養教育運営機構	0.28	0.30	1.24	9.32	88.14	0.72

A-2:予習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
文化教育学部	67.65	23.26	4.54	1.24	2.53	0.78
経済学部	73.02	19.55	4.53	1.24	1.39	0.27
理工学部	51.18	35.93	8.08	2.01	2.59	0.20
農学部	62.04	27.09	5.68	1.97	3.07	0.14
教養教育運営機構	65.46	24.21	5.39	1.38	1.33	2.24

A-3:復習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
文化教育学部	61.72	29.95	4.19	1.13	2.04	0.97
経済学部	68.02	25.71	3.90	0.80	1.17	0.39
理工学部	37.61	43.91	11.68	2.58	3.73	0.49
農学部	45.10	41.78	8.51	1.82	2.50	0.29
教養教育運営機構	63.61	28.74	3.65	0.78	0.89	2.33

A-4:この授業の学習目標を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	1.07	1.58	4.75	24.57	56.44	11.09	0.49
経済学部	0.83	3.95	7.53	31.51	45.36	10.16	0.66
理工学部	0.81	4.08	9.02	35.21	43.15	6.52	1.21
農学部	0.93	2.25	5.36	29.70	53.29	8.01	0.46
教養教育運営機構	1.47	4.39	10.03	33.60	42.64	6.82	1.05

A-5:この授業の成績評価基準を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	1.10	1.30	4.90	21.97	56.47	13.56	0.71
経済学部	0.61	3.39	7.26	26.57	46.23	15.04	0.90
理工学部	0.65	2.74	6.20	28.71	48.29	11.93	1.48
農学部	1.07	2.32	5.11	26.02	52.47	12.33	0.68
教養教育運営機構	1.07	3.49	8.98	26.86	47.09	11.22	1.29

B-1:この授業の内容は理解できる。

	該当しないわけではない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思える	なし
文化教育学部	0.34	1.23	4.70	17.72	63.20	12.65	0.16
経済学部	0.41	2.71	8.58	23.81	54.72	9.43	0.34
理工学部	0.34	3.81	12.60	33.88	43.63	4.87	0.88
農学部	0.43	1.50	7.51	28.06	54.86	7.40	0.25
教養教育運営機構	0.67	2.69	7.55	24.87	53.95	9.39	0.87

B-2: この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	0.31	1.66	6.07	21.66	51.38	18.66	0.25
経済学部	0.34	3.68	9.14	27.91	45.55	12.97	0.41
理工学部	0.45	5.19	13.91	38.40	34.35	6.54	1.16
農学部	0.54	1.64	7.72	27.09	49.71	12.87	0.43
教養教育運営機構	0.67	4.29	9.56	29.03	43.42	11.99	1.05

B-3: 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	7.73	2.01	7.45	30.21	41.56	10.25	0.78
経済学部	2.53	3.80	11.46	33.95	37.68	10.02	0.56
理工学部	2.48	4.72	12.23	37.58	35.48	6.29	1.22
農学部	7.22	1.86	8.40	29.34	44.17	8.51	0.50
教養教育運営機構	6.06	3.36	9.76	33.48	36.86	7.91	2.59

B-4: 教材(テキスト、配布資料、その他)はわかりやすかった。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	7.68	1.24	4.79	27.72	46.22	11.47	0.87
経済学部	4.83	2.63	8.73	34.05	39.68	9.29	0.80
理工学部	2.40	3.83	12.27	40.71	33.51	6.10	1.18
農学部	8.15	2.29	8.68	34.17	39.24	7.04	0.43
教養教育運営機構	9.66	2.79	8.13	34.03	36.08	6.88	2.42

B-5: シラバスは学習する上で役に立っている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	27.00	2.75	5.52	34.45	24.35	5.48	0.45
経済学部	23.45	3.92	6.99	37.14	22.74	5.31	0.44
理工学部	12.58	5.10	10.77	43.38	22.36	4.61	1.20
農学部	26.55	3.25	7.54	39.31	19.62	3.25	0.46
教養教育運営機構	19.60	5.16	10.71	42.33	17.22	3.44	1.53

B-6: 授業内容はシラバスに沿っている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	31.07	0.89	1.66	29.26	30.13	6.50	0.47
経済学部	28.05	1.17	2.32	32.49	28.27	7.07	0.63
理工学部	18.65	1.66	3.23	36.72	32.14	6.34	1.26
農学部	32.02	0.89	2.54	32.95	26.95	4.00	0.64
教養教育運営機構	26.98	1.36	2.97	36.54	25.67	4.82	1.67

B-7: 声の大きさ・明瞭さは適切だった。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	0.62	1.03	4.98	14.40	57.83	20.65	0.49
経済学部	0.51	1.44	4.00	17.16	53.74	22.47	0.68
理工学部	1.28	2.84	7.14	24.76	51.16	11.54	1.28
農学部	3.79	1.54	5.00	17.41	57.26	14.44	0.57
教養教育運営機構	1.08	1.91	5.86	19.00	52.88	18.03	1.25

B-8: 話す速さは適切だった。

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	1.21	0.11	1.64	86.06	8.97	1.29	0.72
経済学部	0.95	0.37	1.19	80.45	14.09	2.05	0.90
理工学部	2.32	0.39	2.00	78.47	12.88	2.34	1.60
農学部	4.18	0.32	1.07	80.52	11.90	1.22	0.79
教養教育運営機構	1.83	0.56	1.96	80.94	11.05	2.02	1.63

B-9: 授業の進む速さは適切だった。

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	2.01	0.27	2.51	84.15	8.56	1.48	1.01
経済学部	1.73	0.44	2.75	78.72	13.45	1.61	1.29
理工学部	2.37	0.47	2.03	72.20	17.31	3.69	1.93
農学部	4.25	0.32	1.89	74.30	15.98	2.39	0.86
教養教育運営機構	2.55	0.76	3.21	76.46	12.53	2.62	1.87

C-1: 授業をわかりやすくする工夫が感じられる。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	1.74	1.42	4.87	22.03	55.95	13.40	0.59
経済学部	5.53	2.12	5.75	26.88	47.94	11.07	0.71
理工学部	1.71	3.70	9.47	34.45	43.08	6.17	1.42
農学部	1.11	1.39	5.43	28.73	53.50	9.44	0.39
教養教育運営機構	2.46	2.63	7.03	29.77	47.63	9.12	1.35

C-2: 学生の質問に適切に対応してくれている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	6.42	0.82	2.46	19.38	52.63	17.62	0.66
経済学部	18.50	1.02	1.78	25.05	38.58	14.01	1.05
理工学部	5.70	2.05	4.49	30.74	45.54	9.91	1.58
農学部	4.29	0.43	2.75	24.70	53.25	13.83	0.75
教養教育運営機構	9.81	1.33	3.30	27.76	43.96	12.28	1.57

D-1: この授業を受講して満足が得られた。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
文化教育学部	0.72	1.77	4.74	19.65	49.26	18.59	5.26
経済学部	0.93	2.75	5.63	26.32	44.33	14.11	5.92
理工学部	0.88	4.10	9.13	36.15	36.93	6.56	6.25
農学部	0.39	1.61	4.97	28.09	47.86	11.83	5.25
教養教育運営機構	0.92	3.63	7.02	27.69	43.06	12.93	4.75

<学部 平成 20 年度後学期>

A-1:出席率はどのくらいですか。

	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
文化教育学部	0.11	0.23	0.94	12.56	86.02	0.15
経済学部	0.47	0.84	2.28	12.70	83.65	0.06
理工学部	0.26	0.25	1.45	8.43	89.54	0.08
農学部	0.13	0.13	0.54	5.71	93.34	0.13
教養教育運営機構	0.46	0.47	1.84	12.15	84.94	0.13

A-2:予習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
文化教育学部	67.33	21.86	5.40	1.80	3.19	0.41
経済学部	69.10	22.50	5.15	1.40	1.72	0.12
理工学部	50.38	33.96	9.15	2.41	3.89	0.20
農学部	68.10	24.47	3.90	1.34	1.92	0.27
教養教育運営機構	63.38	25.71	6.25	1.39	1.48	1.79

A-3:復習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
文化教育学部	61.73	29.99	4.18	1.18	2.45	0.47
経済学部	67.23	26.56	3.78	0.75	1.50	0.19
理工学部	38.71	42.00	11.10	3.16	4.78	0.26
農学部	54.45	36.57	5.04	0.87	2.72	0.34
教養教育運営機構	64.08	28.77	3.37	0.72	1.16	1.90

A-4:この授業の学習目標を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	0.89	1.41	4.06	21.00	59.93	12.32	0.39
経済学部	1.00	3.90	6.77	26.53	47.63	13.76	0.41
理工学部	0.61	3.32	6.97	33.36	47.04	7.72	0.97
農学部	0.50	2.59	4.71	26.55	55.39	9.68	0.57
教養教育運営機構	0.77	3.56	7.69	30.51	47.93	9.23	0.31

A-5:この授業の成績評価基準を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
文化教育学部	1.07	1.33	4.02	18.96	58.19	15.86	0.56
経済学部	0.78	2.68	5.68	22.53	47.16	20.54	0.62
理工学部	0.56	2.42	4.80	27.51	50.43	12.98	1.30
農学部	0.67	2.08	3.50	22.66	55.93	14.45	0.71
教養教育運営機構	0.69	2.47	5.48	24.44	52.12	14.30	0.51

B-1:この授業の内容は理解できる。

	該当しない わからない	全くそうは 思わない	そうは思わ ない	どちらとも いえない	そう思う	全くその通り だと思う	なし
文化教育学部	0.23	0.92	4.07	14.71	65.94	14.03	0.11
経済学部	0.41	2.62	7.27	21.88	56.02	11.67	0.12
理工学部	0.41	2.97	10.29	31.92	47.78	5.93	0.70
農学部	0.37	1.65	7.13	26.62	57.01	7.06	0.17
教養教育運営機構	0.52	2.35	6.03	22.01	57.71	11.25	0.13

B-2: この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思	なし
文化教育学部	0.20	1.53	4.68	19.67	53.38	20.38	0.17
経済学部	0.47	3.28	8.36	25.12	47.00	15.48	0.28
理工学部	0.37	4.03	11.02	36.13	39.54	7.98	0.94
農学部	0.37	1.61	6.89	24.61	53.14	13.18	0.20
教養教育運営機構	0.31	2.75	8.01	27.69	46.98	14.04	0.22

B-3: 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思	なし
文化教育学部	8.52	2.04	6.82	26.80	43.50	11.73	0.59
経済学部	3.31	3.59	11.05	31.27	38.45	11.86	0.47
理工学部	3.54	3.55	9.57	36.49	37.83	8.13	0.89
農学部	4.87	2.39	8.24	28.54	46.62	8.61	0.74
教養教育運営機構	5.91	2.29	7.94	31.85	40.16	9.25	2.61

B-4: 教材(テキスト、配布資料、その他)はわかりやすかった。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思	なし
文化教育学部	7.72	1.42	4.37	25.12	48.33	12.44	0.61
経済学部	3.59	2.43	7.27	31.27	42.85	12.14	0.44
理工学部	3.51	3.19	9.80	40.04	35.96	6.55	0.95
農学部	5.75	2.05	6.92	34.22	42.32	8.13	0.61
教養教育運営機構	7.34	2.10	6.92	32.10	40.56	8.50	2.48

B-5: シラバスは学習する上で役に立っている。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思	なし
文化教育学部	29.46	2.44	4.18	31.12	25.95	6.46	0.39
経済学部	21.91	4.18	7.05	37.23	21.85	7.33	0.44
理工学部	13.05	4.15	9.07	43.14	25.05	4.68	0.87
農学部	26.15	2.99	5.24	38.99	21.71	4.50	0.40
教養教育運営機構	19.86	3.60	7.98	41.13	20.65	5.36	1.43

B-6: 授業内容はシラバスに沿っている。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思	なし
文化教育学部	32.36	0.57	1.47	26.06	31.76	7.49	0.29
経済学部	26.22	1.00	1.87	32.80	27.68	9.68	0.75
理工学部	17.69	1.36	3.05	36.10	34.53	6.26	1.00
農学部	31.90	0.97	1.31	30.66	28.97	5.75	0.44
教養教育運営機構	24.82	0.99	2.49	35.62	28.20	6.13	1.74

B-7: 声の大きさ・明瞭さは適切だった。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思	なし
文化教育学部	0.92	1.00	4.12	12.50	58.89	22.33	0.24
経済学部	0.62	1.44	4.49	15.86	51.97	24.97	0.66
理工学部	1.98	2.19	5.54	23.59	52.30	13.54	0.86
農学部	1.31	1.14	5.48	18.05	58.02	15.73	0.27
教養教育運営機構	0.54	1.36	4.47	17.76	54.96	20.46	0.45

B-8: 話す速さは適切だった。

	該当しない・ わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	1.18	0.24	1.79	87.20	7.82	0.92	0.85
経済学部	0.81	0.62	1.34	80.56	13.55	2.43	0.69
理工学部	2.90	0.55	1.49	79.81	11.92	2.04	1.28
農学部	1.61	0.30	1.14	84.97	10.12	1.04	0.81
教養教育運営機構	0.98	0.28	1.60	84.84	10.06	1.58	0.66

B-9: 授業の進む速さは適切だった。

	該当しない・ わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
文化教育学部	1.77	0.33	2.78	84.04	8.69	1.33	1.06
経済学部	1.50	0.81	3.03	77.43	13.83	2.62	0.78
理工学部	2.89	0.47	1.79	73.96	16.10	3.33	1.45
農学部	2.25	0.37	1.78	78.66	14.39	1.82	0.74
教養教育運営機構	1.60	0.48	3.54	81.42	10.22	1.88	0.85

C-1: 授業をわかりやすくする工夫が感じられる。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思	なし
文化教育学部	1.23	1.36	4.02	18.46	58.63	15.71	0.59
経済学部	2.84	2.18	5.81	24.66	50.44	13.42	0.66
理工学部	1.79	3.25	6.84	32.63	46.93	7.35	1.22
農学部	1.78	1.31	5.14	25.71	55.80	9.58	0.67
教養教育運営機構	1.59	1.86	5.18	26.56	53.37	10.67	0.76

C-2: 学生の質問に適切に対応してくれている。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思	なし
文化教育学部	4.99	0.80	1.91	16.25	54.61	20.71	0.73
経済学部	12.70	0.91	2.18	23.35	43.16	16.82	0.87
理工学部	4.26	2.03	3.24	29.52	48.54	10.94	1.47
農学部	5.92	0.87	2.59	21.41	53.92	14.59	0.71
教養教育運営機構	8.46	1.17	2.47	26.26	47.33	13.42	0.89

D-1: この授業を受講して満足が得られた。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思	なし
文化教育学部	0.35	1.47	3.93	17.07	51.48	20.37	5.34
経済学部	0.69	2.65	5.49	23.81	45.47	16.29	5.59
理工学部	0.66	3.46	7.58	33.65	40.25	8.10	6.30
農学部	0.47	1.34	4.61	23.29	51.23	12.54	6.52
教養教育運営機構	0.51	2.39	5.52	24.29	47.07	14.19	6.03

<平成 20 年度医学部アンケート結果>

講義に対する出席の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	2.22	4.96	23.73	21.20	47.89	0.00
実習科目	0.06	0.34	4.07	6.42	89.00	0.11
講義科目	0.31	0.87	5.22	13.10	80.43	0.07
全科目	0.86	2.06	11.01	13.57	72.44	0.06

復習や関連事項の自己学習の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.63	4.54	47.57	31.75	15.51	0.00
実習科目	0.29	1.83	29.80	40.52	27.39	0.17
講義科目	1.11	4.95	37.51	37.01	19.32	0.10
全科目	0.67	3.77	38.29	36.42	20.74	0.09

授業内容の修得、理解度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.53	5.38	54.64	28.06	11.39	0.00
実習科目	0.40	2.46	29.80	44.47	22.58	0.29
講義科目	0.71	5.26	38.32	40.03	15.50	0.18
全科目	0.55	4.37	40.92	37.52	16.49	0.15

授業内容に対して抱いた興味の種類

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.63	1.48	29.54	36.92	31.22	0.21
実習科目	0.34	1.83	20.63	40.29	36.68	0.23
講義科目	0.28	1.72	21.00	41.61	35.27	0.12
全科目	0.42	1.68	23.72	39.60	34.39	0.19

授業に対する総合的満足度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.42	2.11	35.02	39.35	22.89	0.21
実習科目	0.29	1.55	18.28	43.90	35.76	0.23
講義科目	0.34	1.96	21.58	45.04	31.04	0.04
全科目	0.35	1.87	24.96	42.76	29.90	0.16

教科科目の重要度の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.11	0.42	21.84	31.33	46.10	0.21
実習科目	0.34	1.83	20.63	40.29	36.68	0.23
講義科目	0.12	0.65	13.19	37.33	48.67	0.04
全科目	0.19	0.97	18.55	36.32	43.81	0.16

講義の編成や内容における一貫性, 統合性の程度

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	0.63	5.17	43.04	31.54	19.41	0.21
実習科目	0.34	2.18	23.67	40.92	32.66	0.23
講義科目	0.43	2.51	29.67	39.90	27.30	0.21
全科目	0.47	3.28	32.12	37.45	26.46	0.22

授業に対する配分時間の妥当性

	低い	やや低い	中間	やや高い	高い	なし
PBL科目	2.22	7.59	42.93	27.74	19.30	0.21
実習科目	1.78	5.16	30.77	33.70	28.31	0.29
講義科目	1.36	5.66	35.03	33.34	24.48	0.13
全科目	1.78	6.14	36.25	31.59	24.03	0.21

<大学院 平成20年度前学期>

A-1:出席率はどのくらいですか。

	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.56	2.79	96.66	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	1.49	97.01	1.49
工学系研究科	0.15	0.23	0.84	6.83	91.72	0.23
農学研究科	0.00	0.00	0.71	5.71	93.21	0.36

A-2:予習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
教育学研究科	26.18	40.67	13.65	7.52	11.98	0.00
経済学研究科	4.48	8.96	20.90	17.91	47.76	0.00
工学系研究科	41.33	40.34	11.12	2.84	4.14	0.23
農学研究科	39.29	31.79	14.29	7.86	6.07	0.71

A-3:復習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
教育学研究科	23.68	50.42	11.70	7.24	6.69	0.28
経済学研究科	2.99	17.91	23.88	16.42	37.31	1.49
工学系研究科	40.18	41.79	9.97	3.60	3.99	0.46
農学研究科	39.64	35.36	13.93	5.36	5.00	0.71

A-4:この授業の学習目標を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	0.00	0.00	2.23	12.26	56.82	27.86	0.84
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	26.87	73.13	0.00
工学系研究科	0.38	1.84	6.60	25.46	54.14	10.81	0.77
農学研究科	0.00	1.07	3.21	16.43	51.79	27.14	0.36

A-5:この授業の成績評価基準を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	0.00	0.28	3.62	19.78	48.47	27.02	0.84
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	1.49	26.87	71.64	0.00
工学系研究科	0.23	1.23	4.75	20.32	56.83	15.49	1.15
農学研究科	0.36	1.07	6.07	16.43	49.64	25.36	1.07

B-1:この授業の内容は理解できる。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.28	0.00	1.11	5.01	66.02	27.30	0.28
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	37.31	62.69	0.00
工学系研究科	0.23	1.46	8.05	27.84	54.52	7.59	0.31
農学研究科	0.71	0.00	1.43	12.86	66.43	18.57	0.00

B-2:この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.28	0.00	0.84	5.01	48.75	44.85	0.28
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	35.82	62.69	1.49
工学系研究科	0.31	2.45	7.44	29.06	48.70	11.50	0.54
農学研究科	0.36	0.00	1.43	10.36	57.86	30.00	0.00

B-3: 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	10.31	0.28	2.23	22.28	34.54	30.36	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	1.49	1.49	25.37	71.64	0.00
工学系研究科	3.37	2.15	6.52	34.20	42.79	10.12	0.84
農学研究科	4.64	0.36	2.50	12.50	50.71	29.29	0.00

B-4: 教材(テキスト、配布資料、その他)はわかりやすかった。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	4.18	0.00	1.11	13.37	47.08	34.26	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	5.97	25.37	68.66	0.00
工学系研究科	3.37	2.30	8.05	33.59	44.17	7.98	0.54
農学研究科	3.21	0.00	2.50	16.79	52.14	24.64	0.71

B-5: シラバスは学習する上で役に立っている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	16.99	0.84	3.34	19.50	35.38	23.40	0.56
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	4.48	29.85	65.67	0.00
工学系研究科	11.81	2.53	7.67	44.10	26.99	6.37	0.54
農学研究科	26.79	6.07	7.50	22.50	21.07	15.71	0.36

B-6: 授業内容はシラバスに沿っている。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	19.22	0.00	1.11	16.43	37.33	25.91	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	2.99	26.87	70.15	0.00
工学系研究科	15.34	0.77	2.30	33.36	38.80	8.74	0.69
農学研究科	32.50	1.79	0.36	20.71	27.50	16.43	0.71

B-7: 声の大きさ・明瞭さは適切だった。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	1.39	0.00	0.84	4.74	41.50	50.97	0.56
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	1.49	22.39	76.12	0.00
工学系研究科	0.61	0.77	2.68	17.02	62.96	14.95	1.00
農学研究科	1.43	0.00	0.00	8.21	58.93	31.07	0.36

B-8: 話す速さは適切だった。

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	0.84	0.00	0.56	86.91	7.80	2.51	1.39
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	73.13	7.46	19.40	0.00
工学系研究科	1.46	0.00	0.69	83.97	11.04	1.46	1.38
農学研究科	1.79	0.00	0.71	88.21	9.29	0.00	0.00

B-9: 授業の進む速さは適切だった。

	該当しない・わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	1.11	0.28	3.90	82.17	7.80	3.62	1.11
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	76.12	4.48	19.40	0.00
工学系研究科	2.07	0.08	1.46	76.69	13.96	4.14	1.61
農学研究科	2.14	0.00	2.14	89.29	6.43	0.00	0.00

C-1: 授業をわかりやすくする工夫が感じられる。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思う	なし
教育学研究科	0.84	0.00	0.56	8.91	47.08	42.62	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	29.85	70.15	0.00
工学系研究科	0.69	1.46	4.83	27.38	54.45	10.12	1.07
農学研究科	1.07	0.36	1.07	13.21	57.86	26.07	0.36

C-2: 学生の質問に適切に対応している。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思う	なし
教育学研究科	0.56	0.28	0.28	3.62	37.88	57.38	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	28.36	71.64	0.00
工学系研究科	4.83	0.61	1.38	25.08	53.37	13.42	1.30
農学研究科	1.43	0.00	0.36	15.00	54.29	28.57	0.36

D-1: この授業を受講して満足が得られた。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.28	0.28	3.90	39.00	52.65	3.90
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	1.49	28.36	68.66	1.49
工学系研究科	0.38	2.15	5.14	25.46	46.17	10.51	10.20
農学研究科	0.36	0.71	1.43	11.07	52.86	28.57	5.00

<大学院 平成20年度後学期>

A-1:出席率はどのくらいですか。

	20%未満	20-40%	40-60%	60-80%	80%以上	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.80	6.40	92.80	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	98.00	2.00
工学系研究科	0.00	0.22	0.67	8.01	90.77	0.33
農学研究科	0.00	0.00	1.39	5.56	93.06	0.00

A-2:予習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
教育学研究科	22.13	29.87	16.53	12.53	18.67	0.27
経済学研究科	0.00	26.00	24.00	10.00	38.00	2.00
工学系研究科	37.26	41.49	9.45	3.00	8.45	0.33
農学研究科	36.11	36.57	14.35	6.48	6.48	0.00

A-3:復習を毎週どの程度しましたか。

	0時間	1時間以内	2時間以内	3時間以内	3時間以上	なし
教育学研究科	20.80	44.27	12.27	8.80	13.60	0.27
経済学研究科	0.00	32.00	26.00	6.00	32.00	4.00
工学系研究科	29.03	44.61	13.01	4.12	8.68	0.56
農学研究科	37.50	40.74	12.04	4.17	5.56	0.00

A-4:この授業の学習目標を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.53	12.27	47.47	39.47	0.27
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	22.00	76.00	2.00
工学系研究科	0.22	0.89	2.67	14.35	61.85	19.69	0.33
農学研究科	1.85	0.00	1.85	8.33	52.31	35.19	0.46

A-5:この授業の成績評価基準を把握している。

	説明がなかった	全く把握していない	把握していない	どちらともいえない	少しは把握している	完全に把握している	なし
教育学研究科	1.07	0.53	1.87	17.87	42.67	35.73	0.27
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	2.00	22.00	74.00	2.00
工学系研究科	0.11	1.11	1.67	14.57	57.95	24.14	0.44
農学研究科	1.39	0.93	1.85	13.89	50.00	31.48	0.46

B-1:この授業の内容は理解できる。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.53	4.00	60.27	35.20	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	2.00	24.00	72.00	2.00
工学系研究科	1.45	0.67	3.45	21.80	60.73	11.57	0.33
農学研究科	0.93	0.00	0.46	6.48	72.69	19.44	0.00

B-2:この科目を受講してみて、内容への興味が増してきた。

	該当しない・わからない	全くそうは思わない	そうは思わない	どちらともいえない	そう思う	全くその通りだと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.00	2.13	42.67	54.67	0.53
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	24.00	74.00	2.00
工学系研究科	1.11	0.89	4.45	21.13	54.06	17.91	0.44
農学研究科	0.93	0.00	0.00	6.94	61.11	31.02	0.00

B-3: 黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思う	なし
教育学研究科	19.47	0.00	1.07	16.53	32.27	30.67	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	14.00	84.00	2.00
工学系研究科	6.01	1.00	5.01	21.13	51.50	14.68	0.67
農学研究科	9.26	0.46	0.93	14.35	49.07	25.46	0.46

B-4: 教材(テキスト、配布資料、その他)はわかりやすかった。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思う	なし
教育学研究科	6.13	0.27	1.07	7.73	45.33	39.47	0.00
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	12.00	86.00	2.00
工学系研究科	9.79	0.56	5.01	23.47	48.16	12.46	0.56
農学研究科	10.65	0.46	1.39	13.43	49.07	24.07	0.93

B-5: シラバスは学習する上で役に立っている。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思う	なし
教育学研究科	18.40	0.27	0.80	17.33	36.00	26.93	0.27
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	2.00	12.00	84.00	2.00
工学系研究科	15.13	1.89	5.23	35.37	34.37	7.34	0.67
農学研究科	28.70	5.56	7.87	25.46	22.22	9.72	0.46

B-6: 授業内容はシラバスに沿っている。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思う	なし
教育学研究科	19.47	0.00	0.00	12.80	37.33	30.13	0.27
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	2.00	24.00	72.00	2.00
工学系研究科	15.35	0.56	1.78	26.36	45.05	10.46	0.44
農学研究科	39.35	1.85	0.46	18.98	26.39	11.57	1.39

B-7: 声の大きさ・明瞭さは適切だった。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.80	3.73	39.20	55.73	0.53
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	8.00	90.00	2.00
工学系研究科	4.67	0.67	2.67	10.79	59.40	21.13	0.67
農学研究科	5.56	0.46	1.39	8.33	56.02	27.31	0.93

B-8: 話す速さは適切だった。

	該当しない・ わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	0.27	0.27	0.53	91.47	3.73	3.20	0.53
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	92.00	0.00	6.00	2.00
工学系研究科	6.12	0.22	0.67	82.20	8.57	1.11	1.11
農学研究科	5.56	0.00	0.00	84.26	6.94	2.78	0.46

B-9: 授業の進む速さは適切だった。

	該当しない・ わからない	かなり遅い	少し遅い	丁度良い	少し速い	かなり速い	なし
教育学研究科	0.80	0.27	1.33	89.07	4.27	3.47	0.80
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	92.00	0.00	6.00	2.00
工学系研究科	6.90	0.22	1.00	77.98	10.79	1.89	1.22
農学研究科	6.48	0.46	0.00	82.87	6.94	2.31	0.93

C-1: 授業をわかりやすくする工夫が感じられる。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思う	なし
教育学研究科	0.00	0.00	0.53	4.53	46.67	47.20	1.07
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	14.00	84.00	2.00
工学系研究科	4.78	0.56	2.34	19.80	55.84	15.80	0.89
農学研究科	4.63	0.00	0.93	9.26	64.81	18.98	1.39

C-2: 学生の質問に適切に対応してくれている。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思う	なし
教育学研究科	0.53	0.00	0.53	1.87	35.47	60.53	1.07
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	10.00	88.00	2.00
工学系研究科	5.12	0.22	0.78	16.02	54.95	22.02	0.89
農学研究科	1.39	0.00	0.93	7.41	63.43	25.00	1.85

D-1: この授業を受講して満足が得られた。

	該当しない・ わからない	全くそうは思 わない	そうは思わな い	どちらともい えない	そう思う	全くその通り だと思う	なし
教育学研究科	0.27	0.00	0.00	2.40	40.27	53.33	3.73
経済学研究科	0.00	0.00	0.00	0.00	16.00	82.00	2.00
工学系研究科	0.33	0.78	2.67	18.35	51.28	18.91	7.68
農学研究科	0.00	0.00	0.00	11.11	57.87	27.31	3.70

資料7 教員、授業科目別アンケート集計様式(レーダーチャート)

教員、授業科目別アンケート
レーダーチャート表

学生による授業評価アンケート

大学教育委員会委員長

教員氏名 _____
授業科目 _____
科目の属する学部 _____

実施日 平成19年 月 日

曜日 _____

校時 対象学生数 _____ /

